

秋田県退職校長会結成 50 周年記念

# 秋田の教育 あすを見つめて

「あきたブランド」創造の教師たち



秋田県退職校長会

---

## 巻紙に書いて...

日々の授業、それは時間の流れに沿った単なる教科の連続ではなく、「真の学び」を体験した児童の変容の連続である。

宮沢賢治作「やまなし」。五月（要約）。クラムボンがかぶかぶ笑い、つぶつぶの泡となって流れる。そこへ銀の色の腹をひるがえし魚がやってくる。クラムボンは死んだよ。殺されたよ。日光の黄金は夢のように水の中に降って、光の網が美しく伸びたり縮んだりした。・・・にわかに、天井に白い泡が立ち、コンパスのように黒くどがったものが飛び込み、魚の白い腹がぎらっと光って見えなくなりました。そいつは鳥だよ。かわせみというんだ。二匹のかには、怖がりました。しかし、川は元の静寂に戻り、川面には樺の花が流れ、花びらの影は静かに砂を滑りました。

（6年生の国語の教科書から）

本当の意味において「よい学び」が成立している授業は、その時間を終えた児童の顔に、表面的には静寂を取り戻し、何事もなかったかのように思えても、意味のある体験（真の「学び」：真理への到達）をした後のすがすがしい表情が見て取れるだろう。二匹の蟹の兄弟のように、生きるということの真実を強烈に体験することもあるだろう。良い授業、良い学び、良い体験、そこには教師による「かわせみの嘴のような、鋭利で光る『指差し（示唆）』」があるはずである。そして、児童には、跳び散る水滴の一粒一粒が、スローモーションのように、はっきり光って見えているのである。

2019.10.12.

天野史太郎

---

秋田県退職校長会結成 50 周年記念

# 秋田の教育 あすを見つめて

## 「あきたブランド」 創造の教師たち

秋田県退職校長会

## あいさつ

## 「あきた教育」は、もはやブランド

秋田県退職校長会 会長 佐藤 俊彦

令和元年（2019）、秋田県退職校長会は「結成50周年」を迎える。それを記念して、「記念誌」を作ることになった。昭和44年の結成当時からの50年というのは、「昭和の学力調査」が終わって間もない、「最下位からの脱却」が見え始めた余韻の残る時代から、「平成の学力調査」で全国トップ級へと大躍進した激動の50年になる。半世紀もの長きにわたって、自主的に努力し続けた秋田の教師たちの「授業力」は、私たちの「記録」と「記憶」の確かなうちにまとめておかねければ、秋田の教師たちの素晴らしい実績は残らない。秋田の児童生徒の大躍進時代を支えた秋田の教師の「自主研修の在り方」を探り、可視化した記録として残すことの意味は大きい。

昭和40年代は、秋田県教育委員会の指針で、「学ぶ主体が児童生徒であることを基底とし、個別学習を重視して、主体的に学ぶ態度を育てる指導に心掛ける事」を学力向上の主要な観点とされた。この秋田県の求める「教育の方向性」が明示されたことによって、全教育課程において、多くの教師たちが同じベクトルで、公開研究会や研究授業に打ち込むことが可能になった。

その頃、綺羅星のごとく、各学校や各教科研究会に「授業の達人」たちが輝きを放っていた。理科人、国語人、造形人など、一芸に秀でた職人を讃えるように、「〇〇人」という呼ばれ方をされていた。彼らは、学校や教科研究会で、チーム学校とかチーム〇〇教科で共同研究をし、提案授業をし、研究討議を繰り返して「授業力」を向上させていった。まるで、輝く星が集まって星座となり、天空高く瞬いているように、輝く教師たちが集まり、星座のように仲間と手を取りあって（同僚性）、協働・連携して「授業力」を磨き合う「学習する組織（星座群）」となった。

「学力調査」は、あくまでも一面的な学力の把握ではあるが、児童生徒の大躍進によって、秋田の教師への評価は高まった。同時に「あきた教育」は、ひとつのブランドになった。そして、今後も「秋田型探究学習」は、アクティブ・ラーニングの考え方を導いていこう。

## も く じ

|                    |    |               |       |
|--------------------|----|---------------|-------|
| あいさつ               | 1  | 第Ⅳ章 秋田県の教師の授業 |       |
| はじめに               | 2  | 語り継ぐ逸話・体験から   | 48    |
| 第Ⅰ章 秋田県の学習指導（授業風景） |    | 要 約           | 54    |
| の変遷                | 4  | 参考・引用文献       | 20、55 |
| 第Ⅱ章 学習指導に関する       |    | 謝 辞           | 55    |
| アンケート調査から得た        |    | 資料「アンケート結果」   | 56    |
| 秋田の教師たちの実態         | 21 |               |       |
| 第Ⅲ章 秋田の教育 あすを見つめて  |    | おわりに          | 62    |
| 「大切度」と「役立ち度」からの提言  |    | 研修委員会委員       |       |
|                    | 42 | 研修委員会開催歴      |       |

## は じ め に

平成 19 年度 (2007)、文部科学省が 40 数年ぶりに実施した「全国学力・学習状況調査」において、秋田県の児童生徒が全国上位の成績をとったというニュースは、秋田県内はもちろん全国を驚かせた。そればかりか、その後の「学力調査」においても力は維持され続け、令和元年度まで、12 回連続でトップ級を続けている。秋田の児童生徒の学力は、本物であるとマスコミ等でも報道された。

秋田県教育委員会は、少人数学習のための加配事業が功を奏したとか、家庭の協力が浸透していて、家庭学習など好ましい生活習慣が身についているなど、児童生徒を取り巻く状況が良いことを挙げた。

そのような状況の中、平成 20 年 4 月、都内の JR 電車内に掲示された広告の「秋田に学べ」というキャッチコピーが目をつけた。大手学習塾（栄光ゼミナール）の広告で、前年度の学力調査で 6 年生がトップの成績を取った秋田県にあやかって、この広告を 7,000 枚も印刷し、4 月末まで掲示したという。秋田の「何に学ぶのか」というと、小さな文字で次のように書かれていた。「全国学力テストで第 1 位（6 年生）の秋田県。少人数制の授業、早寝早起き、予習復習は自宅です。好成績を生んだ秋田の子どもたちの生活習慣に学びたいものです。」とあった。

なぜこのように大きな注目が集まったのかについては、もう一つ重大な理由がある。それは、あの「学テ闘争」で大問題となった、およそ 50 年前（昭和 30 年代）の文部省による「全国一斉学力調査（抽出）」において、秋田県が最下位であったことにある。それが半世紀を経て、奇跡ともいえるトップ級への躍進という結果に驚くとともに、誰しもがその理由について知りたがったのである。

文部科学省の施策（加配事業による少人数学級など）によって、学力が上がるというのであれば、全国どの県においても学力は向上するはずである。このような「枠組み的なもの」の比較では、この格差が何に起因しているのかという問題には迫ることはできない。児童生徒と教師による「教室内で展開されている質的な何か（授業のドラマ）」に焦点を当てた分析が大事であるとする。

その際、およそ 50 年にわたる「秋田の教育」において、秋田の児童生徒の成績を押し上げた理由について語る組織は、そう多くはない。秋田の教師たちの「価値ある研修」をできるだけ明らかに（文章化）し、まとめ上げることができるのは、この時代を悩みながら駆け抜けてきた者として、その「記憶」と「記録」をもっている「私たち秋田県退職校長会」が最も適している集団であるという考えに至った。

現在 80 歳代の会員は、昭和 30 年代には、すでに教職にあった方もいる。最下位の評価をされて、その後の指導法に悩んだことだろう。また、70 歳代の会員には、子ども時代に、全国学力テストを受けていた方もいる。子ども時代は最下位で、教員時代は全国 1 位という不思議な感覚の方もいる。60 歳代の方は、全国 1 位になってから、トップ級を維持するために頑張ってきた。その時代の社会の要請は様々であったが、秋田の児童生徒のために全力を尽くして寄り添ってきた

たことは疑いもない。

「全国一の児童生徒たち」のバックには「全国一の教師たち」が存在する。私たち退職校長会の総力を挙げて、その教師たちの授業力を培った「自主研修」を分析することこそが、「今後に生きる教員研修の方途」となり得ると考えたのである。

そこで、秋田県退職校長会の中に研修委員会を設置し、平成28年12月17日「第1回研修委員会」から、8名の研修委員で調査・分析を開始した。最初から熱を帯びた議論が続いたが、その論拠を得るために全県規模のアンケート調査を行い、現職教師と退職校長会員から自らの授業力を向上させた理由についてお聞きし、効果的であった研修について客観的に把握しようと考えたのである。

**「教師による自主研修の積み重ねが、全国上位維持を可能にしてきた重要な要因の一つであり、これからも秋田の学習指導を支えていくであろう」という仮説のもとで、「教師の自主研修」の有意性を明らかにしたいと考えた。そして、検証のエビデンスを得るため、秋田県退職校長会会報90号に掲載されてあるように、この度の調査をお願いした。調査に当たっては「大切度」と「役立ち度」の2つに絞って設問を設定した。**

教師の「自主研修」は、その教師自らの心の中から湧き上がる強い研修意欲によって始まり、日々の授業に生きるよう、指導方法の工夫・改善という方向で行われる。したがって、そこには「めざす方向」が存在するはずである。めざす子ども像、めざす学習、めざす指導などに向けて、不易と流行を勘案して最適の状況で実践されるのである。教師を取り巻く教育的な雰囲気も、大きな意味があるはずである。そうしたものを、秋田の児童生徒を全国上位に押し上げた「秋田の教師の授業力」として実像化し、将来に向かって増幅・維持されれば、今回の取り組みが果たされたことになる。

以上のように、今回まとめ上げられたものは、4年にわたる議論の成果であり、全県の現職・退職の教師の御協力による貴重な記録となった。これを機に「今後に生かす議論」が始まれば幸いである。



## 第Ⅰ章 秋田県の学習指導（授業風景）の変遷

戦後の昭和20年代の学校には、敗戦とともに教員の数が減り、師範卒の教員と代用教員が入り混じっていた。教員の質のばらつきがある中で行われていたのは経験主義の教育であった。

そして、教師たちの「授業」への関心は極めて低調だったという。それは、過度の経験重視による、論理性を欠いた「子ども放任の活動主義の時代だった」ともいわれている。

そこへきて、「全国学力調査」の実施。そして、全国最下位。多くの若い教師たちの「苦悩の道」が始まったといっても過言ではない。

### 1 全国学力調査における最下位からの脱却（昭和30年代）

昭和31年～41年まで、文部省による「全国学力調査」が行われた。最初の年度と翌年度、秋田県は全国最下位であった。県民は、啞然とした。東北地方共通の宿命であるかのように思い込んで、半ばあきらめの風潮さえあったという。また、特に秋田県の大半を占める農村地域の学力が低く、「農村教育の振興」が強く求められた。

さらに、指導主事の訪問指導も、「学力向上」に向けて厳しさを増していったといわれている。授業の進め方、板書・発問の仕方のほか、掲示物の位置、色彩・誤字・脱字に至るまで、微に入り細にわたり指摘されたそうである。<sup>1)</sup> 学力向上が、教育行政上の切実な課題であった。

昭和33年度、学力調査の結果は全国の最下位グループに低迷していたことから、県教育委員会は「学力向上対策に関する検討委員会」を設置するとともに、「基礎学力を高めるための要素表」及び「学力向上試案」などを提示して、学習指導の改善に努めた。

その後、県教育委員会の学力向上対策などにより、徐々に向上し始めるのであるが、その兆しは昭和38年ごろから見られ始め、昭和40年には全国の中位程度まで上昇した。そして昭和41年度に、全国学力調査は終わった。<sup>2)</sup>

その陰には、10年間、必死に頑張った学校現場の教師たちが存在したことを忘れてはならない。昭和31年度からの学力調査は、全国の小学校・中学校・高等学校から4～10%を抽出しての実施であったが、昭和36年（1961）に、中学校2年生と3年生の悉皆調査に拡大した。そして、県内中学校では、校内テストの回数と補習の時間が増えた。当時「お前たちは、墓に入るまで競争だ」と厳しく指導する教師も出るほどで、補習でのやる気を鼓舞していた。しかし一方で、農村ならではの「あきらめの雰囲気」の児童生徒に対して、「農村部でも、頑張り次第で都市部を超えることも不可能ではない」と励ます教師もいた。

全国学力調査の結果を得て、本県においては、全県の学校数のうち80%を占める農村地域の学力低迷に根拠があるかのような推論のもとに、「農村教育の振興」なくしては本県の学力向上は無いものと思いついていたようでもある。しかし、このテーマでの分析に手がつけられるまでには、10年の歳月を要することになるのである。（後述→p. 7）

## 2 秋田市小・中学校長会が先導したプログラム学習

昭和 20 年代の経験主義の教育から、昭和 30 年代に入って系統主義に立った授業実践への関心が高まった。「這い回る経験主義」からの脱却。「全国学力調査」によるショックから立ち上がらなければならない。それは、校長を始め、教師全員の願いであった。

そこで工夫されたのは、理論的に系統を押さえた指導により、確かな学力を身につけさせ、学力を向上させるという考え方だった。

昭和 30 年代半ばから、「プログラム学習」が、全国的な広がりを示す。本県でも、昭和 37 年、秋田市小・中学校長会が発起して「プログラム学習研修会」が全県規模で結成された。「新しい時代にふさわしい人間をつくるための教育技術として、プログラム学習に関する研究を進め、全国的な繋がりを得て、教育技術の構造改革に貢献したい」との主旨から、演示授業（スキナー方式の単線型プログラム）を取り入れた「第 1 回秋田県プログラム学習研究大会」が開かれた。県教育委員会、秋田市教育委員会、県校長会が後援するこの研究大会には、300 名ほどが集まったと言われている。<sup>3)</sup>

## 3 秋田県教育研究所の果たした役割

秋田県教育研究所は、昭和 30 年（1955）8 月に設置された。「秋田県教育史」<sup>4)</sup>によると、昭和 31 年度に文部省は「全国学力調査」を開始したが、秋田県の児童生徒の成績がかなり低いものであったため、県教育研究所は直ちに「学力向上対策に関するアンケート（全県小・中学校 10%抽出）」を行った。その結果として「学力向上対策の調査結果」についてまとめた中に、「学力向上を阻害しているもの」ということについて質問した結果が公表されている。それは、次の 6 点である。

- ① 教員の雑務が多い      ② 行事が多い      ③ 家庭が無関心である
- ④ 家庭の手伝いのために学習時間が不足である
- ⑤ 特別教室が無い      ⑥ 学級あたりの児童生徒数が多い

その後、これらの調査結果を踏まえ「学校教育指導の手引」を作成し配布した。

### （1）学力調査実施中の分析と対策

昭和 38 年度、本県の児童生徒の学力に「向上の兆し」が見え始めた。県教育研究所は、昭和 31 年度以降昭和 38 年度までの学力調査の結果を詳細に分析し、不振要因の克服と学力向上のための方法に関する資料「**学力を高めるために**」第Ⅰ集を作って配布した。昭和 39 年度には第Ⅱ集を、昭和 40 年には第Ⅲ集を発行した。<sup>5)</sup>

第Ⅰ集では、実態分析から学力不振の要因を捉えた。第Ⅱ集では、学力不振の要因について考察し、その解決策として学習指導の改善、効率化が重要であると結論づけた。第Ⅲ集では、「学習指導効率化」の具体策について提示した。

要約して述べると、**不振の要因**を次のように概括している。

- ① 家庭学習の貧困      ② こどもの学習意欲の低さ      ③ 教職員の研究に見られる問題
- ④ 学習指導の構えに見られるずれ      ⑤ 学習評価の態度と方法に見られる動揺      以上の 5

点において、先進県との間に明らかな格差が見られたという。

特徴的なことは、不振の要因を検討する際に、各教科の領域に見られる欠陥の修復という方法に至らなかったということである。その理由として考えられることは、不振要因を調査していく過程で、「本県の子どもたちは、知能指数に比較して、学力は低い状況にある」ということが分かったからであった。したがって、教師の質を高め指導の手を尽くす。この**学習指導の効率化によって、学力を高めることができる**と判断したのである。

前述したような学力不振の要因を取り除く計画を立てることから対策は始まった。そして、それを実行することによって、いずれはこれが学力向上の要因に替わるとした。

- ㊦ 子どもの家庭学習が正しく十分に行われるよう努める（生活態度をしつける）
- ㊧ 子どもの学習意欲を高めるよう努める（学習意欲は相当に低い）
- ㊨ 教職員の研究を深めて研究的な雰囲気を高める（教師としての教育的情熱と自覚）
- ㊩ 学習指導の構えに見られる「ずれ」をただす（教師の学習指導における態度）
- ㊪ 学習評価の態度を確立し、その方法を理解する（指導と評価の一体化）

受験児童生徒が毎年替わる中、当該児童生徒の教科の領域の欠陥を修復するよりは、常に質の高い児童生徒を育てることのできる**質の高い教師を養成することこそが**、学力の向上はもとより、将来にわたっての本県の教育を確かなものにするというのだという確信があったように思える。

## （２） 学力調査後の方針

「学力を高めるために」第Ⅰ集（昭和38年）～第Ⅲ集（昭和40年）において、県教育研究所の示した方向性に『大いなる先見性』が認められた。昭和41年度、全国学力調査が終わった年、さらにこの方針に魂を吹き込んだのは、「秋田県の児童生徒の伸びる力を信じ、秋田県の先生方を信頼し、秋田県民の発展をこいねがって書いた」とされる「**教育研究と実践の道しるべ**」（昭和42年2月発行）である。基本的問題として、「教師の教育研究」を推奨している。<sup>6)</sup>

伊藤忠二県教育長は、その序文に「学力の向上は、教育の正常化によって達成されねばならぬ」とあり、「何か特殊なものをねらう（入学試験の合格率を上げるとか）ためにする教育ではなく、本来の教育目標に向かって努めるところにあると考えられる」と述べている。また、「本当に指導の効果を上げて、児童生徒の学力向上を期そうとするならば、教師自らが教育研究に励まねばならないことが明らかにされてきたからである」と記し、「もとより教育の目的は、単に学力を上げる事だけではない。人間形成への努力が、学力向上にとって重要な因子である」ともいっている。全国的には「詰め込み教育」が広がりはじめ、秋田県においては、「県民の願い」でもある「最下位からの脱却」を大命題に、学力向上最優先とも見えるこの時代に、目先のことに捕らわれて、安易で短絡的な方法を選ばぬように、県教育長が率先して「**教育の正常化**」を訴えているのである。

また堀井喜一郎秋田県教育研究所長は、その序説の中で「学力向上については、ひとり本県のみでなく、各県もいろいろな施策を講じているところであるが、直接形に現れた点数の向上を図る対策以前に、まず、教師自身の教育に対する構え、これを受ける児童生徒の学習態度が大きな要因を成していることは、多くの事例が示していることである。」として、「教育研究の根本問題として、学力を蓄積された知識や技術等の量的な面からでなく、自ら学習していく能力という機能的な面から開拓していくことを一つの試みとして提案してみたいと思う」とした。まだ「情意」

という言葉は生れていない時代であった。更に、このことは次の時代の主体的学習に繋がることから重要である。

以上の根拠として、「秋田県の学童の成績」として実態を述べている。

- ① 量的に計られる学力は低い、努力することによって、また環境や条件を整えることによって向上の素質が十分にあることが、幾多の事例が証明している。ある意味においては大器晩成型である。
- ② 特に農村部地域の生徒が上級学校に進学した際、入学当初は成績が低くても、その後の成績はむしろ都市地域の生徒を追い越す例は珍しくない。これまた客観的条件が、彼らの潜在能力の開発に大きな支配力を成しているとみられる証左である。
- ③ 就職青少年についても、はじめはすこぶる振るわないが、2年3年とたつにつれ次第に頭角を現す例なども秋田県人の特色であると言われている。

「これらの事実からしても、当面の量的点数にこだわるよりも、まず児童生徒の実態、特にその主体性としての学習態度について正しく知ることが教育の第一前提でなければならない。」と述べている。さらに、所員たちの研究提案は、「創造性の育成」にまで及ぶ。

少し引用が長くなったが、この二人の先達と県教育研究所の所員たちの示した方向づけが、昭和30年代の学力低迷時代を乗り越えて、昭和40年代の授業研究を中核とした学校力や授業力の活性化の時代に入っていくための基盤になっていくのである。しかも、全国的に学力向上に向けての「詰め込み教育」が真っ盛りの時代に、「教育の正常化」を訴え、教育の本来的な目的を見失わないよう示唆し続けた秋田県教育委員会の伊藤忠二教育長を始め、指導的立場の方々の識見と先見性に、胸が打たれる思いである。

冒頭で触れたように、秋田県を含む東北全域において学力テストの結果があまり良くなかったことについて、その根拠を見い出せずに経過していることが気にはなっていたようであるが、どうも農村特有の学力不振の要因が見つからなかったようである。むしろ、全県的に学習に向かう児童生徒一人ひとりの構えや、教師の学習指導に臨む姿勢にこそ課題があることに気づき、本県の場合は「農村部」と「都市部」とに分けて分析・検討するには、なじまないという結論になっていった。しかし、このことについての根拠が薄いことから、教育研究所としては、結論づけられないでいた。そうした経緯の流れの末、やっと農村に限定して分析に着手するのが、昭和42年度になってからであった。

所員研究として取り組んだのは、高橋司指導主事で、「本県の農村における学力不振の原因について」と題して研究した結果が、この年の研究紀要〔研究No.97 第25集〕<sup>7)</sup>に掲載されている。主に中学校を主にした分析であったが、① 教員の所有免許状の状況 ② 勉強机の有無 ③ 出稼ぎ家庭の数 ④ 親の学歴と子どもの関係 ⑤ 子どもの生活態度（起床時間、子どもの労働時間、家庭での勉強時間） ⑥ 本家と分家の意識などを詳細に分析した結果、「農村においては、学習に対する意欲がほとんど見られない」という結論に達した。

しかし、このことについては、「出稼ぎの問題や、極めて農村的な習慣そのものが、子どもたちを委縮させ、目的活動を自ら行うように努力しなければならない子どもたちに、目的そのものを見失うような生活経験を持たせている。そのため、農村の親たちが反省しなければならない面はずいぶんあるように思う」として、農村の安易性、消極性にまで言及しつつも、この時点で研究の限界とした。ただ、結論的に農村地域における「学力の不振要因」を特定したものではない

が、農村地域や都市部を問わず、学力向上には「子どもたち一人ひとりが、学習に向かう時の自主的な心構えを含む、生活への自主的な態度が不可欠である」という大きな指さしになった。

## 4 県教育委員会「学校教育の指針」と主体的学習の奨励

伊藤忠二教育長の意思を受けて、県教育委員会は昭和40年代の「学校教育の指針」において、「自主的に学ぶ態度の育成」や「自主的な学習能力の開発」を強調する。特に「学ぶ主体が児童生徒にあることを基底とし、個別学習を重視して、主体的に学ぶ態度を育てる指導に心掛ける事」を学力向上の主要な観点としたのである。<sup>8)</sup>

さらに、県教育委員会は「主体的学習」にかかる研究指定校を選び、実践研究を展開した。南秋田郡の井川中学校では、前時の残り5分で次時の導入課題を扱うという「四段階八分節の学習過程」を用いた主体的学習に取り組んだ。この方式は、「今日の時間の最終段階で、次時における導入を行う」というものであったが、「今日、導入部の課題追究意欲（やる気）を触発されても、続きは明日へ（又は、来週へ）・・・」と常に学習が中断されることから、学習意欲が持続しないことに繋がり、主体性の向上には、むしろ逆効果であるという実態も生じたことから、長くは続かなかった。

しかし、知的好奇心を触発し、主体性を高める「導入部の指導」は重要であるとするこの研究成果は、「学習は、① 意欲的であること ② 自主的であること ③ 本質的又は価値追求的であることが重要である。」として多くの学校で共有化された。

この時期、井川中学校のほかに指定された学校は、鷹巣小学校、能代第五小学校、藤里中学校、能代第二中学校であり、本荘南中学校の実践は、昭和44年度の「指導主事必携」に掲載されるなど、これらの学校の研究が、各地域で大きな成果を生んだということは、当時の教師たちの多くが認めるところである。また全国的に見ても、各教科や道徳などにおいて、主体的学習にまつわる図書が次々と発刊された時期でもある。

また、昭和40年には、県教育研究所から「小学校算数プログラムシート2年生用・3年生用」が刊行され、各学校で活用された。また昭和50年には、秋田県教育センター（昭和44年設置）・教育工学研究室が行った「プログラムシート機能を生かした使い方に関する一考察」と題する研究物が刊行され、国語科の説明文の読解学習の指導実践などが提案されている。いわゆる、「シート学習」が秋田県内で確認される時期である。この時期は、本県における「授業研究の開花期」といわれている。<sup>9)</sup>

## 5 研究指定校と教育研究会による研究大会の開催

研究指定校とは、「文部省あるいは教育委員会が特定の学校を指定し、その学校における研究実践を深めさせ、更にその成果を広く公開発表させることによって他校の研究実践に刺激を与え、全体としての教育水準の向上を図る」ために指定される。<sup>10)</sup>

本県の場合、昭和25年に標準校として置かれたが、昭和32年からは指導行政の一環として当面する課題を研究する指定校方式に改めた。昭和42年度からは、これに研究委嘱校が加えられた。

また、地方教育委員会においても管下の教師の資質向上のため、研究指定校を設定するように

なった。秋田市教育委員会の場合は、昭和28年度から教科学習の指定校（算数：川尻小、国語：中通小、社会：日新中、体育：高清水中）が誕生している。<sup>11)</sup>

このあたりから、各学校における「特色ある実践」が展開されるようになり、視聴覚機器を効果的に使った教育に力を入れる学校（旭川小・太平中など）や、「ゆとりの時間」を先取りした総合的な学習（プロジェクト学習）に取り組む学校（旭北小）などが出てきた。築山小学校の協力教授組織であるTT（ティーム・ティーチング）もこの頃（昭和39年・1964）から始まっている。

一方、小・中学校の教師を主とする「**秋田県教育研究会**（任意団体）」の組織が結成されたのは昭和39年（1964）であった。それまでは教科等の研究団体が、個別に会費制で研究活動を行ってきたが、この年度から文部省と県教育委員会が一層の研究成果の発展を期して、助成することになったのである。そのため、教育研究会主催の授業公開を前提とした研究協議会が、全県規模で実施されるようになった。<sup>12)</sup>

また、これらの教育研究会は、東北地区や全国の連合組織と連動しており、東北大会や全国大会の開催によって、他県との交流も可能となっていた。当然、秋田県内でもこうした大会が開催されるようになり、昭和45年には秋田市で「全国造形教育研究大会秋田大会」が開催されるなど、秋田県の児童生徒と教師による授業提示はもとより、有名大学教授や著名な実践家、更には文部省の視学官や教科調査官などによる講演会など、県外からも大勢の教師を集めて、全国レベルの研究大会を行う研究会組織が増えてきた。

## 6 指導要録の改訂（新たな観点別学習状況の評価における「関心・態度の評価」について）

全国学力調査は廃止されたが、行き過ぎた受験戦争への警戒は続いていた。それは、偏差値による学校間序列が形成されていったからである。「十五の春を泣かせない」ために、詰め込み教育はますます進んで、受験戦争と業者テストによる補習は激化していた。

このころ、ブルームが提唱した「教育目標の分類学」に、日本でも影響を受ける学者が出てきた。ブルーム（1913）は、評価を指導に生かすという「指導と評価の一体化」を説き、診断的評価・形成的評価・総括的評価の3つの評価を通して、ほぼすべての学習者に一定水準以上の学力を保障することができるという完全習得学習（マスタリー・ラーニング）を唱えている。昭和50年ごろ、秋田県内でも、目標分析の研修会が各地で行われたが、目標の分類のためのマトリックスの作成や、個別の目標のセルを埋めていく作業が煩雑で困難度も大きかったので、この理論に基づく実践は少なかった。

昭和48年、梶田叡一によるブルームの「教育評価法ハンドブック」が翻訳・紹介されて、梶田の造語である「情意」という言葉が徐々に使われるようになった。全国的に「情意」を学習に生かす研究をする学校が増えた。（秋田市内では、附属中・附属小・築山小など）

そのため、目標分析（特に形成的評価）と学習の構造化論が根強く広がり、フローチャートを生かした指導などの教育工学も浸透してきた。

児童生徒の知的好奇心を触発し、意欲的に学習に向かう姿勢を育て、個性や能力に応じ、形成的な評価を次の学習に生かす指導は、確かな学力形成においても大事なことと受け止められた。「情意」を学びの中心に据え、一人ひとりに学ぶ楽しさを味わわせる授業は、生き生きと学ぶ児童生徒を育成した。多くの研究指定校や公開校は、児童生徒の学習意欲を引き出す創意工夫をし

た指導を公開授業で提案した。この昭和 50 年代は、秋田県の授業研究会が、大変活発になった時代といえる。

昭和 55 年、文部省は「指導要録の改訂」を行った。新たに「観点別学習状況の評価」が導入され、初めて「関心・態度の評価」が加えられた。

秋田県教育センターは、「こうした評価方式は、教育研究の中では積み上げられてこなかった新しい分野であり、これを実施するには理論的裏付けと具体的な評価基準の設定と評価方法が用意されなければならない」とし、小・中学校の教師（11 名）と指導主事（16 名）を集めてプロジェクトチームを編成し、「教育評価研究委員会」を発足させた。昭和 58 年（1983）3 月には『観点別学習状況の評価の進め方（理論編）』、昭和 59 年（1984）3 月には『観点別学習状況の評価の実践（実践編）』を刊行した。<sup>13)</sup>

この 2 冊は、「観点別学習状況の手引き」と言われるものである。小・中学校の教師たちが執筆した「学習指導案例」の中には、授業中の児童生徒の情意的な兆候（シンプトム）を拾っていくための工夫が多く見られた。座席表に、関心態度のベクトルを記入するもの、自己評価の欄にリッカート法によって回答するもの、さらに SD 法によって情意的雰囲気把握しようとするものなどの工夫が見られた。このプロジェクトチームは、特に先行研究の薄かった「関心・態度の評価」については、「興味・関心や意欲は、問題を粘り強く追究する力を支えるものであり、学力には不可欠なものである」という学力観に立っていた。

| ◎探究的学習の過程と思考過程 |                                                                                                          | 〔理科：高学年〕                                 |                                           | S61 <築山小>                                   |
|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|-------------------------------------------|---------------------------------------------|
| 過程             | 探究的学習の過程                                                                                                 | 思考の種類                                    | 思考過程と教授事象                                 |                                             |
| 1<br>課題把握      | ①課題を把握する（問題をもつ）<br>②結果の予想を考える（文章化）<br>③予想の理由を考える（文章化）<br>④予想に基づく実験の計画を立てる（図）<br>⑤実験結果の予想を考える（図と文で）       | A 個人思考<br><br>充分な時間をかけてゆっくり思考            | ⑦動機と期待<br>⑧選択と注意<br>⑨想起<br>※子ども自身が方略を見つける | ◆動機づけの活性化<br>◆目標を知らせる<br>◆注意の方向づけ<br>◆想起の示唆 |
| 2<br>課題追究      | ⑥グループ実験の計画を立てる（図）<br>⑦実験準備をする（用具や装置の工夫）<br>⑧実験による検証をする（観察記録）<br>⑨実験結果と予想を突き合わせる（討議）<br>⑩グループ実験のまとめ（発表準備） | B グループ思考<br><br>個人思考をもとにしたグループ討議         | ⑪検 索<br>⑫実行反応<br>※集団思考による概念化への努力          | ◆検索の手がかりを利用させる<br>◆般化への努力をさせる               |
| 3<br>課題整理      | ⑪グループ発表による比較・検討をする<br>⑫最初の予想から結果までを振り返る<br>⑬全体討論による法則化を図る（文章化）<br>⑭感想をまとめ科学する心に浸る                        | C 全体思考<br>学級討論<br><br>D 個人思考<br>個人思考への帰着 | ⑬保 持<br>⑭強 化<br>※何が実際に学習されたのかを            | ◆記憶の貯蔵<br>◆フィードバック                          |

\* 6 年生理科「水溶液の性質」の実践における「探究型の学習過程と思考過程」が提案されている。なお、この実践記録は、前後四年間の研究を対象に、時事通信社の「平成元年度第 5 回教育奨励賞」において文部大臣奨励賞を受賞した。<sup>15)</sup>

また、この時代（昭和 55 年～平成元年 :1980 年代）の多くの研究が、「いかにして子どもの自ら学ぶ力（自己教育力・自己学習力）を伸ばすか」にあった。その基にある「情意」を大事にする教育は、児童生徒の意欲に注目しているため、児童生徒の知的好奇心を刺激し、自分たちの力で、粘り強く最後まで学ぶことができるよう「学習のプロセス」を意図的に構成することが大事になる。こうした実践が、**秋田で誕生した「秋田型探究学習」である。**

その証拠は、築山小学校の昭和 61 年度（1986）の研究紀要の中にある（p.10）。<sup>14)</sup>

このように、**秋田県では 1980 年代には、もう探究型の授業が始まっていたのである。**そして、こうした探究的な学習は、全県各地で行われていたが、それを広めていったのは、やはり公開研究会であった。この時代、県や各郡市教育委員会の研究指定校のほかに、現代教育研究会など、民間の教育研究会の委嘱による研究公開授業も頻繁に行われていた。平成 20 年代後半になって、文科省が提唱する「アクティブ・ラーニング（Active Learning）」は、この時代から受け継がれてきた秋田の探究的な学習を参考にしたという話もある。

## 7 平成初期の秋田の教育

昭和の終りから平成の初めの時期（1980 年代後半）、学校で使用する教育機器が大きく変化してきた。とりわけ教師の周辺の印字機器（ワープロ・パソコン）が大きく進歩した。指導案も手書きは消え、ワープロ書きがほとんどになった。

そして、「文書の保存・取出し」も容易になり、その学校の指導案の書式などは、簡単に共有できた。そして、予算的な問題からの理由もあるが、「研究紀要」の発行が極端に減った。パソコンで作成された指導案や反省は、自校のホームページに載せるような学校も出てきた。これでは、パソコンを開かないと、研究テーマすら読むことができない。他校の実践は、よほど興味がないと開かない。何よりも肝心なことは、自分たちの研究実践を反省吟味して、仮説に対応する形で研究の反省をすることであるが、指導案を載せて終了というものもある。若い教師にとっては、自分の実践が良かったのか悪かったのかさえ分からないままに、一年が終わってしまうこともある。研究の成果について、時間をかけて、知恵を合わせ、考察を練り合わせ、丁寧な文章を書き、推敲を重ねて出版する。この一連の流れが、学校研究を深める一つ的手段でもあるのに、研究の文化が消えつつあるのを感じる。ただ、もっと気になることは、単に「研究紀要」が消えつつあるという現象面の心配だけではない。むしろ大きな心配は、この現象の陰で、学校現場の実証的研究そのものが衰退してはいないかということである。

### （1）「学習する組織」としての学校

学校における I T 化が進む中、一方で教師たちが心と知恵を合わせて作り上げた研究があった。それは、平成 8 年度から 9 年度まで、秋田県教育委員会と秋田市教育委員会から「指導方法の改善」についての研究指定を受け、T T（ティーム・ティーチング）を基盤として実践を行った秋田市立桜小学校である。<sup>16)</sup>

全県的に指導方法の改善のための加配教員が、拠点校に配置されていた時期ではあるが、なかなか T T が指導方法の改善にはつながっていない学校も見られた。そんな中、桜小学校は「リーダーは一步前へ」という合言葉で、授業のリーダーが率先して教材の分析と実践の提案をし、T T による授業実践を行った。桜小学校の T T は、児童の良さや可能性に対応することを常に念頭

に置くという「子ども中心の教授組織の在り方を問う」という真正面からの研究であった。

研究主題は『個が生きる学習をめざして』、サブテーマに「ティーム・ティーチングを生かした学習指導の改善」を掲げてはいたが、大事なことは「T Tについての考え方や実践の在り方を問い直す」という姿勢であった。共通理解され、共通実践されたことは、次の3点である。

- ① 子どもが様々にもっている能力、適性、興味・関心等のいわゆる多様性に、教師としてもっと関わり、応えたい。(個に応じるT T)
- ② 体験的で具体的な活動を多く取り入れ、問題解決的な学習を一層進め、子どもに役立つようにしたい。(探究的学習の推進)
- ③ 子どもは、本来つまずき、振り返り、前進し、また挑戦する。その学びの過程に、教師としてチームを組み、総力を挙げて対応したい。(学びのプロセス重視)

こうした営みは、「子ども一人ひとりの思いや願い、夢などを称揚し、豊かな個性と創造性を培う」という願いを込めている、まさに教育の本道に行く研究であった。

この研究に対する評価は、平成9年10月3日に行われた「公開研究会」において述べられた秋田県教育庁塩澤中央教育事務所長の講評の中にある。<sup>17)</sup> 以下に紹介すると、

※「指導方法の改善」というテーマは、これまで一斉画一の指導法に対する挑戦であり、諸々の既成概念やスタイルを打破しようとする取り組みである。それらを「弾力的運用」ということで、以下5点に集約してみる。

- ① 学習時間の弾力的運用であること。

1単位時間を45分に固定しないで、学習内容の質と子どもの能力を考慮して、必要な学習時間を準備するということ。

- ② 学習空間の弾力的運用であること。

学習場所は、いつも決まった教室ではないということであり、体育館での算数など、様々な教室等が、学習空間として活用されている。

- ③ 教材の弾力的運用であること。

一つの教材ですべての子どもが一斉に学習するのではなく、複数の教材が準備され、子どもは課題やコースを自分の意志で選択して取り組む。自己選択・自己決定・自己評価する学習に、主体的な子どもの姿勢や活動が見られた。

- ④ 学習集団の弾力的運用であること。

子どもの学習集団は、いつも同じ学級の子どもだけではなく、学級の壁を越えて、他学級の子どもとも課題やコースを選択して、一緒に学習できる。

- ⑤ 子どもの学習集団だけでなく、同時に指導者の集団も弾力的な編成を実現していること。

桜小学校の提案したT Tは、1 C 2 Tという比較的固定化されそうなタイプだけでなく、お薦めとして提案されたのは2 C 3 T型(2クラスに3名の教師)であった。まさにそれは学習を大きく変容させる起爆剤として作用し、学年や学校教育活動を大きく変容させることに繋がった。

これらは、次の3つの成果となって表出した。

- ① 学習内容に応じた様々な指導形態、多様なパターンを選択できる時間割を生み、この時間割がT Tの実現を前進させ、定着させる源になっている。
- ② 子どもをよりよく理解している。学年の協力教授を中心にしながら、全員が加配教員という意識で、全校体制で取り組んでいる。(加配教員が誰であるかを特定せず、定数より1人多いという感覚の中で、空いている教師が協力するという全校体制)

- ◎ 教師の特性を生かし伸ばす取り組みがある。何よりも、教師の多面的な子ども理解と、教師の個性を生かした取り組みによって、開かれた学習集団、学級、学年、学校が作られてきたことは、本研究の最大の成果といえる。

最後に、塩澤所長は『**教師の力量を高める最大の方策は、子どもの力量を高める方策を追求する中にある**』と結んだ。

桜小学校の実践は、2 C 3 T型という指導形態を全県的にアピールした。1 C 2 Tという固定的なT Tよりも、弾力的で可能性が広がるT Tを提案したことが、大きな成果である。これらは、校長も教頭も、研究主任も授業に携わり、職員が一丸となって取り組んだ結果でもある。職員室に黒板を持ち出して「時間割をどうするか」と議論したことから、徐々に研究が動き出したといわれている。そこには、「目的に向けて効果的な指導法を生み出すための教師の意識と能力を高める」という組織的な学習目的があったのだと思われる。桜小学校の教師は、いわゆる「学習する組織（ラーニング・オーガニゼーション）」として、充実した研修を繰り返していたのだと思われる。この時代、秋田県における最高の研修を実践していたことが伺える良き実践であり、この時代の県内外の多くの学校に良い影響を与えた。

## （2）「研究指定校の休止」がもたらした影響

このころ、学校現場は忙しいという問題もあった。中学校の荒れが治まらず、不登校の数も減らない。それなのに、研究指定校などが依頼されると、多忙感が増大するという声もあった。

平成11年1月、**県教育委員会**は、突然「**研究指定校5年間の休止**」の通知を出し、各地教育委員会に対しても同様の対応を取るよう促した。このことにより、地教委指定校や、地域ごとの交流研修会は、ほとんどが休止された。

しかし「授業力」は、「授業」で培われるのである。当該校（指定校）には負荷はかかるが、公開研究会は勉強になる。一つのテーマに向かって、チーム学校で議論し合い、模擬授業をして、教材教具の工夫を凝らすことは、学校現場においては最も勉強（研修）になるのである。教師にとって最も勉強（研修）になることを「休止する」ということは、イメージ的には、せっかく築き上げた研修の土壌を失うようなものである。

この頃から、研究テーマに変化が出てきた。簡単に言うと「何をどう工夫すれば、このテーマが達成されるのかが、分からない（検証不能）」というテーマ設定が散見されるようになってきた。キャッチフレーズ的なテーマや、スローガン的で標語的なテーマ、求める子ども像的なテーマと様々であった。そこから判断される研究の推進は、ゴールが不明瞭のため、効果が期待できないのである。公開研究会という刺激（授業評価の場）が無くなって、学校現場における実証的研究のシステムが崩れつつあった。

しかし、全県の学校の中には、1年に1回は全員が校内研究授業を行い、同僚が互いに見せ合って討論し、授業研究を行う学校も残っていた。校内研修における、校長のリーダーシップによるところが、大であった。

## （3）学力向上フロンティアの効果

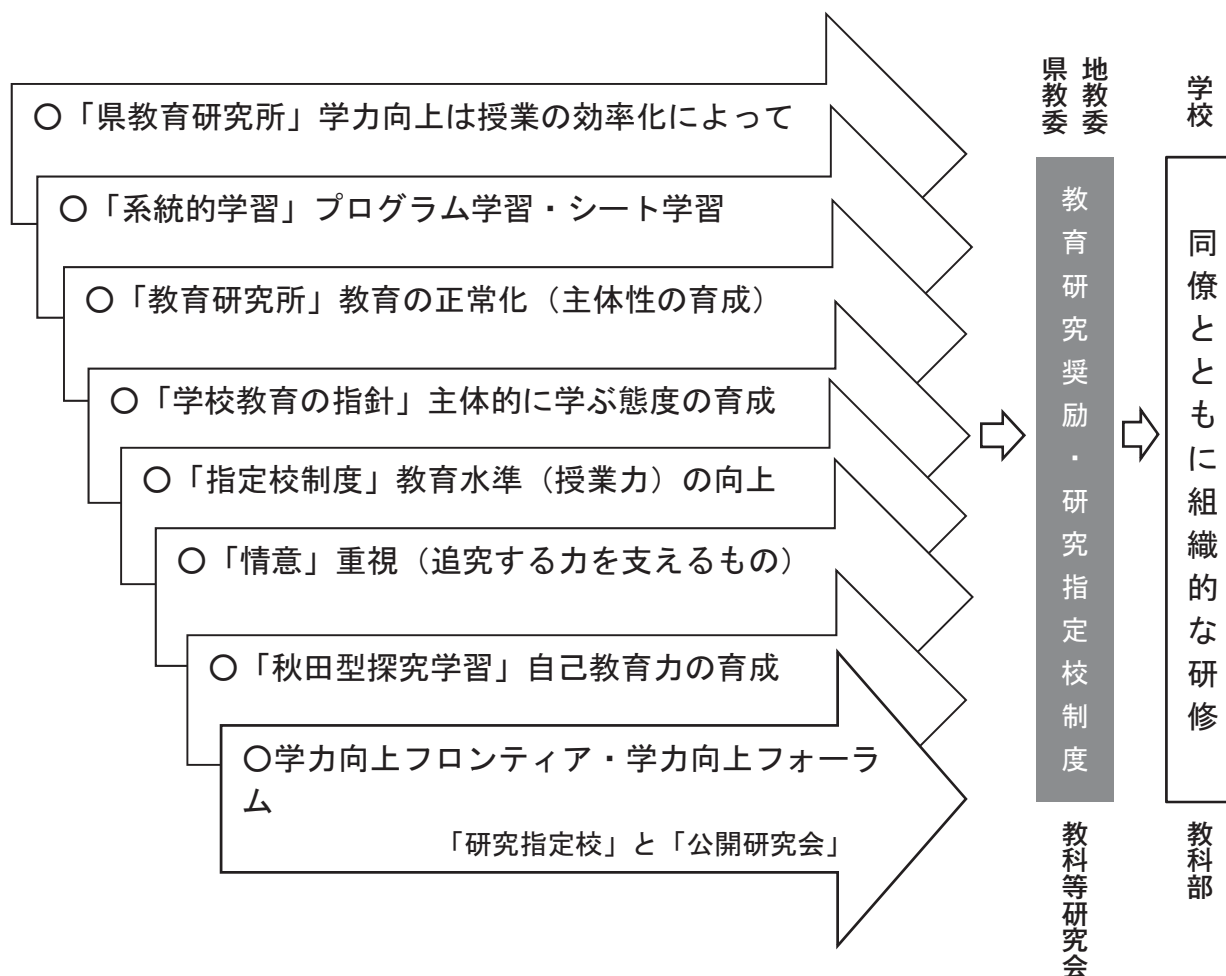
指定校制度の5年間休止を宣言した県教育委員会の思惑は、3年後に自ら破棄することになる。平成14年度から平成16年度までの3年間、文部科学省による「学力向上フロンティア事業」の

委嘱研究が始まったのである。これには、公開授業が義務づけられている。

平成14年度の秋田県の委嘱指定校は、増田小学校の「わかる、できる喜びのある授業の創造」、本荘市子吉小学校「意欲的に学び、確かな学力を身に付ける子どもの育成」、花輪第一中学校の「確かな学力の向上を目指して」、平成15年度は、二ツ井小学校の「一人一人に確かな学力を」、五城目第一中学校の「自ら課題を見つけ、解決できる力の育成」、六郷中学校の「自ら学びを楽しみ、自ら学びを深める生徒の育成」であった。本県の各校の研究主題には、「自ら～」「意欲的に～」など、児童生徒の学習意欲に基づいた主題が多かった。指定校の休止によって、授業研究に飢えていた教師たちは、フロンティア校に集まり、研修に励んだ。

この時代、全国的に流布されている「学力低下論」は本当なのか。秋田県内では、そんなに危機的な状況は見えていない。フロンティア校のテーマも実践もすばらしかった。一例をあげると、子吉小学校では、児童の学習態度がすばらしく向上していた。友だちの発表を真剣に聞く児童の口から「ふーん」とか「そうか、なるほど」などの感嘆の声が出るようになっていた。参観者が、「あれは、先生たちが言わせたのでしょうか（やらせでしょうか）。」といじわるな質問をしたが、教師の指示ではなく、集中して学ぶ児童たちの心の底からの納得の声が、相槌を打つように自然に出るようになったのであった。「学習者の学ぶ意欲に沿った意図的な指導」が、「確かさ」への近道であるということを、秋田県の教師たちは知っていたのである。意欲的な児童生徒の真剣に学ぶ姿が、フロンティア校にあふれていた。

# ◇ 秋田の教師たちの自主研修のベクトル



## ◇ 秋田の教師の構え

平成19年度の「全国学力調査」開始前夜までの

## 教師の自主研修への構え

- ① 昭和30年代の「全国学力調査」実施時代を、最下位からの脱却を願いに全力投球の時期を過ごした教師たちは、より良い授業を求めて「授業研究」に目を向けていくが、「授業の効率化」という秋田県教育研究所の示した方針によって、向かうべき方向が定まっていた。

模擬テストなどの回数を多くして児童生徒を鍛えることをせず、  
日々の「授業の質を高めること」で学力を保障しよう

- ② 昭和40年代から、「教育の正常化」の下に、教育本来の目的の遂行の中に「学力向上」もあるとする考え方で、児童生徒の人間形成のために教師は教育研究に邁進するべきであることが共通理解された。

※ 「〇〇教育」等の、「～のために」する教育ではない。

人間形成という教育本来の目的を見失うことなく、  
教育研究に励む教師になれ

- ③ 他県が教師主導の「詰め込み教育」に走ろうとも、秋田県の教師は児童生徒が自主的に学ぶ意欲を重視した「主体的な学習」に意を注ぐことで授業力をつけてきた。

「教え込み」ではなく児童生徒の意欲に基づく学習を求めよう

- ④ 積極的に官民の研究指定校を受け、校内の教師同士（同僚）が力を合わせて公開授業研究会に立ち向かい、多くの教師との研究交流を経て、目の前の児童生徒のために、より良い学びを提供できるよう教育研究を積み重ねることに努力してきた。

同僚と知恵を合わせて「児童生徒の学ぶ力を伸ばす」指導法の工夫を

- ※ 以上のように、秋田県の教師たちは、児童生徒の「**学びを中心に据えた**」授業研究を求めて、自主的な研修に尽力してきた。その努力の成果として行き着いたのが、「**秋田型探究学習**」であり、長年にわたる先輩たちの努力の結晶なのである。大事にしていくべき、秋田県教育の財産である。

昭和40年代から現在まで続いている「教育の正常化」を標榜しての「児童生徒の主体性を伸ばす授業」は、秋田県教育の**基調を成す教育観**として、奔流となる教育思想となっており、現在も学校の授業の雰囲気を決する基とも感じ取れるものである（p.14、p.15の図参照）。

## 8 全国学力・学習状況調査が開始されて（平成 19 年以降）

※ 全国トップ級の児童生徒を育ててきた「秋田県の教師たち」に問われていること

平成 19 年度の 1 回目の調査によって、全国トップ級に躍り出たことは、秋田県の学校を取り巻く状況を大きく変化させた。秋田県の各地の学校の授業参観や、学力向上フォーラムに参加した他県の教師たちは、気づき始めた。

つまりは、全国でやりつくしている加配事業とか少人数学習とか、量的なことをいくら挙げ連ねても、学力向上の理由にはならないということである。

むしろ、「どんな児童生徒を求めて、どんな学びをセットして来たか」という『教師の構え』こそが、大事であると。よって、児童生徒と教師が展開した「教室の中のドラマ」の中に、学力向上の秘密があったということが理解されてきた。

### （1） 学力調査対策は必要か？

文科省は平成 28 年 4 月、いわゆる「過去問」に取り組まないよう通知を出した。文科省が通知を出すほど、全国的に過熱しているということか。

秋田県にも、「過去問」を扱う学校があると聞く。トップ級維持のためか、校長の体面のためか。いずれにせよ、学力調査によって、児童生徒の学習意欲が伸びることは無い。

佐伯胖は、著書『わかり方の根源』<sup>18)</sup>の中で、次のように言っている。「いわゆる基礎学力というものを抽出して練習させるということは、知識の文脈性（文化的意義）に対する注意を奪う副作用をもつ。そして、この副作用は根強く残り、他の教材の学習態度にも転移して、勉強というものは常に意味のない練習で成り立つものだという誤った考え方に陥らせてしまう。これこそ、人々の文化的活動に対しての壊滅的な副作用である。」

学力調査で駆り立てることからは、児童生徒の中には何も生まれないのである。調査の点数の上下に、児童生徒の「学習意欲」が反応することはない。真の学習意欲は学び（授業）の中にある。興味・関心を沸かせる教材との出会い、知的好奇心をくすぐる教師の発問、協力して学んだ結果への想いが、成就感や達成感となり、積み重なって効力感（自己肯定感）になる。こうした学びを提供できる教師の存在が、秋田県の財産なのである。

現在、国・県・市町村の計 3 回の学力調査を受けている児童生徒たちも存在する。文科省は当初、学習指導要領の徹底を調査するために「全国学力・学習状況調査」を始めたと言っていた。その目的であれば、悉皆調査にする必要はない。悉皆調査にしたから、県ごとに比較したり、又は市町村ごとに比較したりする状況に陥ったのである。

また、秋田県の場合は、文科省が業者テストを禁止した直後（平成 6 年）、小 5 と中 2 を対象に抽出して調査を開始し、平成 14 年度からは悉皆調査に切り替えた。県単独で学力調査を開始した意図は不明だが、現在も継続されており、国の学力・学習状況調査同様に「児童生徒個々の指導に生かす」ねらいと説明されている。

半年以上も経ってから学習調査を行い、個々の学習の修復を行うことを繰り返すことが続くと、カリキュラムの進行上で不都合が出てきたり、何よりも児童生徒の学習に支障をきたしたりすることに繋がりはいらないか心配である。このように何回も投網をかけるように学力調査を繰り返すことは、児童生徒にとって必要な事だろうか。

それよりも、学校現場を信じるのが大事であると思われる。最も児童生徒に近い存在の担任（学級担任・教科担任）が、一人ひとりの児童生徒の学習状況を把握しているのである。一人ひとりの学力を保障できるのは、担任である。しかも、全国一の授業力をもつ「秋田の教師」である。一人ひとりの児童生徒への対応は、学校の裁量に任されるべきものであると考えられる。学習指導案の練り上げや板書の構造化・ノート指導・復習を中心とした家庭学習の吟味などを通じて、学習の定着を図っているのが担任教師である。

また、ここに特筆すべき研究がある（田中博之 2011）。全国学力・学習状況調査において、比較的良好な結果を示した県の特徴を比べた研究である。<sup>19)</sup>

ここでは、秋田県の児童生徒と、同じくトップ級のある県の児童生徒を比べている。「秋田県の児童生徒は、授業に臨む姿勢は大変良好である」とした。教師の発問には前向きに応え、グループの話し合いにも積極的に関わっていく児童生徒がほとんどである。そして、秋田県では多くの児童生徒が学校の授業で学力を身につける機会が保障されているといえる。授業中の児童生徒は明るく、討論をしたり、よく教室の前に出てきて発表したりする機会が多い。いかにも得意そうに自説を主張している様子が微笑ましく思える。言いかえれば、児童生徒がそれぞれの個性を発揮する場が保障されている中で、しっかりと基礎基本の徹底が行われているという印象を受ける。そして、教師からの褒め言葉やノートへの朱書きを通した励ましの言葉が多くかけられている。よって、地域・家庭の「教師へのリスペクト（尊敬・信頼）が高い」と言っている。

一方、トップ級のある県の場合は、授業中は静かに集中して真剣に学習に取り組んでいる。教師からは、褒め言葉よりは、学習成果に関する期待値や、設定目標が示されることが多いそうである。児童生徒は、その期待に応えるべく真剣に学ぶ。要するに、個性や主張よりも、児童生徒全員が同じように学び、均質な達成水準の向上に教師や児童生徒の意識が向けられている。それは、ある種の息苦しさにつながる。そうした高い水準を求める「**学びの均一性**」から外れた児童生徒が学校に対する否定的な感情をもちやすくなると推定されたとした。

秋田県の教師たちは、授業改善や教員研修の充実によって、自らの力量（授業力）を高めてきた。学習意欲を育てるには理にかなった「**褒めて育てる学習指導**」を重視し、「**個性を認める学習活動**」を推進してきた。ある県のように、学力検査の評価をもとに不得意部分の修復を強要し、児童生徒の指導に平準化や均一化を求め、いわゆる「そろえる指導」を無理に進めれば、いつか児童生徒の心から「**真の学び**」は消えてしまうだろう。

## （２） 家庭学習は「復習」に力を入れて

秋田の児童生徒の「**復習を中心とした家庭学習**」が、**学力の定着を促進させてきたことは**、これまでの調査によっても明らかである。一例を挙げて述べるならば、平成 26 年度学力・学習状況調査の結果では、「復習している」児童生徒は、小学生 63.8%、中学生 47.4%で全国 1 位であった。2 位以下に 10 ポイント以上の差をつけての数字である。さらに「予習している」は小学生 26.0%（1 位）、中学生 13.5%（5 位）であった。

かなり前から、授業で勝負する教師の中には、「宿題を出さない教師」が多かった。それは、秋田の教師の強い責任感から「担任する子は、**絶対に落ちこぼさない**」という児童生徒への想いや決意であった。そのためには、1 時間の授業の中ですべての児童生徒に学習内容を分からせる努力をする。そして、板書やノート指導を通して、家に帰ってからも学習内容を思い出せるよう

に構造化して記録させる。それが、覚えたつもりの児童生徒にも、忘れてしまった児童生徒にもサポートになるのである。

単元テスト後の早期修復を念頭に、放課後の自主的な居残り学習や、質問タイムなど、気兼ねせずに分かるまで聞くという習慣形成が、多くの教師によって指導されてきたことによるものではないかと思われる。中学校の中には、期末テストの前の一週間を「質問週間」としてセットしていて、教師に質問しやすい雰囲気作りをしている学校もある。

ただし、小学校においては、家庭学習は教師が必ずチェックする。朝、家庭学習のノートを担当に提出すると、帰宅するまでに、コメントがついて返されてくる。担任は全部の児童の家庭学習を見て、コメントを付けて返す。この作業は教師にとっては大変な作業だが、その児童の実態を把握するには非常に良い方法である。秋田の児童生徒は、こうした家庭学習のサイクルを通して、「やる気のある学び手」に育っていくのである。真面目な児童生徒と教師によって形成されてきた好ましい学習の習慣（雰囲気）である。

### （３） 学力向上フォーラム事業への期待

文科省の「学力向上フロンティア事業」の波及効果を認めた秋田県教育委員会は、平成 20 年度から、県教育委員会主催で「学力向上フォーラム」を始めた。指定市町村の小・中学校で公開授業を実施して協議会を開き、講演やディスカッションを行う。県内各地区を順番にめぐりこの研究大会は、評判を呼んで県外からも多くの参観者を迎え、大変盛況な研究会となった。（平成 30 年度の大館大会の参加者は、およそ 1,500 人だった。）

何よりも嬉しいことは、開催地の学校の教師たちの「授業力」の向上である。この事業により、授業力低下の不安があった一時期を乗り越えて、秋田県教育の「授業力向上の連鎖」が繋がった。

教師の授業力を伸ばすには「授業研究会」が必要だ。「授業力」は、「授業」で伸びる。校長や研究主任、そして同僚と力を合わせて授業設計し公開する意気込み、その効果を認めて後押しを考えている地方教育委員会や県教育委員会、こうした秋田県の教師の力を信じた多くの人たちのベクトルが集まって、授業力向上のフォーラムとなる。大きな成果を期待したい。

### （４） 秋田の教師たちへの期待・・・確かな「学力観」をもって

平成 30 年度の全国学力・学習状況調査において、3 年ぶりに行った「理科に対する興味や関心」に、低い傾向が表れたと文科省が発表した。実験結果の分析や得られた知見について説明するなどの活用力に課題があったという。新聞などのマスコミ関係の見出しは「理科離れが進む」であったが、理科という教科のみが、そんなに落ち込むことがあるのだろうか。実は、この問題は、30 年も前から存在するテーマで、以前は「算数・数学離れ」が話題になっていた。

今回（平成 30 年度）は、中学理科では「条件を整えて実験を計画することに課題があった」とされた。加えて、特定の濃度の食塩水を選ぶ問題は平均正答率が 47.3% だった。小学校の算数の「割合」が身につけていない影響が理科に表れたという。そうすると、算数の弱点が、「理科離れ」に影響を及ぼしたことになるのか。一方、小学校算数では、割合を求める問題の正答率は 53.1% で、百分率が不十分な状況である。それに、論理的に説明することに弱点が見られた。そうすると、「算数・数学離れ」か。そこで、中学国語を見ると、「示された条件を踏まえて、適切な文章を書く力」に課題があるという。特に、主語を明確にしていない回答が 6 割に上がったという。資料

の誤読もある。従来から指摘されているが、情報を読み取って整理し、的確に説明することが苦手な傾向が伺えるという。そうすると、「国語離れ」も。

もちろん、算数・数学における「数学的な考え方」、理科における「科学的な思考力」などを伸ばし切れていなかったという反省もあろうが、教科セパレートで、課題を言い合っている場合ではない。全国学力調査で行われていない教科においても、この傾向は表われているはずである。社会科の「情報処理能力」は心配ないのか。図工科・美術科における「表現するための創造力（構想力）」は大丈夫か。道徳の「道徳的判断力」は確かか。児童生徒の学校生活には、変化がないのか。児童会や生徒会、特別活動や部活動などにおいても、様々な兆候が現れてきているはずである。もっと児童生徒の実態を見つめるべきである。「学ぶ側の資質」の具体的なイメージの共有化が不足していたと言うべきであろう。

そもそも、学問上では、「教科という枠」で境界を作ったのは大人（学者）の論理で、特に義務教育においては、これまで「合科的学習」や「生活科」、「総合的学習の時間」などが誕生する際に、文科省がこれらの教科の「設立の趣旨」として解説してきたことを、再確認する必要がある。

その際、学びだけを取り出して議論するのではなく、小学生、中学生としての「生き方」の中で「学び」を捉え、「より良く生きる学習者」への議論を深め、何をキーコンピテンスにするかを導き出すべきである。何より、このことに対する正当性は、本県の生徒指導上の問題の少なさで証明されている。秋田県の児童生徒の素直で真面目な性格は、「より良く生きる」を求めて、学びも、スポーツも、友だち関係も、一生懸命なのである。

こうしたことを踏まえて、あえて提言するならば「**学問離れ**」への対応である。今の児童生徒たちは、算数離れと言われ始めた30年ほど前から、「**面倒くさがり屋さん**」が増えたのである。学校を含む世の中の生活の中で、便利なものが増えはじめ、苦勞しなくとも何でも手に入るようになってきた。近年普及してきたタブレットなどを使って、インターネットにアクセスすれば、大学教授の知識さえも簡単に手に入る。自然を長期にわたって観察しなくとも、クリックすれば目の前に多量の情報が広がる。学ぶための努力や根気、忍耐力・持続力などは、これまでの数パーセントで済む。徐々に浸透してきたこのような「**思考の省エネ化が進む人間の増加**」という社会現象は、便利な生活環境と交換に、人間として大事なものを失っていくことになる。構造的には、大人の（親や教師も含む）甘やかしも理由の一つになるだろうが、「学ぶ」という範疇においては、学校が学問本来の「**粘り強く思考する**」という脳内活動を刺激することを減らし、教え込みによる脳への甘やかしをしてきたからではないかとも考えられる。

今こそ、**小学校低学年時代から、発達段階に応じて計画的に「粘り強い論理的思考」を学習の核として育てて行かなければならないと考える。**

そこで、昭和50年代後半から盛んに行われるようになった「**秋田型探究学習**」が注目を集めることになるのである。児童生徒主体の、問題解決のプロセスを重視し、意見の練り合いを通して思考をまとめ上げるといった、「**主体的・対話的で深い学び**」が重要である。そこでは、感性・構想力・イメージ力・創造性・豊かな表現・自己への洞察力・自己認識等がキーワードとなろう。どうあれば「探究型の授業」と言われるのかを考え直し、「思考のアクティブ化」の角度からの授業設計を検討していくべきと考える。

## ○ 今後に生かす議論の始まりに向けて

今、この調査研究を通して、私たちは一つの安堵の中にいる。テストで測れる「一部の学力」とはいえ、「全国学力・学習状況調査」において、連続12年以上トップクラスを走り続けている本県の児童生徒と教師の力は、小手先の受験学力を伸ばすことに汲々とせず、義務教育本来の人間教育の目標に照らして、「よりよく生きる」児童生徒を育てる中から生まれた結果であり、本県の教育力の高さの証明となっていることに、誇りと感慨を覚えるものである。

昭和40年代、伊藤忠二教育長によって指導された「教育の正常化」こそ、本県の教育の根幹であり、今後も秋田県教育を支えていく礎なのである。50年にわたる歴史の中で、秋田県教育委員会や地方教育委員会の指導のもとではあったが、**同僚性**を大事にして熱心に共同研究に励んだ秋田の教師たちの「自主的な研修」によって培われた「授業力」が、真摯に学ぶ秋田の児童生徒たちを「**質の高い学習者**」へと育て上げたのである。

今の秋田県にとっての課題は、今後の少子化が進む中での学校減や、教師の減少（大量退職時代）が目の前に迫っている現状に鑑み、今の力（授業力）を財産としてもち続け、維持していくことである。

**これまでの本県教師の真摯な取組を高く評価し、「あきたブランド」の意識をもって、日々の研修に役立てていかなければならないと考えるのである。**

## 参考文献

- 1) 千葉信一郎「秋田の戦後授業史に学ぶ」2002 秋田県教育振興会出版局編
- 2) 「秋田県教育史」通史編二 (p.961) 秋田県教育委員会編、1986 第一法規出版(株)会社
- 3) 「秋田県教育史」通史編二 (p.1038) 秋田県教育委員会編、1986 第一法規出版(株)会社
- 4) 「秋田県教育史」通史編二 (p.1033) 秋田県教育委員会編、1986 第一法規出版(株)会社
- 5) 秋田県教育研究所「学力を高めるために」Ⅰ～Ⅲ (1963,1964,1965)
- 6) 秋田県教育研究所「教育研究と実践の道しるべ」1967
- 7) 秋田県教育研究所「研究紀要第25集」研究No.97 1967
- 8) 「秋田県教育史」通史編二 (p.1037) 秋田県教育委員会編、1986 第一法規出版(株)会社
- 9) 「秋田県教育史」通史編二 (p.1040) 秋田県教育委員会編、1986 第一法規出版(株)会社
- 10) 「秋田県教育史」通史編二 (p.962) 秋田県教育委員会編、1986 第一法規出版(株)会社
- 11) 秋田市教育委員会「昭和39年度秋田市教育委員会学校教育の指針」(1964)
- 12) 「秋田県教育史」通史編二 (p.1031) 秋田県教育委員会編、1986 第一法規出版(株)会社
- 13) 秋田県教育センター「観点別学習状況の評価の進め方」1983 (理論編)  
秋田県教育センター「観点別学習状況の評価の実際」1984 (実践編)
- 14) 秋田市立築山小学校「昭和61年度研究紀要」1986
- 15) 時事通信社「内外教育」1989.10.13 (第4075号) 特集：第5回時事通信社「教育奨励賞」受賞校
- 16) 秋田市立桜小学校「平成9年度指導方法の改善」公開研究会要項 1997
- 17) 秋田市立桜小学校「平成9年度指導方法の改善」研究紀要 (p.63) 1997
- 18) 佐伯 胖「わかり方の根源」(p.27) 1986 小学館
- 19) 田中博之「全国学力・学習状況調査において比較的良好な結果を示した教育委員会・学校等における教育施策・教育指導等の特徴に関する調査研究」2011.3.31 文部科学省委託研究報告書

## 第Ⅱ章 学習指導に関するアンケート調査から得た秋田の教師たちの実態

秋田の教師たちが、これまで何を学び（自己研修）、どんな力（授業力）を身につけ、真摯に学びに取り組む児童生徒を育ててきたのかを探るため、「学習指導に関するアンケート調査」を実施した。

### 1 調査の主旨

主旨については、秋田県退職校長会「会報」第90号の会長の巻頭言と「学習指導に関するアンケート調査の主旨について（p.11）」に記載されている。調査の主旨を会報90号から抜粋すると、「全国学力・学習状況調査において、秋田県が上位を維持してきたその要因については、具体的な実践をしてきた『秋田の教師』が、児童生徒を指導するために“どんな機会に、何を学んで、どんな力を身につけたのか”という教師の自主性について明確にしてこなかった。教師による自主研修の積み重ねが全国上位維持を可能にしてきた重要な要因の一つであり、これからは秋田の学習指導を支えていくであろうという仮説のもとで、教師の自主研修の有意性を明らかにしたい。」としている。調査以前の分析については、教師の自主研修に焦点を当ててこなかったのではないかと大いに反省しながらも、教師の自主研修の有意性をアンケート調査結果から汲み取り、提言も踏まえて今後の方向性を明らかにしていこうと思う。

### 2 アンケートによる調査

平成29年5月11日 秋田県退職校長会理事会・総会において、調査に関する予告と協力について提案し、承認された。

平成29年7月8日 秋田県退職校長会郡市長・事務局長合同の会において、調査内容を提示し、承認された。秋田県教育委員会、市町村教育委員会に調査に関わる協力を願った。

調査用紙（7月1日付）は全県各郡市事務局宛に発送し、調査を開始した。

#### (1) 調査対象

全県下に10郡市ある退職校長会を通じて、退職者は退職校長会員を対象に、現職者はそれぞれの郡市から規模の大きい小学校と中学校の各3校を抽出し、そこに勤務する校長・教頭・教諭・講師を対象に調査を実施した。なお各郡市の退職校長会は次のような組織になっている。

- |            |                 |               |
|------------|-----------------|---------------|
| ① 鹿角退職校長会  | ② 大館北秋田退職校長会    | ③ 能代市山本郡退職校長会 |
| ④ 男鹿市退職校長会 | ⑤ 潟上市・南秋田郡退職校長会 |               |
| ⑥ 秋田市退職校長会 | ⑦ 由利本荘・にかほ退職校長会 | ⑧ 大曲仙北退職校長会   |
| ⑨ 横手市退職校長会 | ⑩ 湯沢雄勝退職校長会     |               |

#### (2) 調査項目

アンケート作成委員会は、表（Ⅱ－1）のように調査内容を検討し、調査票を完成させた。

## 表（Ⅱ－１）アンケート調査

平成29年7月1日  
秋田県退職校長会

現職・退職教員 各位

### 調査協力をお願い

学力の一部とはいえ、文部科学省が毎年実施している「全国学力・学習状況調査」において、全国のトップクラスを10年も続けている秋田の子どもたちの力は本物です。

こうした子どもたちを育ててきた秋田の教師たちの長年にわたる努力は、大変価値のあるものと言えます。これは、子どもたちと学級担任や教科担任たちの、「真の学び」へ向けてのたゆまぬ努力の賜物と言えます。

今回は、我が秋田の教師たちが、これまで何をどう学んで（自己研修）、どんな力（授業力等）を身に付け、真摯に学びに取り組む子どもたちを育てて来たかを調査したいと考えました。是非、このアンケートにご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

### 学習指導に関するアンケート調査

Ⅰ あなた自身のことについて、当てはまる記号を○で囲んでください。

1 校種    ア 小学校    イ 中学校    （主として勤務した校種についてお答えください。）

2 年代(H29.4.1現) ア 20歳代    イ 30歳代    ウ 40歳代    エ 50歳代    オ 60歳代    カ 70歳以上

Ⅱ 学習指導に関しておたずねします。（管理職及び退職者は、これまでの実践を振り返って回答してください。）

1 あなたは、授業の実践に当たって、内容・方法等の構想や具体的な指導場面などについて、どのようなことを、どのくらい「大切」にしていますか。

次に挙げる(1)～(15)は、それぞれの「大切度」について、当てはまる番号1つを○で囲み、(16)は、必要に応じて記述してください。

|                                          | ＋（大切度） | －       |
|------------------------------------------|--------|---------|
| (1) 反復・練習等をとおした基礎的・基本的な学習内容の定着や習熟        | 5      | 4－3－2－1 |
| (2) 既習の学習内容を活用した練り上げ等の学習活動の工夫            | 5      | 4－3－2－1 |
| (3) 課題解決に向かって子ども自らが考えを巡らし具体化、一般化、抽象化する学習 | 5      | 4－3－2－1 |
| (4) 多様な習得状況に応じた一斉、グループ、少人数などの指導形態        | 5      | 4－3－2－1 |
| (5) 達成度の不十分な子どもを引き上げる指導                  | 5      | 4－3－2－1 |
| (6) 達成度の十分な子どもをさらに引き上げる指導                | 5      | 4－3－2－1 |
| (7) 子ども間の学び合いや教え合いの機会の設定                 | 5      | 4－3－2－1 |
| (8) 学習の手引きやハンドブック等の作成と活用                 | 5      | 4－3－2－1 |
| (9) 自分の学習状況や成果、つまずき、成長等に気付かせるためなどのノート指導  | 5      | 4－3－2－1 |
| (10) 学習活動を焦点化するためなどの発問・指示、板書             | 5      | 4－3－2－1 |

- |                                                      | + (大切度) - |
|------------------------------------------------------|-----------|
| (11) 学習効率や学習意欲を高めるための話し方・聞き方、褒め方・叱り方                 | 5-4-3-2-1 |
| (12) 望ましい学習方法や授業に臨むルールなどに関する指導                       | 5-4-3-2-1 |
| (13) 評価の規準や基準を活用しながら、子どもと一緒に学習の成果と課題を確かめること          | 5-4-3-2-1 |
| (14) 学習段階ごとの評価を子どもに具体的に示すことで学習への意識づけを図り、学習への成果を高めること | 5-4-3-2-1 |
| (15) 授業の組み立てを確かにするための学習指導案の作成                        | 5-4-3-2-1 |
| (16) 上記以外に特に大切にしていること（5に相当すること）があれば記入してください。         |           |

**2 あなたは、これまで、ご自身の「指導力」を高める場や機会として、どのようなことが、どのくらい「役立った」と思っていますか。**

次に挙げる(1)～(11)は、それぞれの「役立ち度」について、当てはまる番号1つを○で囲み、(12)は、必要に応じて記述してください。

- |                                              | + (役立ち度) - |
|----------------------------------------------|------------|
| (1) 国、県及び市町村教委による学力・学習状況調査等                  | 5-4-3-2-1  |
| (2) 県及び市町村教委による指定研修、専門研修、自主研修等               | 5-4-3-2-1  |
| (3) 県及び市町村教委の計画又は学校からの要請などによる学校訪問指導          | 5-4-3-2-1  |
| (4) 校内での授業の研修会や指導方法の検討会など                    | 5-4-3-2-1  |
| (5) 校内の学年部会、教科部会などの諸会議                       | 5-4-3-2-1  |
| (6) 先輩や同僚との日常的な対話や相談など                       | 5-4-3-2-1  |
| (7) 管理職や研究主任等からの指導や助言                        | 5-4-3-2-1  |
| (8) 子ども、保護者等からのコメントやアンケートなど                  | 5-4-3-2-1  |
| (9) 県及び各地区における教育研究会等での活動                     | 5-4-3-2-1  |
| (10) 他校や教育機関などの公開研究発表会等                      | 5-4-3-2-1  |
| (11) 教育書やサークル活動などによる自己研鑽                     | 5-4-3-2-1  |
| (12) 上記以外に特に役立ったと思うこと（5に相当すること）があれば記入してください。 |            |

### (3) 調査項目作成のねらい

「**大切度**」は、授業の実践にあたり、何をどれくらい大切にしている（してきた）かを問う設問である。調査項目①～③は学習の方向性に関わる事項であり、④～⑦の項目は個への対応に関わる事項、⑧～⑫の項目は指導の仕方に関わる個を生かす手立ての事項、⑬～⑭の項目は効果の確かめに関わる評価の手立ての事項、⑮の項目は授業の計画性に関わる事項としてまとめている。

「**役立ち度**」については、教師自らが「指導力」を高めるために、何がどれくらい役立ったと感じているかを問うものである。①～③の項目は教育委員会の施策等、④～⑦の項目は校内での取組（同僚性）、⑧の項目は児童生徒や保護者等からの意見、⑨～⑩の項目は校外での取組、⑪の項目は自己研鑽としてまとめている。

「大切度」「役立ち度」とともに

ア 秋田の教師のすばらしいところは何か      イ 教師を支えているものは何か  
ウ 教師は何を求めているのか      エ 教師が心がけなければならないことは何か

を採るものである。

### (4) 調査結果の回収

10 郡市退職校長会を通じて随時回収、平成 29 年 11 月末日を締切日とした。

### (5) 調査状況（調査数）

表（Ⅱ－２） 年代別調査状況

|     | 20 歳代 | 30 歳代 | 40 歳代 | 50 歳代 | 60 歳代 | 70 歳代 | 計        |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----------|
| 県総数 | 219   | 368   | 1,396 | 2,998 | 491   | 1,232 | 6,704（人） |
| 調査数 | 142   | 161   | 454   | 653   | 205   | 243   | 1,858（人） |
| 調査率 | 64.8  | 43.8  | 32.5  | 21.8  | 41.8  | 19.7  | 27.7（％）  |

\* 県総数は平成 29 年 5 月 1 日現在の秋田県の教員の人数であり、調査率は、県総数に対する調査した人数の割合（％）である。

### (6) 調査の分析

調査全般を主導・推進した秋田県退職校長会「研修委員会」において、調査結果の分析を行った。なお、アンケート作成については「アンケート作成委員会」が作成・吟味のうえ、回収し、調査結果の集計までを行った。

### 3 調査結果の概要（研究の概要）

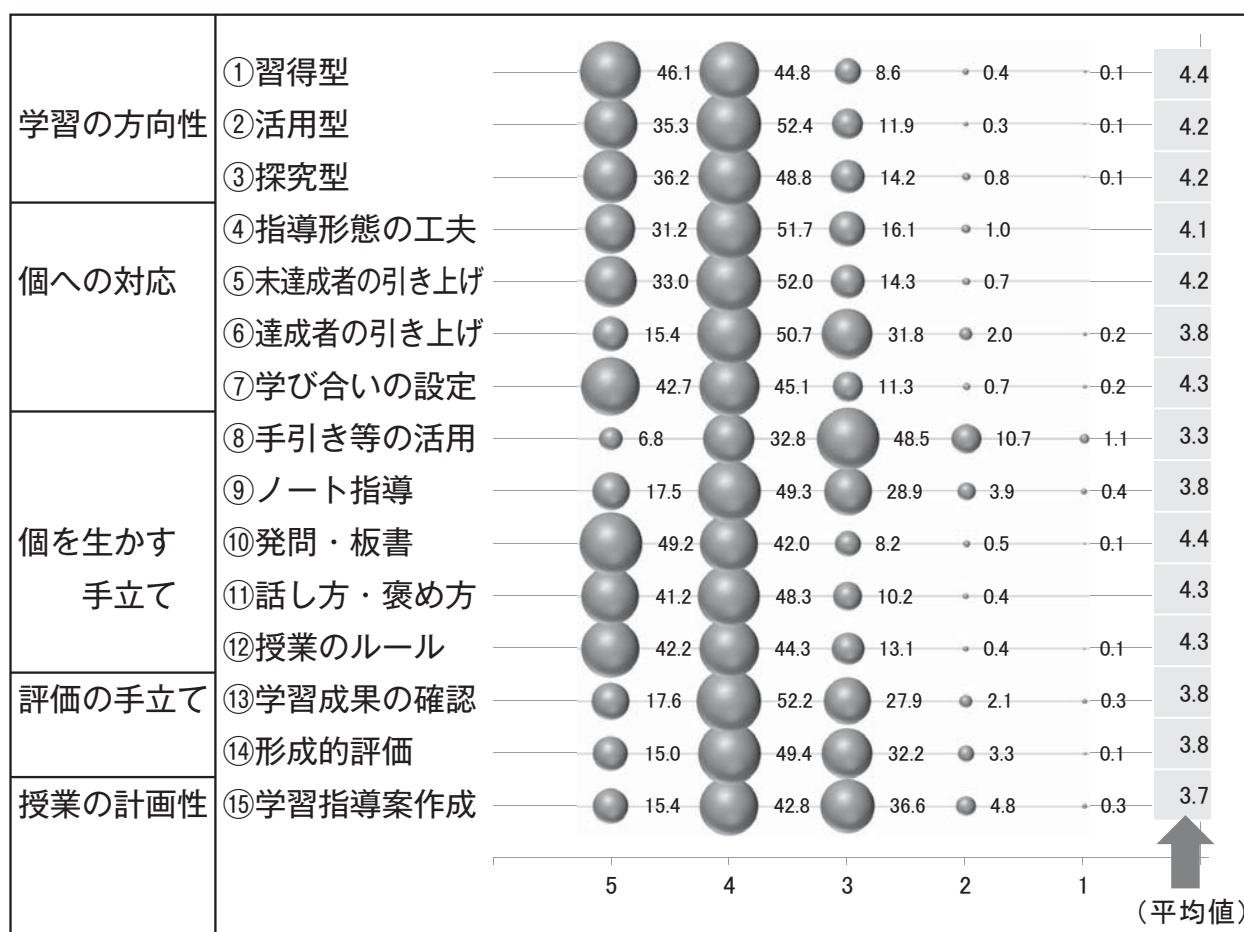
全体的な調査結果の分析から始まり、詳細な分析の結果と考察へ進めていく。ここでは、「大切度」「役立ち度」別に全体的な集計結果を示し、大要としてまとめる。

（以下、図中の数値は、人数割合(%)を示す。）

#### (1) 大切度について

図(Ⅱ-1)を見ると、「学習の方向性」の①～③、「個への対応」の④～⑦、「個を生かす手立て」の⑨～⑫、「評価の手立て」の⑬～⑭については、かなり高い数値を示しており、ほぼ全ての項目を「大切」に考えて学習を展開していることが分かる。特に、「学習の方向性」はもちろんだが、「⑦学び合いの設定」「⑩発問・板書」「⑪話し方・褒め方」「⑫授業のルール」に重きを置いているようだ。

反面、「⑧手引き等の活用」は、平均値が「3.3」と低く、評定「3」が過半数に近い「48.5%」と大半を占め、「2」が「10.7%」と高くなっている。さらに、「⑮学習指導案の作成」が平均値「3.7」である。評定「4」が「42.8%」ではあるものの、「3」が「36.6%」、「2」が「4.8%」と他に比べて高い数値を示している。手引き等をどのように作成し活用しようとしているのか、学習指導案はどのように考え作成しようとしているのか、苦慮している様子が伺われる。手引きや学習指導案は、学習を展開するうえで極めて大きな要素であることから、この後の分析・考察で取り上げてゆく。

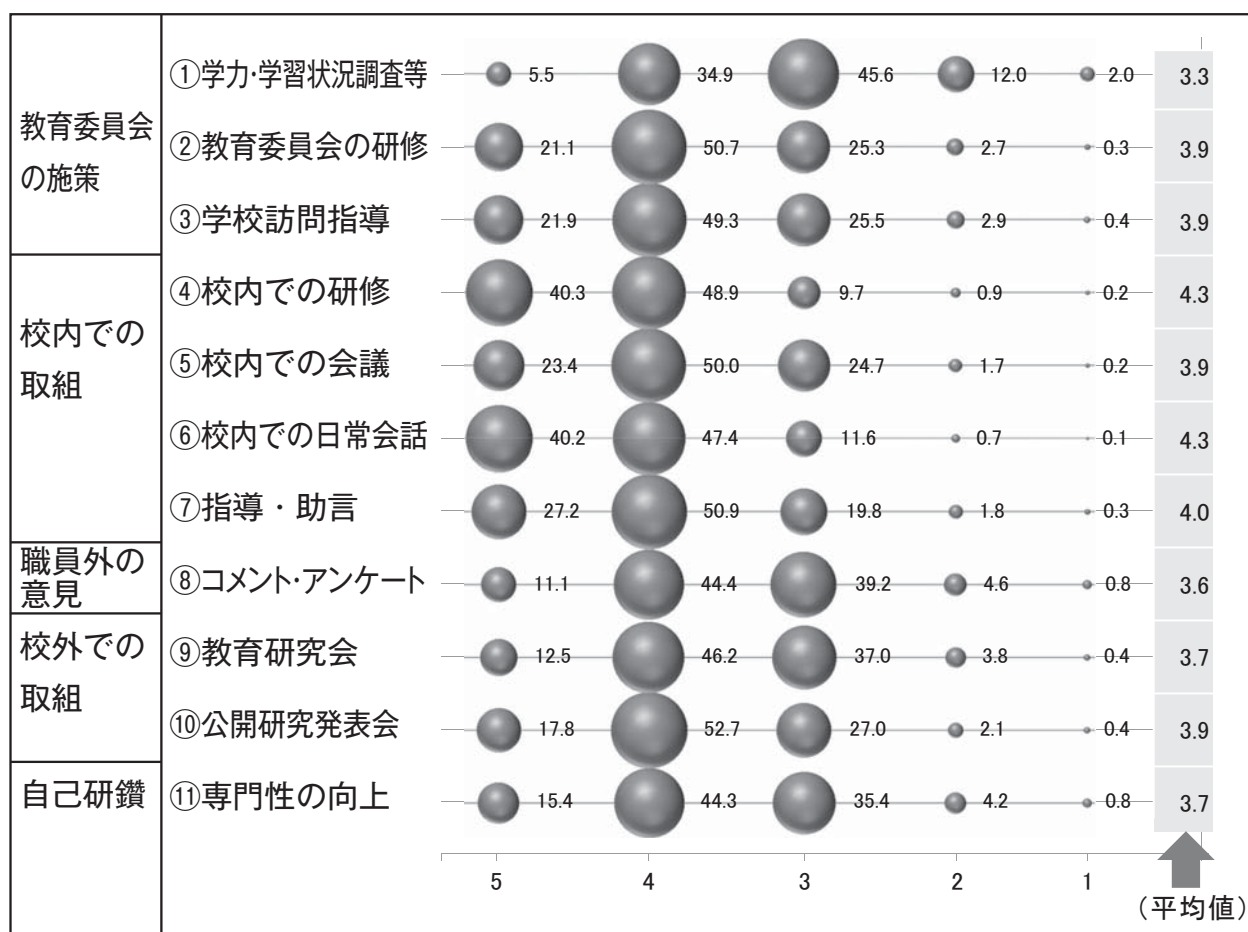


図(Ⅱ-1) 大切度（全体集計）

## (2) 役立ち度について

図(Ⅱ-2)を見ると、ほとんどの項目で評定「4」以上を示しており、全体的に非常に高い数値である。秋田県の教師たちは多くの機会を捉えて学習指導に「役立つ」べき事柄をはっきりと把握していることが分かる。特に、「校内での取組」の④～⑦は極めて「役立ち度」が高く、校内での日常的な学び合いがいかにスムーズに行なわれていることが感じられる。身近な学校内における「校内研修」や「同僚との質疑・応答」の成果が顕著であり、管理職の指導もまた効果的に発揮されている。学校内組織による学年部会や教科部会、校外の教科研究会などが効果的に「役立ち度」を高めており、人間関係が大きな役割を果たしていることが伺われる。次いで「教育委員会の施策」の②～③の評価が高い。県教育委員会や市町村教育委員会が学校現場に添った指導を展開しており、教師たちもそれを認め、受け止めているように思える。

反面、「①学力・学習状況調査等」の平均値が低い。グラフの中心が評定「3」にあり、過半数に近い「45.6%」を示している。評定「4」は「34.9%」と低いわけではないが、「2」と「1」が「12.0%」「2.0%」と他の項目より高い。役立っているかの問いに、必ずしもそうではないとする厳しい反応が見てとれる。さらに、「⑪専門性の向上」は、評定「4」が「44.3%」とこれも低くはないが、評定「4」と「3」に集中しているので、平均値が「3.7」である。このことは、教師自らさらに研鑽を積む必要を感じているが、思い通りに行かないジレンマが感じ取れる。自己研鑽に対する教師たちの厳しい評価が覗いているようにも思える。

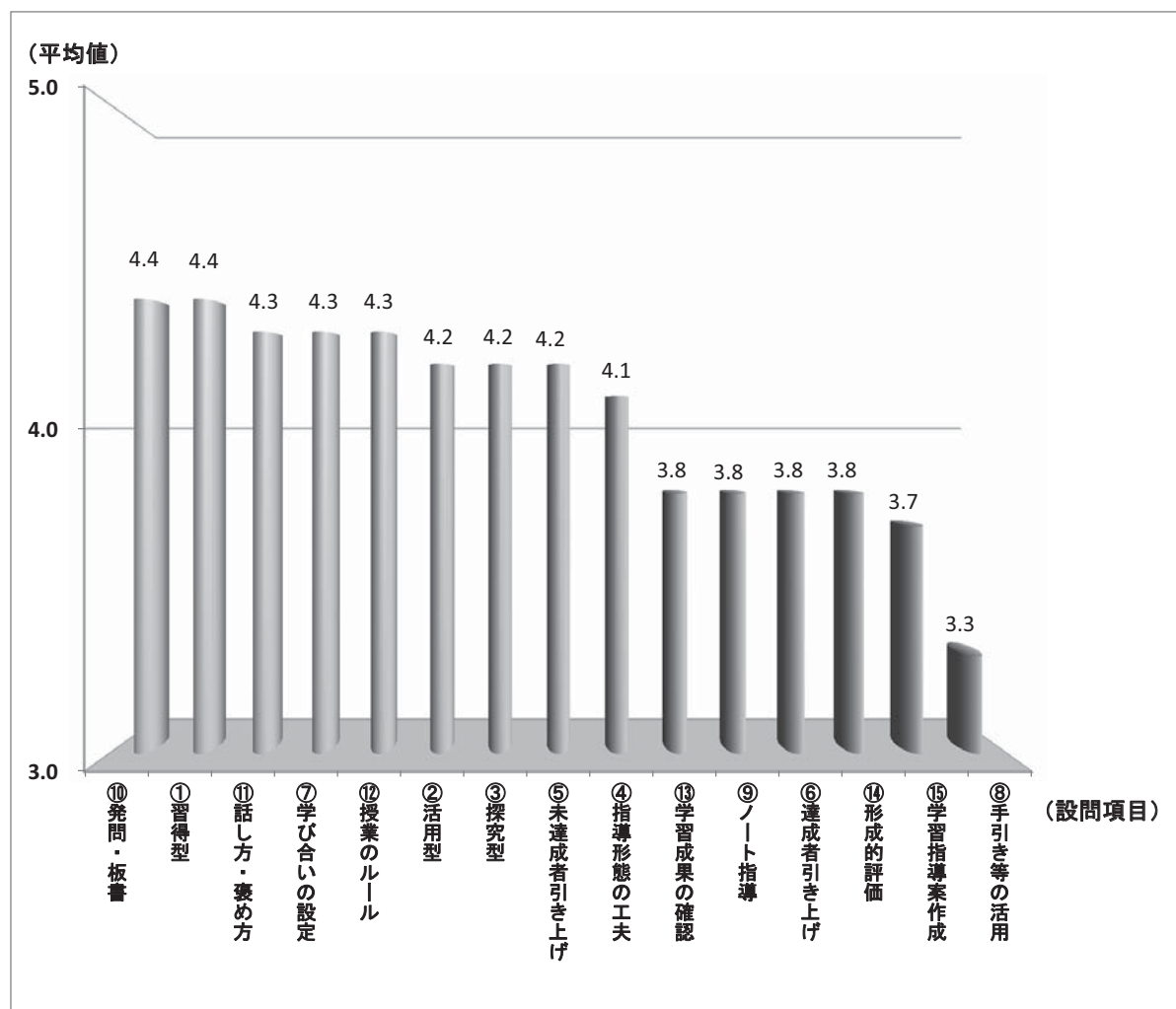


図(Ⅱ-2) 役立ち度(全体集計)

## 4 大切にしている分析と考察

ここでは、調査項目について、(1) 全体的傾向 (2) 調査項目を5分類した観点からの評価結果 (3) 特に特徴が見られた評価結果から 分析・考察し、最後にまとめを述べる。

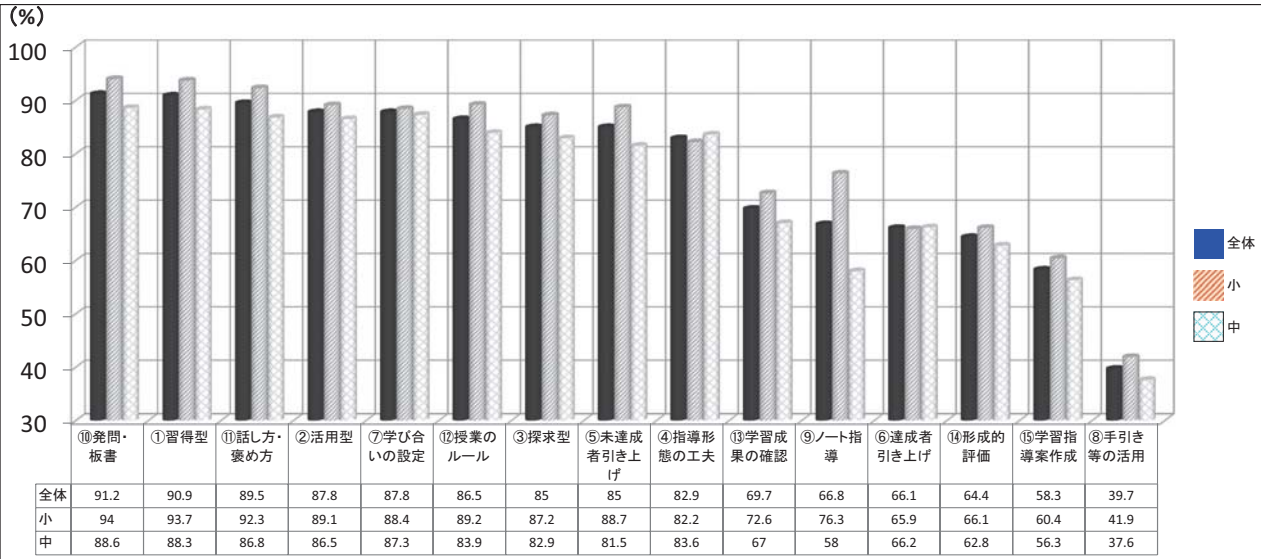
### (1) 全体的傾向について（概観）



図（Ⅱ－３） 大切に（全体）各設問の平均値（並べ替え）

図（Ⅱ－３）からは、秋田の教師は「⑩発問・板書」などの授業中の児童生徒への直接的な対応や指導内容を大切にしており、児童生徒を学習活動の中心に据えた授業を展開していることが分かる。

図（Ⅱ－４）を見ると、並び順は、図（Ⅱ－３）と同様であるが、上位に練り上げや学習過程を共有する「②活用型」が挙がってきており、総じて小学校の割合が中学校より高い。ただ、上位9項目の大切度は80%を超えており、数多くの項目が重視されている。



図（Ⅱ－４） 大切度（小・中）各設問を「４」＋「５」と判定した割合（並べ替え）

(2) 調査項目を5分類した観点からの評価結果について

調査項目を「学習の方向性」「個への対応」「個を生かす手だて」「評価の手立て」「授業の計画性」という5分類で分析・考察してみる。なお、以下に示した表は、大切度「４」と「５」を選択した合計（「４」＋「５」）の割合（％）を各項目ごとにまとめたものである。

<学習の方向性>

「①習得型」・「②活用型」・「③探究型」という学習の方向性については、小・中学校ともに、そのいずれもが重要であると認識して取り組んでいる。反復・練習などの基礎・基本を最も重視

表（Ⅱ－３） 学習の方向性

| 学習の方向性 | 全体   | 20代  | 30代  | 40代  | 50代  | 60代  | 70代  |
|--------|------|------|------|------|------|------|------|
| 全体     |      |      |      |      |      |      |      |
| ① 習得型  | 90.9 | 95.8 | 90.7 | 92.5 | 90.2 | 90.7 | 87.3 |
| ② 活用型  | 87.7 | 90.1 | 91.1 | 91.7 | 88.1 | 88.9 | 75.1 |
| ③ 探究型  | 85.0 | 88.0 | 86.3 | 86.3 | 85.2 | 86.8 | 77.7 |
| 小学校    |      |      |      |      |      |      |      |
| ① 習得型  | 93.7 | 98.2 | 96.0 | 94.6 | 93.6 | 95.4 | 87.3 |
| ② 活用型  | 89.1 | 89.1 | 98.0 | 93.7 | 90.0 | 89.9 | 72.2 |
| ③ 探究型  | 87.2 | 87.3 | 92.0 | 89.1 | 87.8 | 88.2 | 78.3 |
| 中学校    |      |      |      |      |      |      |      |
| ① 習得型  | 88.3 | 94.3 | 88.2 | 90.5 | 86.2 | 85.4 | 87.2 |
| ② 活用型  | 86.5 | 90.8 | 87.5 | 89.7 | 85.9 | 87.6 | 77.6 |
| ③ 探究型  | 83.0 | 88.5 | 83.3 | 83.7 | 82.4 | 85.4 | 77.3 |

していると言えるし、教材や児童生徒の実態に合わせて、習得・活用・探究等の形態をバランス良く授業に取り入れようとしている傾向が見てとれる。また、「基礎・基本の重視」に代表される学習指導要領で示されていることの意図を十分に汲み取って、それらを確実に授業に生かそうとしている教師の実態も見える。このことは、ややも

すると教師主導型（一斉指導）のみになってしまいがちであると警鐘が鳴らされた時期とも関連すると思われ、一斉指導からの脱却という意識を持って授業に臨んでいる、あるいは臨んできた証と考える。

こうした学習の方向性については、現職の若い教師を中心にその意識が高く、年代が上になるほど数値は低い。しかし、いわゆる 60 歳代以降の世代が現役であった頃に、習得・活用・探究の 3 つのバランスをとろうとする概念が明らかであったかという時代性とも関わってくると思うが、昭和 50 年代には、秋田市の小・中学校において確実に探究型の授業が実践されていた事実を考えれば、数値の低さが意識の低さと連動しているかどうかは一概には判断が難しいところで

ある。むしろ、早くからそのことに気づいて、自然な、あるいは現代に先行する形で授業実践がなされていたと見るべきであると考ええる。

### <個への対応>

表（Ⅱ－４） 個への対応

| 個への対応      | 全体   | 20代  | 30代  | 40代  | 50代  | 60代  | 70代  |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|
| 全体         |      |      |      |      |      |      |      |
| ④ 指導形態の工夫  | 82.9 | 85.9 | 85.0 | 87.0 | 83.3 | 79.7 | 73.8 |
| ⑤ 未達成者引き上げ | 85.0 | 89.4 | 81.5 | 84.4 | 84.1 | 88.9 | 84.7 |
| ⑥ 達成者引き上げ  | 66.1 | 69.0 | 69.2 | 67.1 | 63.2 | 70.1 | 64.9 |
| ⑦ 学び合いの設定  | 87.8 | 94.8 | 91.1 | 94.1 | 90.5 | 80.5 | 69.3 |
| 小学校        |      |      |      |      |      |      |      |
| ④ 指導形態の工夫  | 82.1 | 81.9 | 80.0 | 86.8 | 82.4 | 80.0 | 75.2 |
| ⑤ 未達成者引き上げ | 88.7 | 83.6 | 92.0 | 91.0 | 88.8 | 88.2 | 85.3 |
| ⑥ 達成者引き上げ  | 66.0 | 69.1 | 76.0 | 68.5 | 64.0 | 69.0 | 57.3 |
| ⑦ 学び合いの設定  | 88.5 | 92.8 | 94.0 | 93.6 | 90.7 | 80.7 | 73.7 |
| 中学校        |      |      |      |      |      |      |      |
| ④ 指導形態の工夫  | 83.6 | 88.5 | 87.5 | 87.2 | 84.4 | 79.3 | 72.5 |
| ⑤ 未達成者引き上げ | 81.4 | 93.1 | 76.0 | 78.1 | 78.7 | 89.7 | 84.1 |
| ⑥ 達成者引き上げ  | 66.2 | 69.0 | 65.6 | 65.7 | 62.1 | 71.1 | 71.2 |
| ⑦ 学び合いの設定  | 87.3 | 96.3 | 89.6 | 94.4 | 90.2 | 80.4 | 65.6 |

個への対応については、秋田の教師は児童生徒の学び合いや教え合いを授業に取り入れながら、理解の遅い児童生徒への支援を心がけていることが先ず挙げられる。

年代別には、20歳代に加えて30～50歳代、いわゆる現役の教師を中心に浸透しており、学び合いを重視する傾向がここしばらく続いていることの表れと考える。このことは、アクティブ・ラーニングや探究型授業が定着し

てきていること、さらに言えば、平成29・30年度に改訂された新しい学習指導要領の「主体的・対話的学び」を意識していることの表れと考えられる。

なお、「⑤未達成者の引き上げ」に関して、小学校の20歳代の大切度が他の年代と比較してやや低い数値を示しているが、これは指導経験の少なさの表れと捉えられる。

理解が進んでいる児童生徒へのさらなる課題等を与えるなどして、児童生徒をさらに引き上げようとする「⑥達成者の引き上げ」の意識は他の項目に比べて低いと言える。理解の遅い児童生徒を優先せざるを得ない学校現場の現実が推測される。また、1単位時間という授業の中では、理解度の異なる両者を同時に引き上げるゆとりがない実態が見え隠れする。ただ、60歳代以上の世代は現役の教師に比べて達成者をさらに引き上げようと努力していた傾向が強かったことが伺える。このことは、児童生徒一人ひとりを大切にする意識や姿勢が強かったことの表れと考えられ、今後も継承していきたい大切な視点の一つである。

### <個を生かす手立て>

個を生かす手立てとして、「⑩発問・板書」が大切度の上位にあるのは、発問は学び合いを活性化させるという視点と児童生徒の自主性の扉が発問によって開かれるという2つの視点を持ち、秋田県ではその両方を大事にしてきた表れと言える。

児童生徒にとって、適切な発問は、内容や場面を意識することになるし、板書は＜めあて－学び合い－まとめ・振り返り＞という授業の流れを明確にする大切な要素であることを自覚して、日々の授業に臨んでいる証と考える。また、このことは、とりもなおさず児童生徒が本時のねらいやねらい達成の過程を十分理解して授業に臨めることを意識しながら取り組んでいる証と言える。

発問・板書を通して授業の流れや児童生徒の自主性を大切にしている秋田県の実態を考えれば、学習の効率や児童生徒の意欲を高める「⑪話し方・褒め方」等の話術についても重要視されていることは当然の結果と言える。小学校に比べて中学校でやや低い傾向にあるのは、中学校では生徒が自ら進めていく学習形態が比較的多いことがその一因と考えられる。

表（Ⅱ－５） 個を生かす手立て

| 個を生かす手立て  | 全体   | 20代  | 30代  | 40代  | 50代  | 60代  | 70代  |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|
| 全体        |      |      |      |      |      |      |      |
| ⑧ 手引き等の活用 | 39.6 | 38.0 | 38.4 | 32.4 | 37.7 | 49.1 | 52.7 |
| ⑨ ノート指導   | 66.8 | 68.3 | 67.1 | 65.8 | 66.9 | 68.6 | 66.1 |
| ⑩ 発問・板書   | 91.2 | 93.6 | 93.8 | 94.3 | 91.6 | 91.3 | 81.7 |
| ⑪ 話し方・褒め方 | 89.5 | 90.1 | 91.1 | 91.8 | 88.9 | 88.4 | 86.1 |
| ⑫ 授業のルール  | 86.5 | 85.1 | 94.4 | 92.9 | 88.9 | 80.2 | 69.4 |
| 小学校       |      |      |      |      |      |      |      |
| ⑧ 手引き等の活用 | 41.9 | 45.5 | 46.0 | 37.1 | 39.7 | 46.4 | 50.9 |
| ⑨ ノート指導   | 76.3 | 80.0 | 84.0 | 78.3 | 76.2 | 71.9 | 71.9 |
| ⑩ 発問・板書   | 94.0 | 94.5 | 96.0 | 96.4 | 95.1 | 91.8 | 87.3 |
| ⑪ 話し方・褒め方 | 92.3 | 87.3 | 96.0 | 94.1 | 91.8 | 90.0 | 92.8 |
| ⑫ 授業のルール  | 89.2 | 88.9 | 95.9 | 95.9 | 92.4 | 83.6 | 67.9 |
| 中学校       |      |      |      |      |      |      |      |
| ⑧ 手引き等の活用 | 37.6 | 33.3 | 34.4 | 27.9 | 35.4 | 52.0 | 54.2 |
| ⑨ ノート指導   | 57.9 | 60.9 | 58.4 | 53.9 | 56.4 | 65.0 | 61.3 |
| ⑩ 発問・板書   | 88.6 | 93.1 | 92.8 | 92.3 | 87.6 | 90.7 | 76.7 |
| ⑪ 話し方・褒め方 | 86.8 | 91.9 | 88.6 | 89.7 | 85.6 | 86.6 | 80.4 |
| ⑫ 授業のルール  | 83.9 | 82.7 | 93.5 | 90.1 | 84.9 | 76.2 | 70.7 |

くいという、児童生徒の発達段階とも関連しているように思われる。今後とも、一人ひとりの児童生徒を大切にしたい授業を実践するための良好な学習集団の育成は不可欠なことと考える。

個を生かすための「⑧手引き等の活用」に関しては、数値的にはやや低い傾向が見られた。実施したアンケートの発問を回答者がどう捉えたかという点とも関連すると思われるが、若干60歳代、70歳代で数値が高く、個を生かそうとする意識の問題だけではないのかと思われる。

### <評価の手立て>

評価をもとに学習方法や授業の在り方を常に改善していくという視点は、個を生かすための大切な要素と考えるが、数値的にはやや低い結果である。

そのような中であって、20歳代、30歳代の若い教師が評価を大切に感じている割合が高いことは、もっと学びたいという意思表示と捉えることができる。

過度な評価を優先するとされた時代を経て、適度に評価を試みる時代へと移り変わってきたのであるが、指導と評価を一体化することへのさらなる取組も秋田県の課題の一つと言える。

### <授業の計画性>

「⑮学習指導案作成」を大切に考えて取り組んでいると回答した割合は低いが、指導案を大切にしないで授業の構成ができるものだろうか。授業の実践に当たっては、先ず指導案に基づいた授業計画があり、その上で教材作成やめあての提示、板書・発問等の吟味等、個々の教師が優先度をつけながら、納得のゆく授業の実践に向けて努力していくのである。

児童生徒に力をつけるのは授業であり、そのための毎日の授業の準備が基本である。過去には指導案の検討会を何度も開き、細案も指導助言していただいたこともある。そのことにより、苦しいながらも自分の授業力を高めたと感じている教師も多いことと思う。

「⑫授業のルール」で見られる学び方や授業のルールを大切にするという姿勢は、30～40歳代に特に顕著であり、他の年代においても重視されている。児童生徒理解をベースとしながらも、児童生徒の自主性を生かすために、という視点を持って学び方や授業のルールの定着に努めている教師の姿が伺える。

また、総じて小学校が高い数値を示しているのは、授業のきめ細かさという視点や「⑫授業のルール」を意図的に指導しないと集団の学習が成立しに

表（Ⅱ－６） 評価の手立て

| 評価の手立て    | 全体   | 20代  | 30代  | 40代  | 50代  | 60代  | 70代  |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|
| 全体        |      |      |      |      |      |      |      |
| ⑬ 学習成果の確認 | 69.8 | 73.2 | 69.9 | 71.0 | 69.5 | 69.5 | 65.8 |
| ⑭ 形成的評価   | 64.4 | 70.4 | 60.9 | 61.9 | 65.1 | 65.2 | 65.0 |
| 小学校       |      |      |      |      |      |      |      |
| ⑬ 学習成果の確認 | 72.6 | 76.4 | 82.0 | 71.8 | 74.8 | 70.9 | 62.7 |
| ⑭ 形成的評価   | 66.1 | 69.1 | 72.0 | 62.0 | 69.4 | 63.6 | 62.4 |
| 中学校       |      |      |      |      |      |      |      |
| ⑬ 学習成果の確認 | 67.0 | 71.3 | 63.5 | 70.2 | 63.5 | 68.1 | 68.5 |
| ⑭ 形成的評価   | 62.9 | 71.2 | 54.8 | 61.9 | 60.0 | 67.0 | 67.9 |

表（Ⅱ－７） 授業の計画性

| 授業の計画性    | 全体   | 20代  | 30代  | 40代  | 50代  | 60代  | 70代  |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|
| ⑮ 学習指導案作成 | 58.2 | 58.9 | 64.8 | 51.1 | 52.4 | 68.9 | 74.2 |
| 小学校       |      |      |      |      |      |      |      |
| ⑮ 学習指導案作成 | 60.4 | 68.5 | 71.4 | 52.7 | 53.4 | 74.3 | 74.7 |
| 中学校       |      |      |      |      |      |      |      |
| ⑮ 学習指導案作成 | 56.4 | 52.8 | 61.3 | 49.6 | 51.3 | 62.8 | 73.7 |

へ到達するための思考過程が円滑に概念形成されるように作成されるべき性質のものである。さらに、この学習指導案の作成は、評価の手立ての項で分析・考察した「⑭形成的評価」とも密接に関連してくるものであり、その数値が共に低いことには大きな関連があると考える。

発問・板書のほか、課題・めあて・振り返りという授業の流れを大事にした指導案の作成は重要だと言える。指導案を作成することの意義について研修する研究発表会などの指導・助言の機会を生かしながら、教師間相互に再認識することが課題である。

しかしながら、校内研修会などでも簡易な指導案で済ませたり、授業の前日になって初めて指導案が管理職の手に渡るなどの現実があるようで、嘆かざるを得ない。

学習指導案は、その単元で学ぶ内容

### （３）特に特徴が見られる評価結果について

ここからは、(1) 全体的傾向に示された概観（p.27）をもとに、評価結果が特に高い「⑩発問・板書」「⑪習得型」「⑪話し方・褒め方」「⑦学び合いの設定」「⑫授業のルール」の５項目、及び低い「⑧手引き等の活用」、「⑮学習指導案作成」の２項目を取上げ、その特徴を明らかにする。その際、平均値などの数値のみを追っていくのではなく、全体的な分布の度合いを表す「分布図」を採用する。

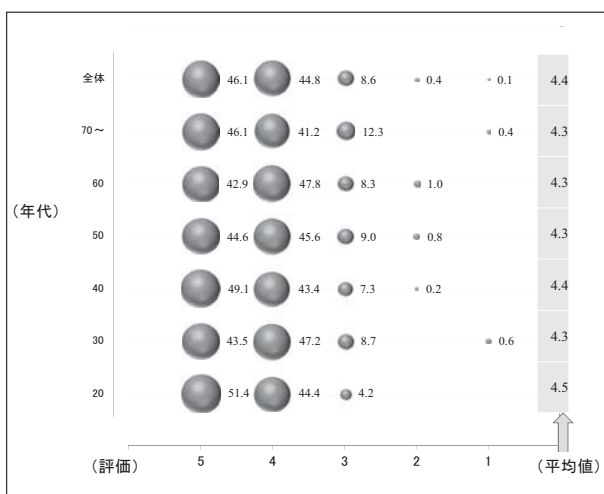
#### （３）－① 評価結果の平均値が高い５項目

##### ① 習得型

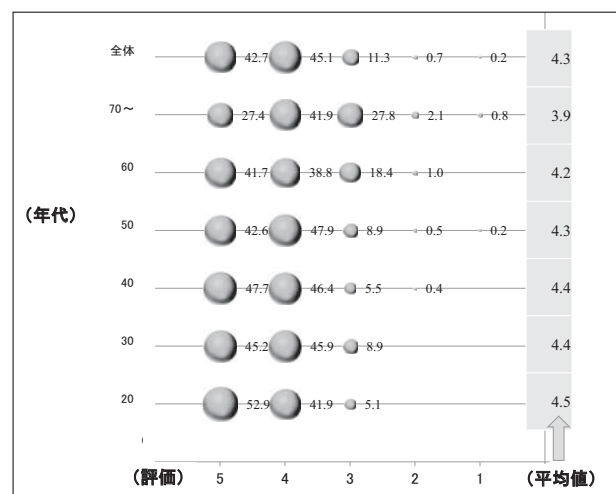
図（Ⅱ－５）を見ると、70歳代以上の教師が、基礎・基本の定着をかなり重視してきたことが伺える。

##### ② 学び合いの設定

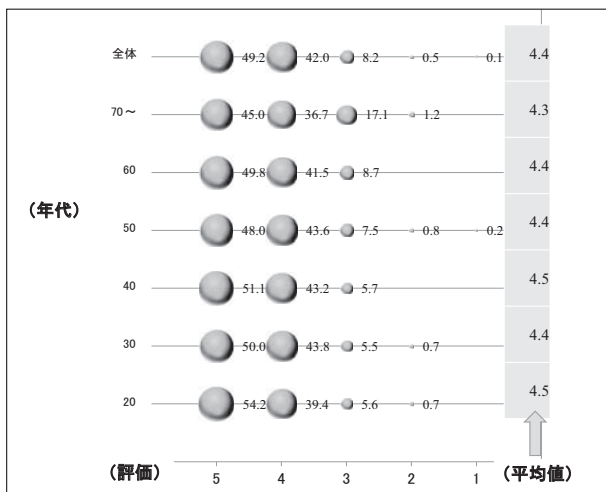
図（Ⅱ－６）を見ると、20～60歳代の教師が、児童生徒同士の学び合いの中で、自ら学力を獲得していく授業を追い求めている様子が伺われる。



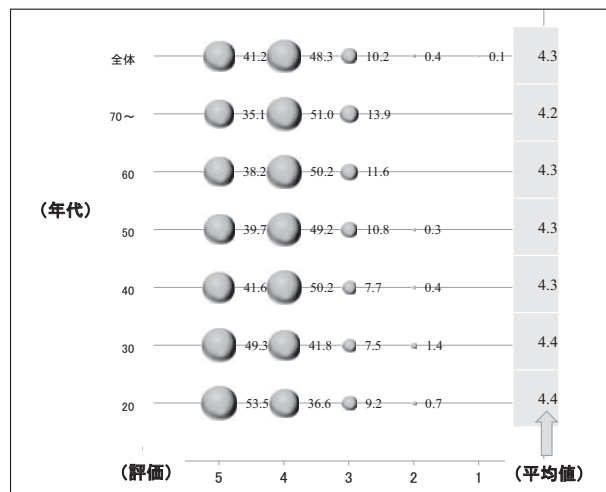
図（Ⅱ－５） 大切度（全体）年代別  
① 習得型



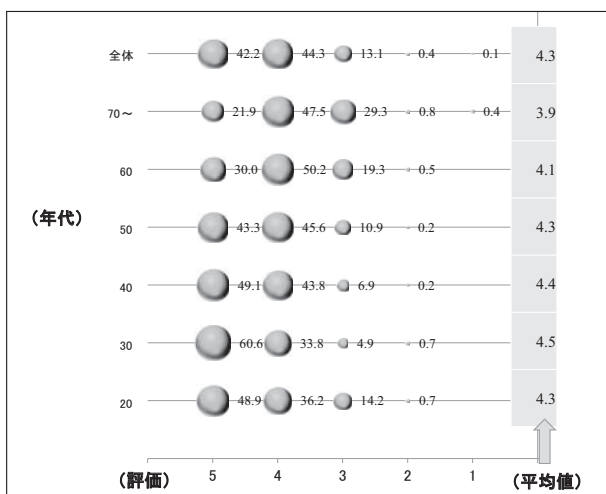
図（Ⅱ－６） 大切度（全体）年代別  
⑦ 学び合いの設定



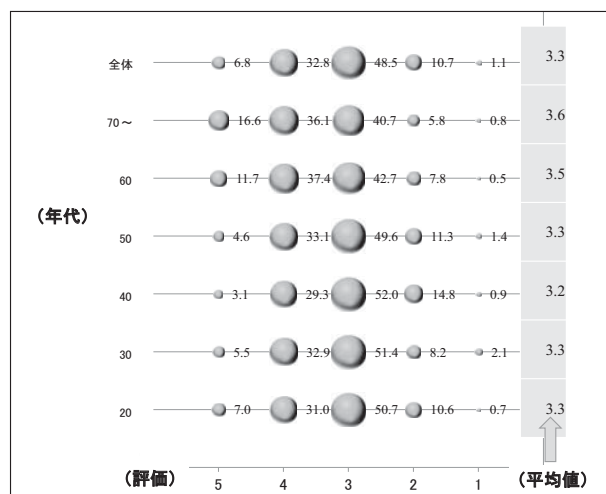
図（Ⅱ－７）大切度（全体）年代別  
⑩発問・板書



図（Ⅱ－８）大切度（全体）年代別  
⑪話し方・褒め方



図（Ⅱ－９）大切度（全体）年代別  
⑫授業のルール



図（Ⅱ－10）大切度（全体）年代別  
⑧手引き等の活用

### ③ 発問・板書

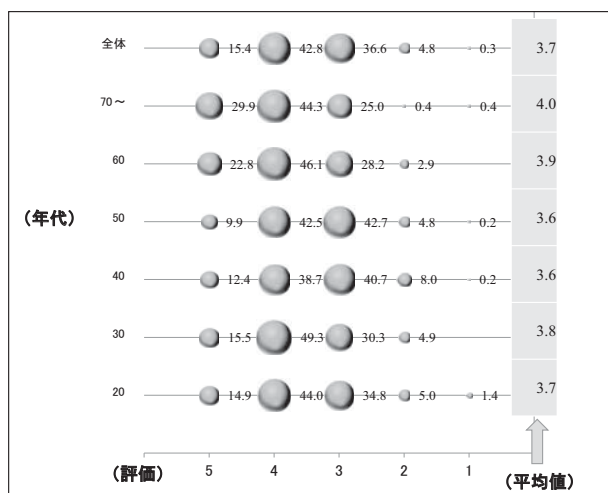
図（Ⅱ－７）を見ると、発問・板書の重要性については、すべての年代の教師が十分に認識していることが裏づけられる結果となっている。

### ④ 話し方・褒め方

図（Ⅱ－８）を見ると、若い教師が試行錯誤している一方で、ベテラン教師は適切な話し方や褒め方が自然に身につけてきていることが分かる。

### ⑤ 授業のルール

図（Ⅱ－９）を見ると、若い教師が、まずは授業のルールを徹底させることに労力を注いでいる一方で、50歳代以降の教師は、そのことは大前提として認識され、また容易に実現できているために重要視していないのではないかと推察される。



図（Ⅱ－11）大切度（全体）年代別  
⑮学習指導案作成

### （3）－② 評価結果の平均値が低い2項目

#### ① 手引き等の活用

図（Ⅱ－10）を見ると、教材作成に時間をかける余裕を見いだせないでいる教師の現状が推察されるが、60歳代以降の教師が、様々な資料を作成しながら授業の改善に努めてきた状況を思い起こすことができる。

#### ② 学習指導案作成

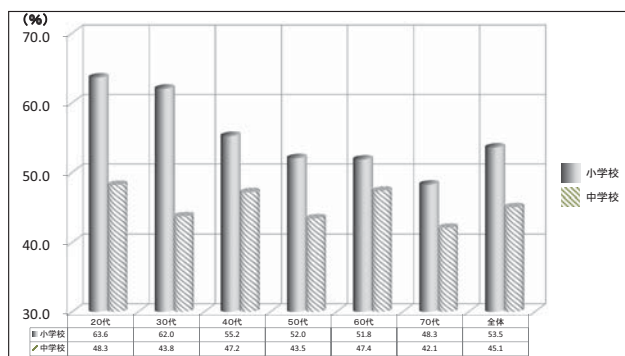
図（Ⅱ－11）を見ると、60歳代以降の教師がかつて授業研究会などで学習指導案を練りに練っていた姿や授業で実践していた様子を思い起こす。

### （3）－③ 「⑩発問・板書」及び「⑫授業のルール」について

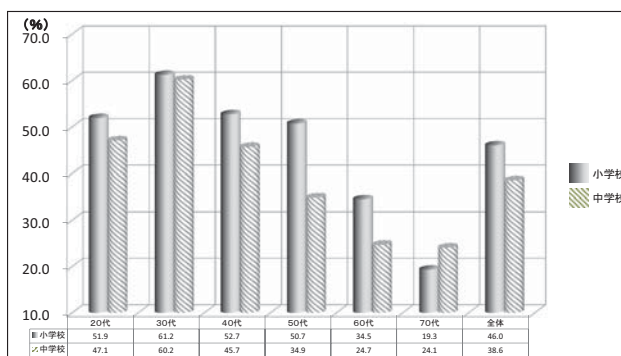
最も評価の高い「⑩発問・板書」と、30歳代で評価「5」の割合が高い「⑫授業のルール」についての特徴を明らかにしたい。

図（Ⅱ－12）を見ると、中学校の教師は、指導内容や指導方法についてある程度熟知しており、授業を進める上で発問や板書について特に意識せず、これまでの指導経験のまま授業を進めていることが多いと考えられないだろうか。それに対して、小学校の教師は、ほぼ全教科を指導する立場にあるために、常に発問や板書についてしっかりと吟味しておかないと、質の高い授業が成立しないと考えているのではないだろうか。

図（Ⅱ－13）を見ると、30歳代が、授業を含めた生活のルールを重視した指導に奔走している姿が想起される。70歳代以上だけが、中学校が小学校を上回っているのは、中学校が生徒指導で困難をきたした時代の象徴と受け取れる。



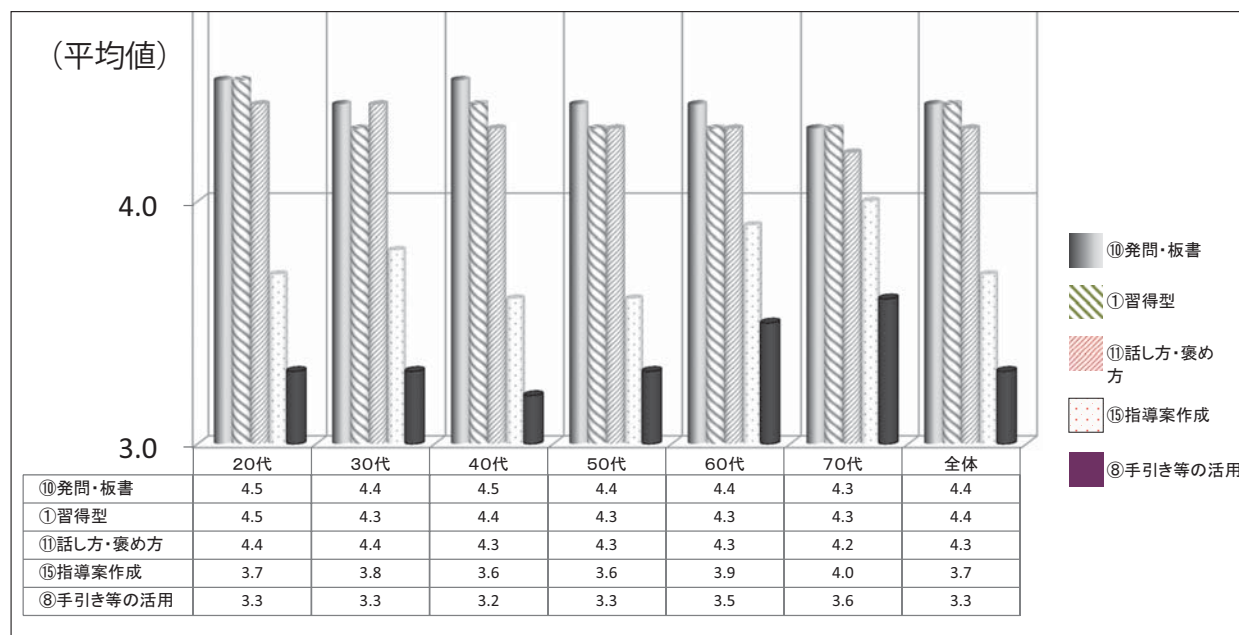
図（Ⅱ－12）大切度（小・中）年代別  
⑩発問・板書で「5」と判定したもの



図（Ⅱ－13）大切度（小・中）年代別  
⑫授業のルールで「5」と判定したもの

### （3）－④ 特徴ある項目についてのまとめ

図（Ⅱ－14）を見ると、20～50歳代の教師間では、発問・板書についての重視度と手引きの作成についての重視度の開きが大きい。60歳代以降の教師でのそれは少し小さくなっている。その要因は、60歳代以降の教師による手引き等の作成についての重視度が少し高めになっているからである。このことは、指導案の作成についても同様のことが言える。



図（Ⅱ－14） 大切度（全体）の顕著な項目 年代別

60歳代以降の教師が、現職時代はかなり重視してきたと思われる手引きの作成や指導案の作成が、20～50歳代の教師においても、もう少し重きが置かれるような取組が必要と思われる。

#### （4） 大切度、調査結果のまとめ

「⑫授業のルール」は、望ましい学習態度を形成させることにつながる。20～30歳代の教師が、「形から入る」ことを重視していることが推察されるが、「形から入る」ことにこだわりすぎると、一人ひとりの児童生徒の心に寄り添った指導がおろそかになりかねない。40～50歳代の教師には寛容さが備わり、児童生徒をうまくコントロールする力が身についてきていることの一つの表れと考えられる。

児童生徒を適切に掌握することは、学習を成立させる上での大前提である。したがって、児童生徒の多様性や、特に配慮を要する児童生徒への適切な対応には、十分に留意する必要がある。

「⑩発問・板書」は、小・中学校ともに重視されているが、特に小学校での重視の度合いが高く、小学校の20歳代は、突出している。授業技術が目に見える形で提示されるのが発問・板書である。教師間で頻繁に討議され、20～30歳代の教師には、よく指導される機会も多いので、それらが定着しているものと考えられる。管理職や研究主任等は、発問・板書のように日々の授業に密着した指導や助言をこれからも継続していくことが重要であると思われる。

## 5 役立ち度についての分析と考察

### （1） 全体的傾向について（概観）

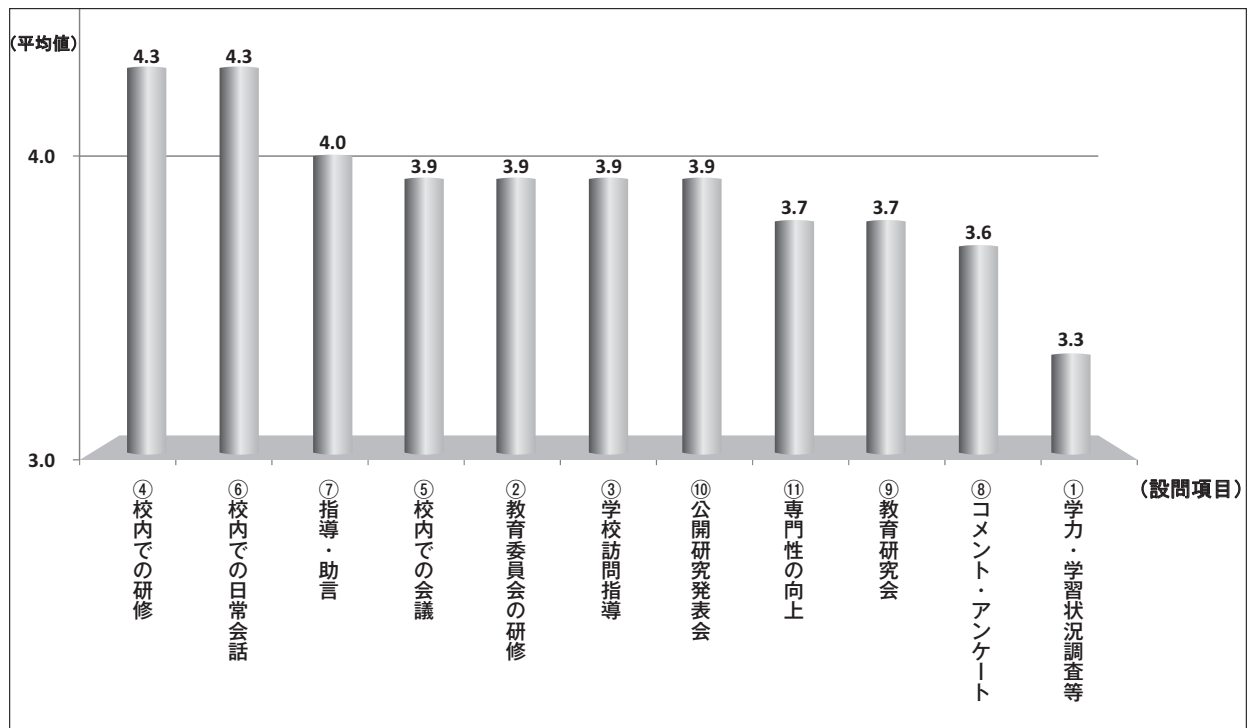
#### ① 役立ち度の評価について

役立ち度について、「教育委員会の施策」「校内での取組（同僚性）」「職員外の意見」「校外での取組」「自己研鑽」の5つの「ねらい」に分類し、調査項目と調査結果の関わりを探ってみた。

| ね ら い    | 調 査 項 目                          |
|----------|----------------------------------|
| 教育委員会の施策 | ①学力・学習状況調査等 ②教育委員会の研修 ③学校訪問指導    |
| 校内での取組   | ④校内での研修 ⑤校内での会議 ⑥校内での日常会話 ⑦指導・助言 |
| 職員外の意見   | ⑧コメント・アンケート                      |
| 校外での取組   | ⑨教育研究会 ⑩公開研究発表会                  |
| 自己研鑽     | ⑪専門性の向上                          |

## ② 各調査結果について

図（Ⅱ－２）（p.26）では、全体的に評価「4」が最も高い数値を示しており、しかも11の項目のうち「①学力・学習状況調査等」を除く10項目で「4」以上を占める。ほぼすべての場面で指導力を高めるために役立ったと捉えていることが分かる。「④校内での研修」、「⑥校内での日常会話」においては、評価「5」がどちらも40%以上であり、強くそのように感じていると答えた教師が多い。逆に「①学力・学習状況調査等」は半数近くの45.6%が評価「3」と答えている。



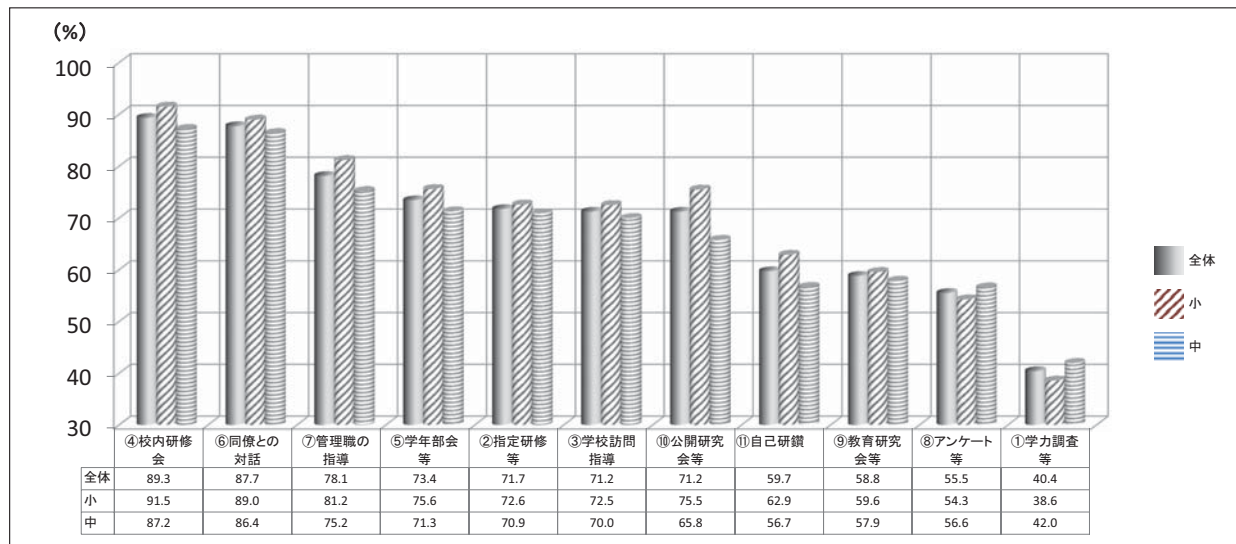
図（Ⅱ－15） 役立ち度（全体）の各調査項目の平均値（並べ替え）

図（Ⅱ－15）を見ると、特に評価結果の高い項目は「④校内での研修」「⑥校内での日常会話」の「4.3」、「⑦指導・助言」の「4.0」である。一方、低い項目は「①学力・学習状況調査等」の「3.3」、「⑧コメント・アンケート」の「3.6」である。「④校内での研修」「⑤校内での会議」「⑥校内での日常会話」「⑦指導・助言」の平均値はすべて「3.9」以上と高く、校内での関わりを通して指導・助言に耳を傾け、自らの指導力の向上を図ろうとする姿が見てとれる。

逆に、「①学力・学習状況調査等」「⑧コメント・アンケート」のように、他からの評価を受ける項目については自身の指導力を高める上では比較的低く捉えている。さらに、「⑪専門性の向上」についても「3.7」と決して高い数値ではない。

図（Ⅱ－16）では、小・中学校としてまとめた結果のうち、役立ち度がかなり高いと見る評

価「4」と「5」の合計の割合を高い順に並べ替えたものである。並び順は、図（Ⅱ－15）と同じである。ほとんどの項目で小学校の割合が中学校より高く、「⑧コメント・アンケート」「①学力・学習状況調査等」のみが逆転している。また、最上位の「④校内での研修」に比べて「①学力・学習状況調査等」はおよそ50ポイントも低い。



図（Ⅱ－16）役立ち度（小・中）の各調査項目「4」＋「5」の割合（並べ替え）

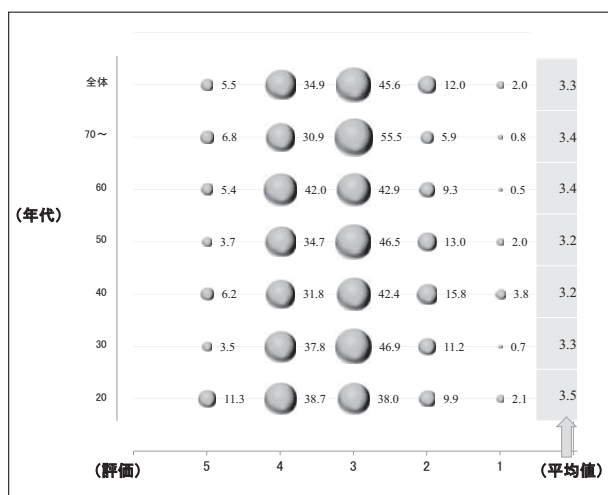
## （2）調査結果の分析について

### ① 各調査項目ごとの特徴（「ねらい」の分類による）

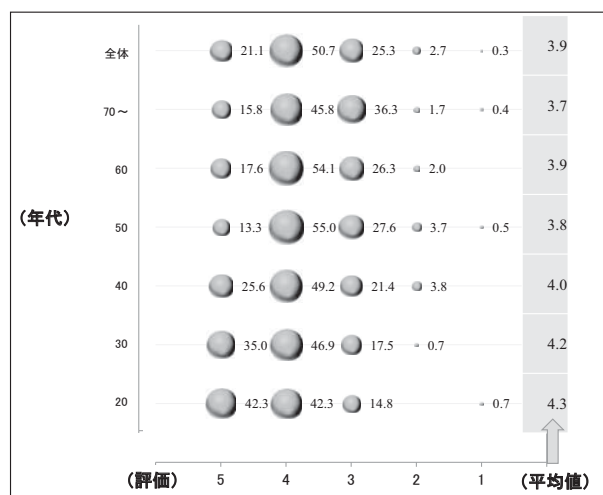
#### ア 教育委員会の施策

図（Ⅱ－17）では、どの年代においても評価「3」が多い。特に70歳代以上では過半数を示す。他の調査項目ではどれも圧倒的に評価「4」の割合が高いのに対し、この設問のみ評価「3」が多く、全体平均を下げる原因となっている。教育委員会等による調査結果が、自らの指導力向上に役立っているかについて、「どちらとも言えない」と捉えている教師が多い。

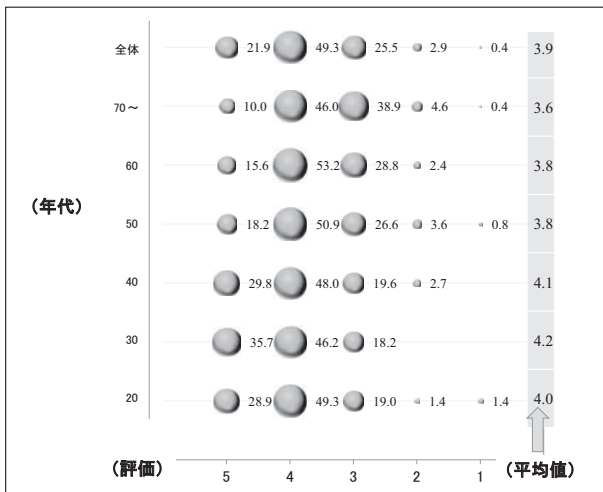
図（Ⅱ－18）及び図（Ⅱ－19）は、共通して年代が上がるにつれて、評価「3」の割合が高くなっている。相対的に評価「5」の割合は低くなっていることが特徴である。また、どの年代においても評価「4」の回答が約半数に上っており、特に50歳代と60歳代では過半数となっている。



図（Ⅱ－17）調査項目 年代別  
①学力・学習状況調査等



図（Ⅱ－18）調査項目 年代別  
②教育委員会の研修



図（Ⅱ－19）調査項目 年代別  
③学校訪問指導

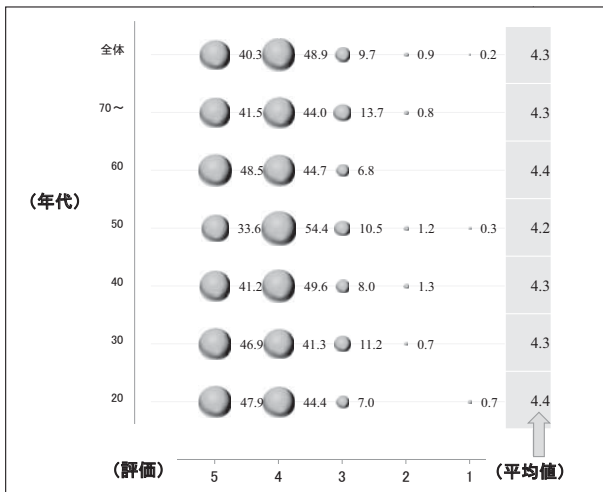
い。これこそが、秋田県における教師の指導力向上の要といえるのではないかな。

## イ 校内での取組（同僚性）

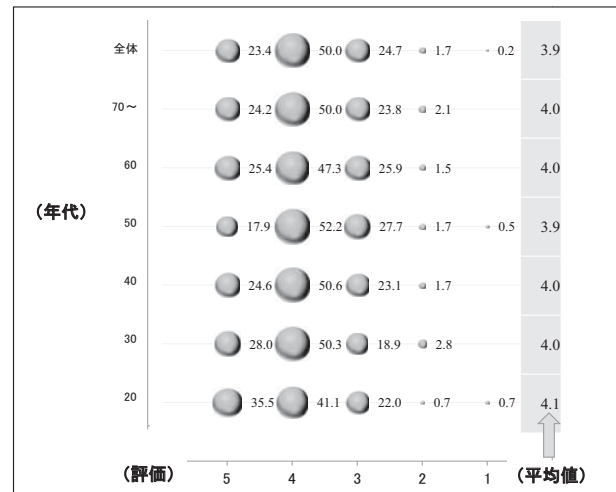
図（Ⅱ－20）、図（Ⅱ－21）、図（Ⅱ－22）、図（Ⅱ－23）では、特に「④校内での研修」と「⑥校内での日常会話」の評価は全体平均が役立ち度全体の中で最も高くなっている。

どの項目にも共通して言えるのは、すべての年代で評価「3」が少なく、評価「4」と「5」に集中していることが全体平均を押し上げている。④⑥⑦では、20歳代と30歳代で評価「5」の割合が最も高い。

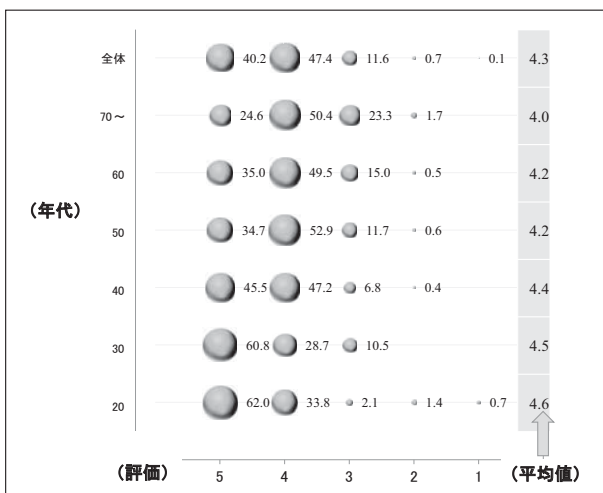
校内における研修を通して、指導力が向上したと感じている教師はどの年代においても多



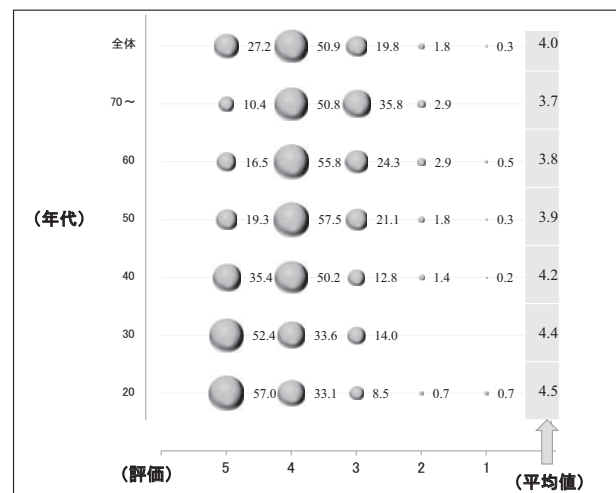
図（Ⅱ－20）調査項目 年代別  
④校内での研修



図（Ⅱ－21）調査項目 年代別  
⑤校内での会議



図（Ⅱ－22）調査項目 年代別  
⑥校内での日常会話

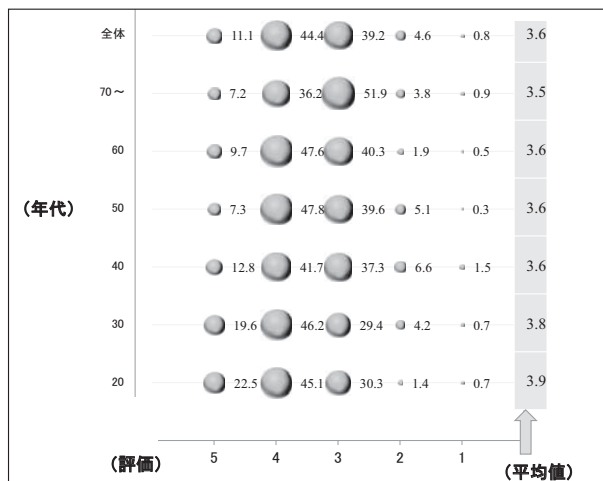


図（Ⅱ－23）調査項目 年代別  
⑦指導・助言

## ウ 職員外の意見

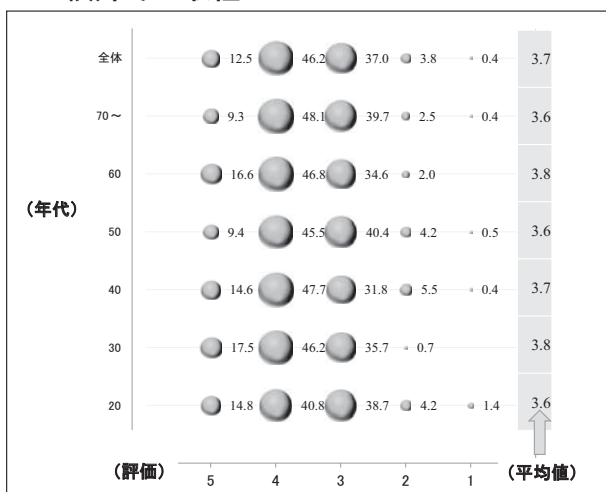
図(Ⅱ-24)では、①～⑦と同様に評価「4」と回答した割合が最も多くなっているが、70歳代では評価「3」が過半数を示す。また、評価「5」の割合は、20歳代が最も多く、年代が上がるにつれて低くなっている。

保護者の声に耳を傾けたり、児童生徒の振り返りの状況や意見等を真摯に受け止めたりして、自らの指導力の向上に生かそうとする若い教師の姿が浮かび上がっており、今後のさらなる学校の活性化に向けて喜ばしいことである。

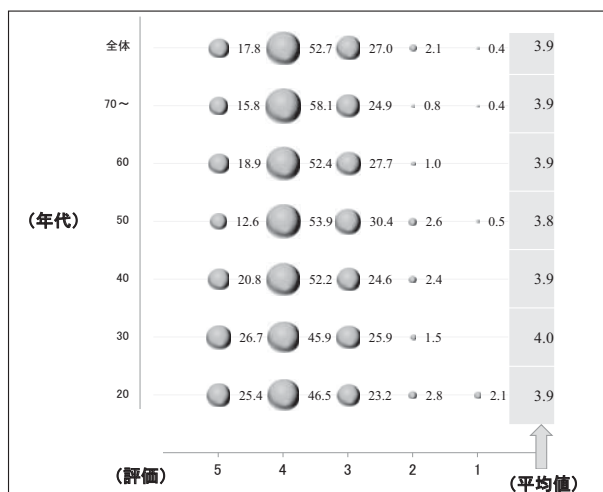


図(Ⅱ-24) 調査項目 年代別  
⑧コメント・アンケート

## エ 校外での取組



図(Ⅱ-25) 調査項目 年代別  
⑨教育研究会



図(Ⅱ-26) 調査項目 年代別  
⑩公開研究発表会

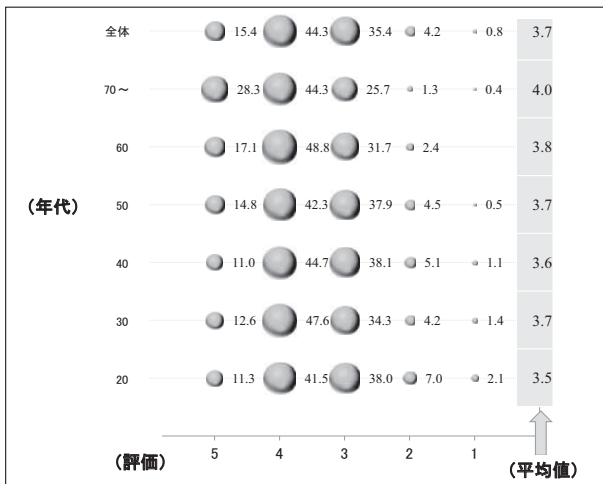
図(Ⅱ-25)では、④～⑦までの項目に比べると平均値は「3.6」～「3.8」とやや低いが、評価「4」と回答した割合が最も多く、指導力を向上させるために役立っていると実感していることが伺える。また、図(Ⅱ-26)では、すべての年代において、評価「4」の割合が最も高くなっており、40歳代以上では過半数となっている。

教育研究会や公開研究発表会等の校外での研修が、どの年代においても、ほぼ同様に自身の指導力向上に相当程度役立っていたと受け止めていることが読み取れる。管理職や研究主任等は、このような研修で得た知見を、今後も広く校内で共有できるようにしてほしいし、研修の意義を機会ある毎に指導してほしい。

また、校外研修のための出張等が生じた場合、それは教師集団を代表した立場であることを明確にし、出張者からの伝達が無理なく行われるように図らなければならない。

## オ 自己研鑽

図(Ⅱ-27)では、すべての年代において、評価「4」の回答の割合が最も高くなっている。



図（Ⅱ－27）調査項目 年代別  
①専門性の向上

値を比較したものである。この調査のねらいは、国、県及び市町村教育委員会による教育行政上の施策として実施されている学力・学習状況調査が、教師自身の指導力にどのくらい役立っているかを見ることにある。

また、60歳代以上は異なるが、その他では評価「3」の割合が評価「5」の割合に比べて2倍以上となっている。

教育書やサークル活動などによる自己研鑽は、自身の課題意識の強さによるところが大きいと考えられるが、高年齢になるほどその傾向が大きく表れている。現職の教師は、自己研鑽に努めてきた退職した教師の姿から、多くのことを学ぶ必要があると考える。

## ② 評価結果が特に低い項目について

図（Ⅱ－28）では、全項目中最も低い数値となった「①学力・学習状況調査等」の年代別平均



図（Ⅱ－28）①学力・学習状況調査等の年代別平均値の比較

年代別に見れば、「3.2」から「3.5」と僅差ではあるがわずかな捉え方の違いが見られる。このことをどう分析するべきか。全体の平均値は「3.3」と他の調査項目からすればかなり低い。①については、40歳代の「3.2」、30・50歳代の「3.3」を低い数値と見れば、20歳代の「3.5」及び60・70歳代の「3.4」はやや高いと見るべきだろう。これらの年代別平均値の小学校と中学校の

差はほとんどないことから、そのまま年代別の平均値で考察することができる。同様に、p.61の全体集計「役立ち度」からは、評価点選択の「5」は6.2%と極めて低い数値で、対極の選択肢である評価「2」+「1」の19.6%と比較すると三分の一前後である。同じく30歳代と50歳代は、全体の平均値「3.3」と、40歳代に次いで低い数値である。50歳代の評価点選択の割合も評価「5」は3.7%と低い数値で、対極の選択肢である評価「2」+「1」の15.0%と比較すると四分の一程度である。

これらの分析から、「①学力・学習状況調査等」について考察すれば、全体的には教師たちの受け止めは極めて低く、自分のために役立っているわけではないと判断せざるを得ない。年代的には、20歳代の若い教師たちは比較的役立つと捉えているのだろうか。実施直後の自己分析を見ているのか、秋の文科省の分析結果を見ているのか。調査結果が低かったのは事実ではあるが、短絡的に数値だけを見るのではなく、結論を出すのは現場の教師たちと議論してからでも遅くないように思う。

### (3) 役立ち度、調査結果のまとめ

本県の小・中学校を視察する他県の教師が口をそろえて話すのは、「どの授業者たちもノート、学び方の指導などを日常的に実践されているように思える。」「校内研修などでしっかり共通理解ができているのではないか。」ということである。役立ち度の調査結果からも、同僚との授業づくりや学級づくりについての会話が頻繁に行われ、指導力の向上に役立ったと実感している実態が伺える。

さらに、各学校の管理職がこまめに授業について指導し、教師たちの相談にもものっている。また、信頼関係に基づいた指導が自身の指導力の向上に役立っていると若い教師たちが感じており、授業改善の意欲向上に繋がっている。

秋田県の教師たちは、多くの機会を捉えて積極的に役立てるべき指導内容をはっきりと把握しようとしている。その姿勢は、顕著に各項目の数値に示されており、きわめて良好な結果であると判断できる。特に、特別な日程や時間を設定することなく、毎日の校内での日常の会話や相談、研修の機会を大事にし、意図的に活用する姿勢がどの年代にも身に付いて伝統として継続されている。これが、教師一人ひとりの指導力向上に役立ち、秋田県の教師たちの強みとなっている。また、どの項目でも、すべての年代で評価「1」及び「2」が非常に低いことから、本県の教師たちが様々な課題に対して創意工夫し解決しようとする姿勢が見られる。

## 6 アンケート調査の自由記述から

自由記述からは、教師としての使命感や感化された先輩・同僚の存在が浮かび上がってくる。特に、自己研鑽や研修の必要性を感じ、様々な手段や方法を模索している姿が見られる。そして、自主的な研鑽を重ねていくうちに、実践的な経験を積み重ねている集団や個があることに気づき、学ぶことの喜びや満足を感じている。校内での人間関係はもとより、それとは異なる集団や個に自らの研修を照らし合わせて、より高度な学習指導を求める動機づけとなっていると感じる。

また、研鑽を積みながら、価値観の高揚の場の広がり求めて、研究会等の研修の機会を捉えて、生かそうとしているのが分かる。わずかなきっかけを捉えて、多くのことを学ぼうとする意欲が湧出しており、指導力向上を願う教師たちの姿がこの自由記述に数多く認められた。

そして、何よりも秋田県の教師に共通していると思えたことは、校内外の教師仲間を大事に

し、共に学ぼうとする同僚性がはっきりしていたことであり、これこそが自主研修の最大の土壌になっていると感じられたことである。

### ＜「大切度」の自由記述＞

- ア 上位層を引き上げるための教材の在り方や指導法を工夫した。
- イ 児童生徒とのコミュニケーションを大切にして、健康状態や顔色、心の様子の変化に気づけるようにした。
- ウ その生徒なりの努力を評価し、ことばかけを心がけた。
- エ 学びと生活との関連をはっきりさせるため、生活に密着した例を教材にと心がけた。
- オ 地域の素材を学習に生かした。
- カ 学びの過程や自分自身の成長が分かるような学習シートを作成するよう心がけた。
- キ 学んだことのイメージ化のために、ノート指導や板書計画に重きを置くようにした。
- ク 主発問は、児童生徒にとって、身近で具体的で興味関心があるものであるよう心がけた。
- ケ 学習意欲を高めるために、追求する価値のある課題づくりを心がけた。
- コ 学習課題は、児童生徒からの問いを大切にして作成するように心がけた。
- サ インパクトのある導入や自分の考えを大切にして作成するよう心がけた。
- シ 学習に見通しを持たせ、学習意欲を高める単元構成（特に導入と終末）を工夫した。
- ス 納得のいく授業をするために、きめ細かな指導案づくりをした。
- セ 児童生徒の心にフィットするよう、自らの人間性や感性の陶冶、表情・視線配り、話し方、動き・態度などを向上させるよう努めた。

### ＜「役立ち度」の自由記述＞

- ア 圧倒的な授業力を持った数名の教師との関わりがあった。
- イ 毎年資料集を編集、作成したことで、知識が広がった。県内外の教師との研究交流、各種研究団体、研究学会等への参加、発表、応募などが刺激になった。
- ウ 先進校の公開研究発表会への参加、教育研究会での研究発表等が研鑽につながった。
- エ 指導内容の教材化、教材づくりが自己研鑽の動機づけとなった。
- オ 教育実践集を参考にしながらの自主研鑽が実践力向上の基になった。
- カ 小集団による議論が研鑽する力を高め、授業等の実践に役立った。
- キ 自らの教材研究に加えて、同僚と教材や指導法、指導観、実際の授業について話し合ったことが、授業力の向上に繋がった。
- ク 自己研鑽の機会を充実させるために、校内研修会や教科別授業研究会が人との出会いをつくり、自身の教科研究を深めることに繋がった。
- ケ 職員の和が感じられる学校の雰囲気は児童生徒や保護者等との信頼を生み出した。
- コ 教師が力をつけないと児童生徒が育たないのだから、研修会や研究会へ積極的に参加するよう心がけた。
- サ 研修会や研究会を終えた後の懇親会等の機会に、先輩・同僚と心おきなく議論しあったことが自分を高めた。
- シ 同僚からの助言や授業を見合う機会があったことで授業力をつけた。
- ス 児童生徒に確かな学びを保障するという必要観の有無が研修の成果を大きく左右した。

## 第Ⅲ章 秋田の教育 あすを見つめて

「大切度」と「役立ち度」からの提言

### 1 大切度の考察とまとめ

「発問・板書」「基礎・基本の定着」「話し方や褒め方」「練り上げの工夫」「学習のルール」の定着」「探究型の学習の展開」「未達成者への指導」については、相当に高いレベルの指導が展開されている。

全体的に評価の程度は高いが、図（Ⅱ－4）のように、下位の「学習成果の確認」「ノート指導」「達成者の引き上げ」「形成的評価」「学習指導案作成」「手引き等の活用」については、上位の項目に比し、隔たりがあるように見える。また、図（Ⅱ－5）から図（Ⅱ－11）までに示す年代別の評価は、図（Ⅱ－12）から図（Ⅱ－14）までに示す年代別、小・中学校別の評価から浮かんでくる特徴が明らかにされている。

その中でも、特に注目すべき点について初めに言及しておきたい。

まずは、「⑮学習指導案作成」と「⑧手引き等の活用」について、退職した教師に比べると、現職教師の重視度がかなり低い傾向にあったと言うことである。

これらは、ともに授業実践の事前に行う教材研究を具現化したものの一つである。このことは、児童生徒の学力保障・成長保障を使命とする学校教育に携わる教師にとっては、由々しき事態である。

「このような単元展開の中で、本時のねらいをどう設定したらよいのか」「この教材・教具で真にねらいに迫れるのか」「児童生徒がこのように反応した時はどう切り返すのか」「この板書で、児童生徒の思考の流れを整理し、深めることができるのか」「この授業展開で、果たして児童生徒はより高い次元の理解・概念を獲得できるのか」といったようなことに想いを巡らし、緻密な計画を立て、授業の中でそれを実践していくのが教師の肝要な職務である。

次に、日々の授業実践に直接関わる「⑩発問・板書」や「⑪話し方・褒め方」、「⑫授業のルール」などの項目が、全ての年代で重視されてきているということがある。これは、退職教師と現職教師が、これらの項目を重視して共通実践してきているということであり、授業技術の基礎・基本が校内研修会や教科研究会等において、教師の経験知・実践知として確実に伝承されてきたことを意味している。

綿密に学習指導案を作成することによって、「板書計画」や「ノート指導」、「話し方や褒め方」そして「手引き等の作成」をきちんと計画することで、より上質の授業が展開されることになり、良い学び手を育てることとなることを今一度確認したい。

一人ひとりの教師に学習指導案作成の意義を再確認しつつ、管理職や研究主任等は指導性を発揮しながら、児童生徒の学力向上に繋がる授業づくりに努めてほしいと思う。

#### (1) 授業中における児童生徒への直接的な指導・対応の視点から

##### ① 「⑩発問・板書」について

「⑩発問・板書」は、小・中学校ともに重視されているが、特に小学校での重視の度合いが高く、小学校の20歳代は突出している。授業技術が目に見える形で提示されるのが発問・板書である。

教師間で頻繁に討議され、20～30歳代の教師には、指導される機会も多いため、それらが定着しているものと考えられる。

授業において「発問」は、学習展開の骨格をなすものであり、授業のねらいに迫り、児童生徒の学習意欲が持続するように精選する必要がある。さらに、児童生徒の思考を深く掘り下げ、視点を広げるためにも十分に吟味された発問が工夫されなければならない。

「板書」は、発問に連動して児童生徒が思考の流れを整理し、本時がねらうより高次の概念形成を円滑に進めることができるようにするために欠かせないものである。これはノート指導にも結び付き、家庭学習や復習へと発展していくことになる。

日々の小・中学校の授業では、それぞれに発達段階に応じた発問や板書が工夫されている。小学校は低年齢の児童を対象とした細かな配慮があり、中学校では専門性の高い内容を分かりやすく学ばせようとする工夫が見られる。それぞれの指導技術をお互いに学び合う機会を持つことが授業改善に繋がるのではないか。

## ② 「⑫授業のルール」について

「⑫授業のルール」は、望ましい学習態度を形成させることにつながる。しかし、ルールを重視し過ぎると、児童生徒たちの活動が余裕や広がりには欠けるほか、一斉画一的なものに陥る危険性がある。

基本話形や声の大きさといった外形的なものだけに目を奪われることなく、教科特有の思考のあり方を促し、思考力や表現力、判断力などをしっかりと育む「好ましい学びの在り方」を児童生徒自身に獲得させることが重要であると考ええる。

若い教師は、指導経験が少ないために、児童生徒をしっかりと掌握し、多方面にわたって職務を遂行することに、大きな労力を注がなければならない状況にある。一方で、40～50歳代の教師は経験を重ねることにより、児童生徒を実態に合わせて指導する力が身に付いてきている。児童生徒を適切に掌握することは、学習を成立させる上での大前提である。授業に向かう際の基本的なルールは、躰ける必要は十分あるが、児童生徒の多様性や「特に配慮を要する児童生徒」への適切な対応には、十分に留意したい。明るく楽しい雰囲気の中にも、けじめのある緩急をつけた授業が展開できるように、ベテラン教師や管理職等は、若い教師を支援・指導して欲しい。

学び方や授業のルールを大切にしていくことは、真の児童生徒同士の学び合い学習を成立させる。また、一人ひとりの児童生徒を大切にしたい授業を実践するための不可欠な要素として「良好な学習集団の育成」がある。良好な学習集団の育成という視点も引き続き大切にしていかなければならない。教師による授業ルールの「しつけ」は、成長段階に応じた指導が必要であり、引き続き重視していきたいことである。

## ③ 「⑪話し方・褒め方」について

教師の「⑪話し方・褒め方」は、教師の人間性に関わる部分も大きいと考えられる。若い教師が児童生徒への指導や対応でつまずいたり試行錯誤したりしているときには、ベテラン教師には豊かな教職経験を基にしながら、時や場に応じて適切な支援・援助を行って欲しい。

## (2) 基礎・基本の定着の視点から

本時での学びをしっかりと整理し、いつ見ても学習内容がよく分かるようなノートづくりの指導に今後も力を注いで欲しいものである。発達段階に応じたノート指導は、基礎・基本の定着の

手立てとなり、さらなる学習の深化にも繋がる。

学校は、基本的には集団の中で様々な活動や体験を通して人間としての成長を遂げる場である。各教師がそのことをしっかりと認識し、今後も児童生徒同士の学び合いの中で、児童生徒が自らの学力を獲得していく授業の展開を重視したい。

### (3) 単元構想の視点から

授業実践のためには、単元の目標に照らして使用する資料や教材、教育機器等さらには評価計画や発問など、単元展開の「設計図」が必要であり、それが「単元構想案」であり「学習指導案」である。それにもかかわらず「⑮学習指導案作成」を重視する割合が総じて低かったことは、大いに憂うべきことと考える。教師の命は授業であり、その授業は、教師が自分のこれまでのあらゆる経験や知見を総動員して練り上げられるべきものである。それが学習指導案を作り出し、具現化されたものが授業である。

かつては、頻繁に実施された公開研究会などの機会を捉えて、様々な資料を作成し、学習指導案を練り上げて、授業改善に努めてきた経緯があるが、近年は、それらの重要性が十分に認識されていないように思われる。

これは、「授業を命」とする教師にとっても、研究不十分な学習指導案で指導を受ける児童生徒にとってもきわめて不幸なことである。学校教育に関わるすべての関係者が力を合わせ、教師が「良質な教材」と「深く吟味された指導案」を準備することの重要性を再確認したい。教材研究は、教師の重要な本来業務の一つである。管理職や研究主任等が中心となり、各学校の実情に即した「学習指導案のひな型」がしっかりと整備され、それらを基に、教師集団が議論を交わしながら、よりよい学習指導案の作成に取り組む姿を追い続けたいものである。

## 2 役立ち度の考察とまとめ

調査項目の5つの「ねらい」(p.35)に基づき、考察した。

### (1) 教育委員会の施策 【必修となる官制研修】

教育委員会の施策に関わる調査項目は ①学力・学習状況調査等 ②教育委員会の研修 ③学校訪問指導 である。調査結果を見ると、①の平均値は「3.3」と全調査項目中最低値を示しており、しかも年代が増すにつれて数値は低くなる傾向にある。つまり、①については、日々の授業との関わりが薄くなり、それほど重要視していないのではないか。学校現場においては、学力・学習状況調査実施後に今後の指導に生かすための児童生徒のつまずきなどの全校的な傾向は掴んでおり、そのことの重要性は認識している。文部科学省の結果分析を待つまでもなく実質的な指導を終えていることになる。

②と③については、平均値は両方とも「3.9」と中位を示している。学校現場が求める研修状況に合った指導が可能であり、即時性があることから、教師が求めていることを的確に把握しながら、実情に合った課題を選択して指導できる。特に③については、学校や教師たちが求めるきめ細かな指導事項の把握が可能であり、十分な指導効果が期待できる。

### (2) 校内での研修 【同僚性に見られる日常的な指導力の育成】

調査結果は、「校内での研修や会議、日常会話」及び「管理職や研究主任などからの指導と助言」

により、多くの教師は指導力が明らかに向上したと認めている。

同僚から、教職に対する構えや思いのほか、捉え方や教育的な指導の在り方、具体的な学習指導場面などについて日常的に指導されていることが、調査から明らかにされており、時宜に応じた話し合いの場や指導と助言の機会があったことを示している。さらに、学校全体の雰囲気、「同僚性」に支えられて、児童生徒の安心感を生み出しているのではないかと。教師に対する信頼が、学習を成立させており、次に示すフィードバックも含めて、学びの根幹を成すものと確信できる。

秋田の学力の維持・向上は、職場における確かな「同僚性」によって支えられているのであり、これが教師の確かな指導力の礎になっている。

### (3) 児童生徒からのフィードバック 【児童生徒の学びを生かす振り返り】

授業時における学びの確かさは、児童生徒の振り返りや自己評価に表れる。「指導と評価の一体化」である。「教えっぱなし」や「分からせたつもり」では、学習が十分に成立していないことになる。調査結果は、学び手である児童生徒が学習内容をどのように受け止めているかを常に把握していたことを示しており、学習後の「学習（評価）カード」や「ノート」は、児童生徒からのメッセージであると捉えていることを表している。時と場に応じた指導の糧として生かしていけるよう努力して欲しい。

学習指導が児童生徒にとって価値ある学びとして成立したか否かの判断は、研修を積み重ねている教師の力量となって還ってくるものであるから、児童生徒からの学びの深さのメッセージと捉えてなお一層大切に受け止めて欲しいものである。

### (4) 校外での研修 【教育研究会や公開研究発表会で始まる自己研鑽の道】

校内のみならず、校外での研究会や発表会などからの教師の学びは大きい。学習指導の新たな視点に気づき、自らの教育姿勢や指導の在り方を見つめ直すことが出来るからである。

研究会や研究発表会には必ず研究テーマが明記されている。必要としている研修テーマを選択し、興味関心に合致する研鑽となるよう、その機会を大切にしたい。研究会では、指導助言者として大学教授や著名な学者が講演を行うことが多いので、先見性のある識者の意見が聞ける機会となる。また、参加者との交流が見込まれ、ともに研鑽する友人が出来る機会でもある。これらのことが真の「自己研鑽の道」に繋がっていくと思われる。

秋田県においては、自発的な「秋田県〇〇教科教育研究会」や、郡市における同様の研究会が存在し、県や市町村主導による指定研究会とともに数多く実施されていたが、残念ながら特に指定研究会は一気に後退した時期があった。近年、県教育委員会主催の「学力向上フォーラム」が毎年開催されるようになり、再び研鑽の機会が生まれてきていることは望ましい傾向である。

### (5) 自己研鑽 【専門職として輝くための資質・能力】

教師たちは先進的な学術論文や指導書などを参考にして、また多くの同僚などから日常的に学ぶことによって、専門職としての資質・能力を高め、力を蓄えている。専門性を意識した教師たちの研鑽により、教師としての存在感が増し、教職を担うものの支えとなっている。

これまでの経験知や実践知などにより一人ひとりの教師の資質・能力は異なっているが、かなり高い水準で教職に携わっていることは今回の調査により改めて認識された。しかし、多くの機会を捉えて、なお一層の研鑽を積んで欲しいと願っている。

秋田には、同僚にすばらしい刺激を与える「研修意欲に満ち溢れたベテラン教師」や「多くの人生経験を生かしながら教育に邁進している人間教師」、「教師としての“生き様”を常に磨き上げる教師」が数多く存在する。教師として高められ蓄えられてきた資質・能力をさらに引き上げようと努力する姿を、ぜひ引き継いでいきたいものである。

### 3 アンケート調査 全体のまとめ

今回のアンケート調査は、秋田県の教師の「授業力」の実像を把握し、更に分析をして、今後の好ましい方向につなげるためのものである。

一つ目の「**大切度**」の各項目は、全て「授業力」の向上には欠かすことのできない研修内容ばかりである。しかし、各教師が「何にこだわりを持って、大切と判断したか」を探ることによって、何を優先して授業に臨んでいるかといった「重み分け」が見えてくる。

上位4項目は、上から「⑩発問・板書」、「①習得型」、「⑪話し方・褒め方」、「⑦学び合いの設定」であった。これらは、日々の授業におけるテクニク的な事柄である。また、下位の4項目は、下から「⑧手引き等の活用」、「⑮学習指導案作成」、「⑭形成的評価」、「⑥達成者の引き上げ」である。とりわけ、「⑮学習指導案作成」が最下位に近かったということは、注視したい問題である。

60歳代から70歳代の退職した教師に比べて、現役の若い教師は、研究指定校や公開研究会が少なくなって、目標の関連図・目標分析表・目標系統図・全体計画と形成評価・評価基準表・指導観を含む本時の計画など、単元全体の指導計画のフルバージョン方式の「⑮学習指導案作成」を見る機会が減ったのかもしれない。フルバージョンではないにしても、本時案を中心にして「自分は、この指導案で授業の計画を立てる」という、確固たる形式のものをもっていないのであらうと思われる。

※ 「⑮学習指導案作成」を中心に、研修の大切度の項目を整理してみようと思う。

ア 授業構想のスタートである。（「略案」よりも先に存在する基本設計である）

◆ 単元（題材）全体の構想である。児童生徒の実態や教材の論理に基づいて、最も有効に目的に接近する流れを選択。「⑦学び合いの設定」、「④指導形態の工夫」

◆ 「本時案」は、全体構想の一部ではあるが、単元（題材）全体を貫くねらいに沿って工夫する。「⑩発問・板書」

イ 概念形成の流れを描く設計図である。

◆ 目的に沿った思考の流れを工夫する。「①習得型」、「②活用型」、「③探究型」

◆ ねらいに届くように「⑩発問・板書」を工夫する。（主発問、補助発問等の工夫）

ウ 事前の案が、実際の授業によって変化することもあるほど、児童生徒に寄り添ったものである。（指導と評価の一体化）

◆ 児童生徒の「振り返り」などの授業後の分析により、次時の計画を修正する。

◆ 特に「⑭形成的評価」によって、児童生徒の理解の深さを測り、修正することもある。

「⑬学習成果の確認」「⑤未達成者の引き上げ」、「⑥達成者の引き上げ」

エ 最終的には、全ての児童生徒に「学びの成立」をもたらすものである。

◆ 授業の終わりには、児童生徒の頭の中に学習内容がイメージ化されることが大事である。

「⑩発問・板書」にまとめられた思考の流れは「⑨ノート指導」へ（家庭学習へ）。

## オ その他、全体を通じて注意すべきこと

◆ 「⑮学習指導案作成」の様式は、教科の特性、その学校の研究の分野などにより、指導案の「ひな形」が変化するのが普通である。「ひな形」は研究主任等が考案する。その学校に一つあればいい。それを基に、各自が更に工夫するのである。

特に、「指導過程」の欄の記入については、「導入・展開・整理」などという教育実習時代とは異なり、論理を積み上げていく系統的単元教科と、表現を主とする題材教科は、特徴が異なるため、創意工夫が生きる部分でもある。

そうした基準があれば、所長訪問や要請訪問時の一般授業用の「略案」は、簡略化されていても、その学校らしい意味のある「学習指導案」になる。

◆ 「⑫授業のルール」については、基本話形や声の大きさや手の挙げ方などの躰と言われるものの「型はめルール」ではなく、教科の思考を促す「教科特有の言語」の活用や、学習のプロセスにおける記録のとり方など、思考力や表現力、情報処理能力や数学的・科学的思考力を育む「好ましい学び手」を育てることを視野に、教材の論理から導き出される「**確かな学力**」を念頭におきたいものである。

以上のように、「⑮学習指導案」の作成がスタートで、そのプロセスには様々な研修の入り口が存在する。しかし、「授業力」は「授業」で身につくものである。「⑪話し方・褒め方」の工夫などは、その顕著なものである。したがって、大切な研修内容は、校内の授業研究によって身につけているのである。それを裏付けているのが、「**役立ち度**」である。

二つ目の「**役立ち度**」は、上位4項目が**全て校内の研修**であった。上から「④校内での研修」「⑥校内での日常会話」「⑦指導・助言」「⑤校内での会議」である。これら4項目の研修の場は、学校という柔軟な研修体制の中で、一人ひとりの教師のニーズに応じた即戦力となる「授業力」の育成の場である。目の前の子どもの実態一つについても、先輩教師と新人教師が真摯に語り合えるからこそ、効果が認められるのである。

校内研修4項目の後には、「②教育委員会の研修」「③学校訪問指導」「⑩公開研究発表会」と続く。これらは、自校の教師以外に、指導主事や他校の教師が加わって議論や協議が行われるものである。勤務校を離れて、価値観の異なる人々や、新鮮な感覚の実践家と意見を交わすことによって、**覚醒される自分**がいる。目覚めさせられた研修意欲は、この教師を大きく飛躍させるものとなるだろう。「人（教師）が、人（教師）によって、人（教師）になる」

以上の結果は、「①学力・学習状況調査等」、「⑧コメント・アンケート」が、なぜ最下位であったかをも含めて、教師研修の要点を示唆してくれている。他人から価値を強要されたり、専門家でもない人々からの一般的な意見をいくら言われても、身に着く研修とはならない。目の前の一人ひとりの児童生徒の「学び」を、「授業」という場でどう生かすかということが、その教師の重要な内発的動機となって、教師を有意義な自己研修へと駆り立てていくのである。

やはり「同僚性」の中で育まれた「**実感のこもった研修成果への気づき**」の積み重ねが大事なのである。調査実施以前から予想されていたが、校内研修の充実が「授業力向上」のポイントなのである。

## 第Ⅳ章 秋田県の教師の授業 語り継ぐ逸話・体験から

抽出された「教師の生の声」の数は少ないが、数々の逸話からは、折に触れて刺激を受け、発憤している教師の姿が伺える。この姿が、秋田を支えて来たのかもしれない。

（＊現職の職名は、平成31年3月現在です。）

### <鹿角>

#### 【 教師は広い世界への案内人 】

現職 奈良 育 校長

その先生は常々「教師は広い世界への案内人である」とおっしゃっていた。それはどの教科であっても、これから数十年生きていく生徒たちにとって、過去から現代・未来へと繋がる社会や文化・歴史の扉を開ける役割を教師は果たさなければならないとの持論があまりのようだった。

国語科「平家物語」の授業は衝撃的だった。教科書には「祇園精舎」「那須与一」が載っていたが、あれは発展授業というのだろう。「俊寛」「清盛熱死」「忠度都落」「木曾最期」「帝入水」「壇の浦」等のエピソードを生徒たちが発表するのであった。説明や寸劇、意見交換等の後に、格調高く美しい和漢混淆文が担当班のリードによって生徒全員で音読され、参観している私は諸行無常の世界に生きているかのような錯覚を覚えた。大げさに言うなら日本人としてのアイデンティティが生徒たちに醸成されたであろう授業であった。間違いなく私の授業の転機となった。

#### 【 鹿角・小坂地区の初任者研修 】

現職 中 井 淳 校長

鹿角郡市の初任者配置数は県内でトップクラスに高い。教員の平均年齢は若く、年齢構成のバランスも良い。といえは聞こえはよいが、要は、人員が足りないため、他地区から教師を借りざるを得ないのである。他地区から鹿角郡市に採用になった初任者は、数年こちらで教師生活を送った後、ほとんどが地元に戻っていく。何となく寂しい話である。

だが、言い換えれば、鹿角郡市で初任研を終えた教師が県内各地にいるということでもある。実際に、他管内の公開研究会等で、鹿角郡市で初任研を受けた教師が授業している場面を見る機会があったが、生き生きとした姿を見ると、何故か誇らしい気持ちになる。お世辞とは思いが、校長先生から「良く育てていただいて」と言われるとなおさらである。鹿角の地道な教員研修が教育立県秋田を支えていることを、鹿角郡市の教師たちはもっと誇りに思っていると思う。

### <大館北秋田>

#### 【 研究大会のお昼に食べた「鶏めし弁当」の思い出 】

退職 田 山 義 貴 氏

手元に一冊のファイルが残っています。

これは、今から10年以上も前、「秋田県算数数学教育研究大会（大館大会）」の参加者へのお土産として、郡市算数数学部員全員が実践を記録し、同じ様式で創り上げた資料集です。

研究部長を務めていただいた中学校の校長先生が、部員一人ひとりと遣り取りをする中で完成しました。当時部員の間では、「研究部長から電話が来た？」というフレーズが時候のあいさつ代わりになったとのこと。また、公開授業の指導案を、中学校郡市新人大会の会場ステージ上で、熱く激しく検討を重ねて完成させた、というエピソードもありました。

研究大会を開催するに当たって、大会の成功のみならず、部員一人ひとりの授業力向上もテーマとしたことが、その後の教師たちの研究魂に灯をともし契機になったと振り返っています。

### 【 研究・研修の積み重ね 】

退職 佐藤 久生 氏

現在、多くの学校に加配教員が配置され、T T（ティームティーチング）や少人数学習が進められている。30歳代前半、昭和61年から7年間、オープンスペースを有する比内町（現大館市）立西館小学校に勤務し、個に応じた学習指導はどうあればよいか、オープンスペースの活用と協力授業（T T）の在り方をテーマに研究に邁進していた。今でこそT Tが当たり前のように行われているが、その当時は批判的な考えもあった。そこで、「教室の壁」、「時間の壁」、「人の壁」を作らないオープンな考え方で指導方法の工夫改善に取り組んだ。平成元～3年度文部省、平成2・3年度県教育委員会から「指導形態の多様化等に関する調査研究協力校」に委嘱され、文部省教科調査官や大学教授、県教委から多くの指導を仰いだ。頭の中がパンク状態になりながらも「まず、やってみよう」と仲間と夜遅くまで学習指導法を模索していたことを思い出す。

## <能代市山本郡>

### 【 『やまなし』 がもたらしたもの 】

現職 矢田部 瑞穂 教頭

宮沢賢治の「やまなし」。私一人ではたどり着けなかった賢治のメッセージを見つけることができたように感じたのは、46歳の時。教育専門監として迎えた11月の学力向上フォーラム。「自分に何ができるのか」と一人で勝手にプレッシャーと戦っていたような気がする。

「やまなし」の単元計画10時間。私は毎日子どもたちの読みの深さに興奮した。教材研究において最も大事なことは、子どものノートを読むことだと思う。子どもの言葉を大事にすることで授業は変わる。「『やまなし』は人のために尽くした賢治の生き方と重なる。『魚』も『やまなし』も『死』という共通点があるが、天寿を全うし恵みをもたらす『やまなし』が賢治そのものであった。題名を『やまなし』にしたのは、僕たちへのメッセージだと思う。」授業を参観くださった約200名の方々から拍手が起きた。忘れられない時間であった。

### 【 ティーム・ティーチングの導入に当たって 】

退職 佐藤 敬顕 氏

第6次公立義務教育諸学校教職員配置改善計画を受け、秋田県教育委員会は平成4年度に県内の小・中学校6校を「指導形態の類型」調査研究協力校として委嘱したが、私自身もその内の1校において調査研究に係わることができた。今ではどの学校でも日常的に行われているティームティーチングであるが、当時は実践事例も少なく試行錯誤の連続であった。言うまでもなく、ティームティーチングでは授業の計画、実施、評価のすべての過程において複数の教師が協力的な指導体制を組んで指導に当たることが求められるが、中でも授業の計画の段階での事前調査の実施と集計・分析に特に多くの時間を割いたように記憶している。生徒一人ひとりの既習事項の定着状況と学習意欲の度合いを事前に把握し、それをもとに授業場面で個に応じるためにはどのようなかわりが必要かについて、ティームで検討を重ねたことが思いだされる。

## <男鹿市>

### 【 有給の教育実習生 】

退職 伊 藤 章 氏

昭和52年、講師で赴任した山王中学校は10月の市学習指導公開研究会開催に向け、研究推進に傾注していた。体育科は実践家として名高い近藤達子主任はじめ、進取の気概に溢れる円熟した教師6+1名で構成されていた。若輩講師に出番はないと他力本願を決め安穩としていた時、彼らの「課題解決的な授業」で多くの子どもが変容していく姿を目の当たりにし、コペルニクス的転回と驚愕した。稚拙とは言え、築いてきた指導理念はあっけなく瓦解。と同時に、教科指導方法再履修必須を痛感した。幸い贅沢すぎるほど多才で強力な指導陣が身近に揃っている環境があった。諸先輩の率先垂範する実践に学び、先駆的な形成的評価やT T等の指導もいただきながら真摯に授業改善と向き合った。1年後、教師力が数年分も増大していることを実感した。山王中は第二の教育実習校、そして、私は有給の教育実習生であった。感謝。

### 【 同僚と共に教材開発 】

退職 浅 井 繁 樹 氏

30～40歳の頃、同じ中学校で10年以上社会科を担当していたことがある。その中学校では、「確かな学力を定着させるためには、個の実態に応じた指導が必要である」との観点で授業改善に積極的に取り組んでいた。当時は同一教科で学校に3～4人の教師がいたので、毎夜、教科部で部活動が終わってから集まり、出前の夕食を食べながら新しい単元の指導案づくりにアイデアを出し合った。教師によって、生徒の実態把握力・指導案・教材・授業技術など得意な分野があるもので、互いの得意分野を生かして単元を作成すると相乗効果で一人ではできないことが可能になった。また、自分の授業づくりの在り方を振り返る機会となり、より質の高い授業を実現するために大いに役立った。さらに、他教科と創意工夫した教材を披露し合い、刺激を受け教材開発を競い合ったものである。

## <潟上市・南秋田郡>

### 【 社会科の授業構想 】

退職 川 辺 斉 氏

中学時代、社会科は森谷裕二先生から教わった。毎時間、「わらいがあって、わくわくする、わかる」授業であった。授業が終わっても、地図帳や国勢図会を開いていた。余韻が残る授業でもあった。今でも「ルール工業地帯」や「北九州工業地帯」、「十勝平野の農業」、「ペリー来航」などの授業は強く思い出に残っている。

森谷先生に社会科の授業構想のポイントをお聞きしたく、潟上南秋社会科教育研究会で講演講師をお願いした。先生は自らの実践事例を提示しながら、そのポイントについて、「まず事実から入れ」、次に「その事実を示す臨場感ある資料を使え」、そして「『〇〇なのに、なぜ（どうして）〇〇なのか？』という、価値ある問いをつくれ』とのお話しであった。まさに「目から鱗」であったし、もっと早くお聞きしていなければならない貴重な講話であった。

### 【 教 え ら れ 、 導 か れ て 】

退職 大 石 成 子 氏

国語教師として学びの機会はたくさんあった。育てていただいたほんの少しを記したい。

- ・初任研のなかった時代よく授業を見せていただいた。圧倒的迫力の授業展開に夢中になった。
- ・週一度は教科部会があり、話し合いの中で自然に同僚から学ぶ貴重な時間が定期的にあった。
- ・説明文、詩の授業、作文……等、各分野に秀でた特色のある教師がおられ尊敬されていた。

- ・研究会に連れ出したり、情報や書籍の紹介してくださる先輩がいつもたくさんいた。
  - ・同じ志を持ち切磋琢磨する仲間が出来た。その教えやヒントはいちいち身に染みた。
  - ・研究会、発表会、公開授業が盛んに行われ、教材開発が常に念頭にあり鍛えられた。
  - ・仰ぎ見る指導者に巡り会えた。そこにはいつも厳しいまでの単元づくりの世界があった。
- 目の前の子どもに生きた教材を届けられるか、悪戦苦闘の日々は苦しくもあり楽しくもあった。

## <秋田市>

### 【「魅力ある教師集団」との出会い】

現職 鈴木 巧 校長

今から30年ほど前、初任から5年経過する頃、私は築山小学校に赴任した。そこで出会った「魅力ある教師集団」に今の自分の原点がある。「教育」の本質は何だ？ 形成的評価との関連は？ 子どもの情意面をどう見取るか？ もっとダイナミックな授業形態に改善できないか？ などの教育課題について、ほんの少しの時間にも熱い議論を交わす先輩方にもまれた。ものの「本質」や研究姿勢には厳しいが個性的で人間味があり、何よりも枠にとらわれない自由度があった。「専門性にプライドをもて、分からないものから目をそらすな、情熱を燃やし続けろ」「言いたいことが言えて、やりたいことができる学校風土をつくれ」諸先輩からの教えは、今の自分の学校経営の中で生きている。「魅力ある学校」とは、魅力ある教師集団を育て、教育をリードする学校である。そのことは、昔も今もこれからも大事な学校経営の柱の一つではないか。

### 【授業実践を語り合う教師】

退職 三 森 洋 子 氏

全学年が県配信の算数単元評価問題を授業に活用し、そこから見えた課題を解決するための指導方法を考え実践した。さらにその指導方法の有効性を持ち寄り、共有化を図った。実際には、①各学年に実践内容の報告 ②有効性については子ども達の習得状況から分析・判断 ③報告は質疑を含めて一定時間内 ④月1回の定例職員会議終了後に実施 である。方向性がぶれることなく研究・研修は続いた。その原動力になったのは何か。限られた時間の中、「何のため」を見失う時があったかもしれないが、悩み語り合った分、子ども達の変容として還ってきた。研究主任の推進力も当然その背景にある。成果の一つとして、授業力のある一人ではなく、全員が授業づくりに向き合い語り合ったこともあげられる。

日々の授業を語り合い、授業づくりに生かし高みをめざす。そんな教師集団でありたい。

## <由利本荘・にかほ>

### 【子どもと向き合う教師の姿】

退職 菅 原 耕 悦 氏

30歳代前半の頃だったと思う。県南の小学校で行われた道徳の公開研究会に参加した。ずいぶん昔のことで、授業の内容その他は覚えていないが、強烈なショックを受けたことは確かだ。

ベテランの女性教諭だったと思う。その教師は授業の最終盤で自身の子ども時代の失敗談を話し始めた（教師の説話）。自分の思慮に欠けた行為によって友人にけがを負わせてしまったこと。そして、そのことを今でも悔やんでいること。教師は子どもたちの前で泣きながら話を続けた。教室の空気がピタリと止まり、子どもたちも参観者も涙を流し続けていた。私はこの時の様子を思い出すと胸が締め付けられる。この時から、『教師は子どもとどう向き合うべきか』を考え続けた。そして私は、「この先生のように子どもに素直に向き合いたい」と思った。

全体会では、参加者全員で「赤とんぼ」を歌った。もうすぐ雪の季節、晩秋の時期であった。

【確かな一言】

退職 小坂 晃 氏

30代も終わり頃、大規模校に勤務し10年目を迎えていました。先輩の先生から厳しく鍛えられた数年を過ごしましたが、いつの間にか教科主任を務めるようになっていました。

授業研究会に向け指導案を検討している最中、教科の大先輩でもある校長が入ってこられました。授業構想等について質問をされてから一言、「生徒指導の機能がどこに生かされているのか見えてこない」。当時、『生徒指導の機能を生かした授業』が校内研究のテーマでした。生徒指導の機能、今は当たり前に意識されていることですが、私にとっては『生徒指導の機能を生かす』を正しく理解する機会となった出来事でした。そして何よりも、教科指導に少し自信を持ち始めてしまった私を正しく成長させてくれるとともに、チームとしての校内研究の在り方を考えさせてくれた、忘れることのできない、重みのある校長先生の一言でした。

<大曲仙北>

【深い学びへの一歩】

退職 藤本 竜伸 氏

平成30年度大曲仙北教育研究大会の講演会で、明星大学客員教授の細水保宏先生のお話を伺った。「主体的・対話的で深い学びの実現を目指して」という演題であるが、今まさに各小・中学校でめざしている学習の姿である。細水先生は、「深い学びは教科の本質に迫る学び」であり、その実現のために教師の突っ込みの指導が必要であると説く。教師が子どもたちに対して、「ちょっと待って、なぜ?」「本当にそうなの?」と聞くだけでも本質に迫れると言う。本県の下学年では、子どもが発表後に、「いいですか?」と正否を問い、友だちが「同じです(いいです)」と応える場面をよく見かける。しかし、そこに深い学びは成立しない。教師が「本当にそう?なぜそう思うの?」と突っ込むことが、深い学びへの第一歩であると気づかされた。突っ込んで子どもたちの対話を引き出す……。これからの授業改善のヒントになるかもしれない。

【学校経営を支えた「学び合い」】

退職 佐藤 心一 氏

学校経営の根幹を佐藤学氏（現学習院大学特任教授）の提唱する学びの共同体の「学び合い」とし、自分も含めて全教師が授業研究を行った。「学び合い」は、課題解決型の授業デザインとし、次の約束の下に行った。「①課題解決型の授業提示。②『学び合い』に耐えうる課題提示と教材開発。③『分からない』ときに友だちに『分からないから教えて』という生徒の人間関係育成。④4人で1グループを形成し、市松模様の男女構成。学級の平素はコの字型形態。⑤友だちの話す内容を聴き合うのが基本。⑥生徒と生徒、生徒と教材（モノ）、教材（モノ）と自分をつなぐ。」授業の中で必然性のあるグループ活動が最も難しく、教科の本質に迫る教材研究をしなければ、「学び合う学び」は形成されない。ここが教師の力量につながる。この「学び合い」で不登校生徒数の激減、授業改善と教師集団の研修意欲の向上を見ることができた。

<横手市>

【子どもの「はらわた」を「むんずと」掴んで離さない】

現職 笹山 洋希 教頭

私は30歳代を秋田大学の附属小学校で過ごし、赴任した頃の頃、当時附属小の副校長の塩澤清先生に多くを指導いただいた。私は毎年の責務である公開研究会において、公開授業への参観者を増やして「盛況」にするため、社会科の魅力的な教材の開発や話題性のあるネタの発掘に没

頭していた。同じ社会科の名伯楽であった塩澤先生は、そんな私に「授業では、目の前の子どもの『はらわた』を『むんず』と驚掴みにし、子どもが自ら答えを出すまでは決して離さないこと」と話してくださった。この「はらわた」「むんず」という迫力ある表現には、授業はどこまでも子どもの内面の変革をめざすものであり、教師の子どもに対する関わりが絵空事であってはならないという信念が込められている。授業が単なる指導技術ではなく、教師と子どもの魂のやりとりであることを教えていただいた。

### 【学習効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメント】 現職 高橋成浩 校長

今年度、秋田市で開催された東北地区国語教育研究協議会に参加した。中学校「話すこと・聞くこと」分科会で実践発表を依頼された前任校横手北中学校・照井由紀教諭の実践に関わったからである。照井教諭から実践内容について相談された折り、横手北中の「聴いて考えてつなげる」授業づくり、横手市で重点実践として取り組んでいるNIE、自分の考えを広げたり深めたりする話す・聞く活動が期待できる修学旅行での「横手の魅力PR活動」の体験、等を生かせる実践にしたかどうかと提案した。実践力の高い照井教諭は、「秋田の問題」という秋田魁新報の記事を糸口に、ふるさとの未来のために自分たちができることを伝え合う学習を展開した。提案したときには全く意識していなかったが、分科会で「新学習指導要領で求められる課題の好実践」と助言者に評価していただき、今後めざすべき授業の方向性を実感することができた。

## <湯沢雄勝>

### 【「授業力」について思うこと】 退職 菊地保子 氏

校内授業研（国語科）でのこと。子ども達の自由闊達な学びの交流シーンが思い出される。「アップ」と「ルーズ」が伝えたいことを読み解いていく中で、何が書かれているかだけではなく、どのように書かれているか、そのことを一生懸命に堂々と述べる。「だから分かる」「ここがいい説明の仕方」などが行き交い重なり、ねらいに迫る話し合いが成立していく。

子ども達は話せる、そう思った。限られた枠組みの中、学びを深めていくための「話すこと・聞くこと」を大切な事柄と知らされ、日々生きながら学習している、その考えに至った。

「授業力とは」と問われたら「学び手を育てられる力」と答える。上記授業は、指導者が学び手に必要な基盤を「話す力」と決め、その結果、丁寧な指導の過程で育てられた子ども達が見せた一つの成果でもあった。学びを支える基本を見極める力。これもまた授業力の一つか。

### 【あの時の言葉】 現職 阿部洋一 校長

「平板で、つまらない授業だ。」忘れられないひと言であった。採用2年目の秋、社会科の校内授業研究会後の研究協議で研究主任から発せられた言葉だ。持ち上がりのクラスであったこともあり、授業は指導案通りにスムーズに流れた。子どもは元気に発表し、私は安堵していた。多くの教師から「子どもが元気で、スムーズに流れて……」等の感想をいただいた。そこで、研究主任のひと言があった。「授業は指導案通りに流れた。一見子どもが元気よく発表しているが、今日の勉強は一体何が大事だったのか。授業の深まりがなかったですね。」まさにその通りであった。私はそれ以来、子どもの発言に柔軟に対応して深まりのある授業をしようと心がけた。今、「主体的・対話的で深い学び」が叫ばれているが、30数年前に私が教わったことと変わらぬ原則を感じる。改めて金言はこのことだと先輩に感謝している。

## 要 約

秋田県退職校長会は、令和元（2019）年10月に結成50周年を迎えるにあたり、平成28（2016）年12月、研修委員会を立ち上げ、日々の授業に取り組んでいる（いた）秋田県の教師たちの実態を把握しようと本誌をまとめた。その目的は、秋田の教師のすばらしさの大本は、児童生徒の学びに資するための「**自主研修の積み重ね**」にあったのではないかとし、このことが秋田の学習の支えになってきたことを明らかにすることであった。目の前の児童生徒の学びに真摯に立ち向かったひたむきな思いがあったことを裏づけようとしたのである。

本誌の構成は、次のようになっている。第Ⅰ章の**秋田県の学習指導（授業風景）の変遷**は、秋田県教育の流れの中で秋田県の教師の授業研究について考察したものであり、第Ⅱ章の**学習指導に関するアンケート調査から得た秋田の教師たちの実態**は、現状把握のためのエビデンスを得るための調査分析であり、第Ⅲ章の**秋田の教育 あすを見つめて**は、「大切度」と「役立ち度」からの提言であり、第Ⅳ章の**秋田県の教師の授業**は、「秋田の教師」の授業への思いを集めたものである。

学習指導を展開するにあたって、何を大切にしたいのかの「**大切度**」と、何が役立ったのかの「**役立ち度**」に限定し、アンケート結果から得られた多くの反応に基づいた情報を分かりやすく解説した。さらに今後学習指導を展開してゆくための「**提言**」をした。

「**大切度**」については、全体的に高い数値を示していることから、多くの機会を捉えて学習指導に必要な事項として生かしていることが分かる。「基礎・基本」「学び合いの設定」「発問・板書」「話し方・褒め方」「授業のルール」の項目に顕著である。一方で、「手引き等の活用」や「学習指導案の作成」については、高い数値とは言えないが、今以上に大切にすべきことであると評価していることが分かる。また小学校と中学校の教師による捉え方や年代による捉え方の違いも見られる。校種間の相違は、学習者の成長過程に添った学ばせ方によるものか、小学校の教師は丁寧な発問や板書を、中学校の教師は教科の専門性が重視されているように思える。双方とも、成長過程に伴った学習集団の生活を重視した指導を心がけ、生活実態にあった指導を展開している。年代による捉え方の違いについては、一概に結論づけることはできないが、60歳代以降の教師が現役時代にかなり重視してきたと思われる「**手引きの作成**」や「**学習指導案の作成**」に、さらに**重きが置かれるような取組が必要**であるとした。とりわけ、学習指導案は授業構想そのものであることから、授業にどれくらい位置づけられ、展開方法、反応予測、評価方法などを盛り込もうとしているのかが問われる。

「**役立ち度**」についてもまた、全体的に高い数値を示しており、多くの事項を自身の学習指導に役立てようとしていることが分かる。校内研修となる「研修の機会」「諸会議」「日常会話」「指導・助言」などが自己研修に役立つとする高い評価を受けており、同僚や管理職からの指導等が強く反映していることが分かる。比較的低い評価項目になっている「自己研鑽」については、自己研修していると強く主張することを恥じらう県民性が認められるように思う。ただ、さらなる研鑽を求めようとするための時間確保や機会を保障する組織的な試みが必要である。同様に、教育行政上の施策として実施されている諸調査を自己研修に活用できるかとする「教育委員会の施策等」については、あまり役立っていないと評価している。このことについては、諸調査が役立

つかとする問いに、より高度だと捉えているのか、身近な研修の機会ではないと把握しているのか。それは後者であるように判断される。自己研修の動機づけとして、経験差や資質・能力の差によって、対象者が必要としている内容をきちんと把握したうえでの研修の場を設定したいものである。このことも組織的な検討事項である。

秋田県の教師たちによる学習指導は、全国上位を維持するに足る望ましい方向に進んでいる。県退職校長会結成 50 周年を一つの節目として見直したとき、秋田県の教師たちが努力している姿が、今こそ認められてきたと確信している。さらに一步、納得のゆく授業構想を盛り込んだ「**学習指導案**」の検討と自己研鑽の動機づけを時宜を得ながら展開している教育こそが秋田の発展を支えるものであるとしたい。

秋田の教育を支え、高い水準に向上させてきたのは、きめ細かな指導と児童生徒を前面に見据えた学習指導計画と実践によるものであり、このことに気づかせていただいた多くの教師たちによる指導・助言や励ましなどの「**同僚性**」に負うところが大きい。教師間の同僚意識が学び合うことの確かさを裏づけてきたのである。

秋田県の教師たちが学習指導を展開するうえで、ただひたすらに児童生徒の力量を高めようとする方策を追究してきたことが明確にできたように思う。約 4 カ年に及ぶ研修委員会を中心にした試みであったが、この成果を本誌にまとめ得たので、学校現場はもとより、それぞれの教育機関等においてもぜひ活用いただきたい。

本誌の題を『**秋田の教育 あすを見つめて**』とし、「**あきたブランド**」を育て上げた教師たちの実績と心意気を讃えたい。今後とも、我々、秋田県退職校長会は、秋田県の教育を支持・支援しながら、現場の教師を応援し続けていくことを、ここに約束する。

## 引 用 文 献

- 1) 秋田県退職校長会（2018）：『学習指導に関するアンケート調査の主旨について』．秋田県退職校長会「会報」第 90 号．p.11．

## 謝 辞

アンケート調査に協力いただいた秋田県退職校長会会員および現職の秋田県小・中学校校長会会員並びに教員、さらに調査の実施にあたって支持、支援をいただいた秋田県教育委員会および市町村教育委員会等の関係機関に、衷心より感謝申し上げます。

なお、調査結果および考察・提言等を各方面で活用いただければ幸甚である。

## 資料「アンケート結果」

## 小学校集計 大欠度

| 設問 | 大欠度 | 20代 |      |     | 30代 |      |     | 40代 |      |     | 50代 |      |     | 60代 |      |     | 70代 |      |     | 全体  |      |     |
|----|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|
|    |     | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  |
| 1  | 1   | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.5 | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.4 |
|    | 2   | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     |
|    | 3   | 1   | 1.8  |     | 2   | 4.0  |     | 12  | 5.4  |     | 22  | 6.3  |     | 5   | 4.6  |     | 14  | 12.6 |     | 56  | 6.3  |     |
|    | 4   | 33  | 60.0 |     | 24  | 48.0 |     | 97  | 43.9 |     | 155 | 44.5 |     | 53  | 48.6 |     | 47  | 42.3 |     | 409 | 45.7 |     |
|    | 5   | 21  | 38.2 |     | 24  | 48.0 |     | 112 | 50.7 |     | 171 | 49.1 |     | 51  | 46.8 |     | 50  | 45.0 |     | 429 | 48.0 |     |
| 2  | 1   | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.0 | 0   | 0.0  | 4.3 |
|    | 2   | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 2   | 0.6  |     | 0   | 0.0  |     | 1   | 0.9  |     | 3   | 0.3  |     |
|    | 3   | 6   | 10.9 |     | 1   | 2.0  |     | 14  | 6.3  |     | 33  | 9.5  |     | 11  | 10.1 |     | 29  | 26.9 |     | 94  | 10.5 |     |
|    | 4   | 31  | 56.4 |     | 27  | 54.0 |     | 118 | 53.4 |     | 184 | 52.9 |     | 58  | 53.2 |     | 52  | 48.1 |     | 470 | 52.7 |     |
|    | 5   | 18  | 32.7 |     | 22  | 44.0 |     | 89  | 40.3 |     | 129 | 37.1 |     | 40  | 36.7 |     | 26  | 24.1 |     | 324 | 36.4 |     |
| 3  | 1   | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.1 | 0   | 0.0  | 4.3 |
|    | 2   | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 1   | 0.3  |     | 1   | 1.1  |     | 2   | 1.8  |     | 4   | 0.5  |     |
|    | 3   | 7   | 12.7 |     | 4   | 8.0  |     | 24  | 10.9 |     | 41  | 11.8 |     | 10  | 10.8 |     | 22  | 19.8 |     | 108 | 12.3 |     |
|    | 4   | 27  | 49.1 |     | 24  | 48.0 |     | 100 | 45.5 |     | 179 | 51.7 |     | 44  | 47.3 |     | 49  | 44.1 |     | 423 | 48.3 |     |
|    | 5   | 21  | 38.2 |     | 22  | 44.0 |     | 96  | 43.6 |     | 125 | 36.1 |     | 38  | 40.9 |     | 38  | 34.2 |     | 340 | 38.9 |     |
| 4  | 1   | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.1 | 0   | 0.0  | 4.1 | 0   | 0.0  | 4.1 | 0   | 0.0  | 4.1 | 0   | 0.0  | 4.0 | 0   | 0.0  | 4.1 |
|    | 2   | 0   | 0.0  |     | 1   | 2.0  |     | 0   | 0.0  |     | 3   | 0.9  |     | 1   | 0.9  |     | 3   | 2.8  |     | 8   | 0.9  |     |
|    | 3   | 10  | 18.2 |     | 9   | 18.0 |     | 29  | 13.2 |     | 58  | 16.7 |     | 21  | 19.1 |     | 24  | 22.0 |     | 151 | 16.9 |     |
|    | 4   | 25  | 45.5 |     | 26  | 52.0 |     | 131 | 59.5 |     | 200 | 57.6 |     | 50  | 45.5 |     | 52  | 47.7 |     | 484 | 54.3 |     |
|    | 5   | 20  | 36.4 |     | 14  | 28.0 |     | 60  | 27.3 |     | 86  | 24.8 |     | 38  | 34.5 |     | 30  | 27.5 |     | 248 | 27.8 |     |
| 5  | 1   | 0   | 0.0  | 4.1 | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.3 |
|    | 2   | 1   | 1.8  |     | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 1   | 0.3  |     | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 2   | 0.2  |     |
|    | 3   | 8   | 14.5 |     | 4   | 8.0  |     | 20  | 9.1  |     | 38  | 10.9 |     | 13  | 11.8 |     | 16  | 14.7 |     | 99  | 11.1 |     |
|    | 4   | 28  | 50.9 |     | 21  | 42.0 |     | 122 | 55.5 |     | 185 | 53.2 |     | 50  | 45.5 |     | 58  | 53.2 |     | 464 | 52.0 |     |
|    | 5   | 18  | 32.7 |     | 25  | 50.0 |     | 78  | 35.5 |     | 124 | 35.6 |     | 47  | 42.7 |     | 35  | 32.1 |     | 327 | 36.7 |     |
| 6  | 1   | 0   | 0.0  | 3.9 | 0   | 0.0  | 3.9 | 1   | 0.5  | 3.8 | 1   | 0.3  | 3.8 | 0   | 0.0  | 3.8 | 0   | 0.0  | 3.7 | 2   | 0.2  | 3.8 |
|    | 2   | 2   | 3.6  |     | 0   | 0.0  |     | 2   | 0.9  |     | 6   | 1.7  |     | 4   | 3.6  |     | 1   | 0.9  |     | 15  | 1.7  |     |
|    | 3   | 15  | 27.3 |     | 12  | 24.0 |     | 66  | 30.1 |     | 118 | 33.9 |     | 30  | 27.3 |     | 46  | 41.8 |     | 287 | 32.2 |     |
|    | 4   | 26  | 47.3 |     | 31  | 62.0 |     | 119 | 54.3 |     | 163 | 46.8 |     | 60  | 54.5 |     | 52  | 47.3 |     | 451 | 50.6 |     |
|    | 5   | 12  | 21.8 |     | 7   | 14.0 |     | 31  | 14.2 |     | 60  | 17.2 |     | 16  | 14.5 |     | 11  | 10.0 |     | 137 | 15.4 |     |
| 7  | 1   | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.5 | 0   | 0.0  | 4.4 | 1   | 0.3  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.0 | 1   | 0.1  | 4.3 |
|    | 2   | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 1   | 0.5  |     | 1   | 0.3  |     | 1   | 0.9  |     | 1   | 0.9  |     | 4   | 0.4  |     |
|    | 3   | 4   | 7.3  |     | 3   | 6.0  |     | 13  | 5.9  |     | 30  | 8.6  |     | 20  | 18.3 |     | 28  | 25.5 |     | 98  | 11.0 |     |
|    | 4   | 25  | 45.5 |     | 19  | 38.0 |     | 101 | 45.9 |     | 166 | 47.8 |     | 41  | 37.6 |     | 53  | 48.2 |     | 405 | 45.5 |     |
|    | 5   | 26  | 47.3 |     | 28  | 56.0 |     | 105 | 47.7 |     | 149 | 42.9 |     | 47  | 43.1 |     | 28  | 25.5 |     | 383 | 43.0 |     |
| 8  | 1   | 0   | 0.0  | 3.5 | 1   | 2.0  | 3.4 | 1   | 0.5  | 3.3 | 3   | 0.9  | 3.3 | 0   | 0.0  | 3.5 | 0   | 0.0  | 3.6 | 5   | 0.6  | 3.4 |
|    | 2   | 3   | 5.5  |     | 2   | 4.0  |     | 25  | 11.3 |     | 31  | 8.9  |     | 9   | 8.2  |     | 4   | 3.6  |     | 74  | 8.3  |     |
|    | 3   | 27  | 49.1 |     | 24  | 48.0 |     | 113 | 51.1 |     | 176 | 50.6 |     | 50  | 45.5 |     | 50  | 45.5 |     | 440 | 49.2 |     |
|    | 4   | 22  | 40.0 |     | 20  | 40.0 |     | 75  | 33.9 |     | 120 | 34.5 |     | 40  | 36.4 |     | 45  | 40.9 |     | 322 | 36.0 |     |
|    | 5   | 3   | 5.5  |     | 3   | 6.0  |     | 7   | 3.2  |     | 18  | 5.2  |     | 11  | 10.0 |     | 11  | 10.0 |     | 53  | 5.9  |     |
| 9  | 1   | 0   | 0.0  | 3.9 | 0   | 0.0  | 4.0 | 0   | 0.0  | 3.9 | 1   | 0.3  | 4.0 | 0   | 0.0  | 4.0 | 0   | 0.0  | 3.9 | 1   | 0.1  | 3.9 |
|    | 2   | 3   | 5.5  |     | 0   | 0.0  |     | 3   | 1.4  |     | 4   | 1.1  |     | 3   | 2.7  |     | 7   | 6.4  |     | 20  | 2.2  |     |
|    | 3   | 8   | 14.5 |     | 8   | 16.0 |     | 45  | 20.4 |     | 78  | 22.4 |     | 28  | 25.5 |     | 24  | 21.8 |     | 191 | 21.4 |     |
|    | 4   | 34  | 61.8 |     | 32  | 64.0 |     | 135 | 61.1 |     | 192 | 55.2 |     | 50  | 45.5 |     | 51  | 46.4 |     | 494 | 55.3 |     |
|    | 5   | 10  | 18.2 |     | 10  | 20.0 |     | 38  | 17.2 |     | 73  | 21.0 |     | 29  | 26.4 |     | 28  | 25.5 |     | 188 | 21.0 |     |
| 10 | 1   | 0   | 0.0  | 4.6 | 0   | 0.0  | 4.6 | 0   | 0.0  | 4.5 | 0   | 0.0  | 4.5 | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.5 |
|    | 2   | 1   | 1.8  |     | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 2   | 0.6  |     | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 3   | 0.3  |     |
|    | 3   | 2   | 3.6  |     | 2   | 4.0  |     | 8   | 3.6  |     | 15  | 4.3  |     | 9   | 8.2  |     | 15  | 12.7 |     | 51  | 5.7  |     |
|    | 4   | 17  | 30.9 |     | 17  | 34.0 |     | 91  | 41.2 |     | 150 | 43.1 |     | 44  | 40.0 |     | 46  | 39.0 |     | 365 | 40.5 |     |
|    | 5   | 35  | 63.6 |     | 31  | 62.0 |     | 122 | 55.2 |     | 181 | 52.0 |     | 57  | 51.8 |     | 57  | 48.3 |     | 483 | 53.5 |     |
| 11 | 1   | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.5 | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.4 |
|    | 2   | 1   | 1.8  |     | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 1   | 0.1  |     |
|    | 3   | 6   | 10.9 |     | 2   | 4.0  |     | 13  | 5.9  |     | 28  | 8.1  |     | 11  | 10.0 |     | 8   | 7.1  |     | 68  | 7.6  |     |
|    | 4   | 17  | 30.9 |     | 19  | 38.0 |     | 112 | 50.9 |     | 158 | 45.9 |     | 50  | 45.5 |     | 65  | 58.0 |     | 421 | 47.3 |     |
|    | 5   | 31  | 56.4 |     | 29  | 58.0 |     | 95  | 43.2 |     | 158 | 45.9 |     | 49  | 44.5 |     | 39  | 34.8 |     | 401 | 45.0 |     |
| 12 | 1   | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.6 | 0   | 0.0  | 4.5 | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 3.9 | 0   | 0.0  | 4.3 |
|    | 2   | 0   | 0.0  |     | 1   | 2.0  |     | 1   | 0.5  |     | 1   | 0.3  |     | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 3   | 0.3  |     |
|    | 3   | 6   | 11.1 |     | 1   | 2.0  |     | 8   | 3.6  |     | 25  | 7.2  |     | 18  | 16.4 |     | 35  | 32.1 |     | 93  | 10.5 |     |
|    | 4   | 20  | 37.0 |     | 17  | 34.7 |     | 95  | 43.2 |     | 144 | 41.7 |     | 54  | 49.1 |     | 53  | 48.6 |     | 383 | 43.2 |     |
|    | 5   | 28  | 51.9 |     | 30  | 61.2 |     | 116 | 52.7 |     | 175 | 50.7 |     | 38  |      |     |     |      |     |     |      |     |

## 中学校集計 大欠度

| 設問 | 大欠度 | 20代 |      |     | 30代 |      |     | 40代 |      |     | 50代 |      |     | 60代 |      |     | 70代 |      |     | 全体  |      |     |
|----|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|
|    |     | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  |
| 1  | 1   | 0   | 0.0  | 4.5 | 1   | 0.9  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.2 | 1   | 0.8  | 4.3 | 2   | 0.2  | 4.3 |
|    | 2   | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 1   | 0.4  |     | 5   | 1.6  |     | 2   | 2.1  |     | 0   | 0.0  |     | 8   | 0.8  |     |
|    | 3   | 5   | 5.7  |     | 12  | 10.8 |     | 21  | 9.0  |     | 37  | 12.1 |     | 12  | 12.5 |     | 16  | 12.1 |     | 103 | 10.7 |     |
|    | 4   | 30  | 34.5 |     | 52  | 46.8 |     | 100 | 42.9 |     | 143 | 46.9 |     | 45  | 46.9 |     | 53  | 40.2 |     | 423 | 43.9 |     |
|    | 5   | 52  | 59.8 |     | 46  | 41.4 |     | 111 | 47.6 |     | 120 | 39.3 |     | 37  | 38.5 |     | 62  | 47.0 |     | 428 | 44.4 |     |
| 2  | 1   | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.2 | 1   | 0.8  | 4.1 | 1   | 0.1  | 4.2 |
|    | 2   | 1   | 1.1  |     | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 1   | 1.0  |     | 0   | 0.0  |     | 2   | 0.2  |     |
|    | 3   | 7   | 8.0  |     | 12  | 12.5 |     | 24  | 10.3 |     | 43  | 14.1 |     | 11  | 11.3 |     | 28  | 21.7 |     | 125 | 13.2 |     |
|    | 4   | 41  | 47.1 |     | 47  | 49.0 |     | 122 | 52.4 |     | 169 | 55.2 |     | 53  | 54.6 |     | 62  | 48.1 |     | 494 | 52.1 |     |
|    | 5   | 38  | 43.7 |     | 37  | 38.5 |     | 87  | 37.3 |     | 94  | 30.7 |     | 32  | 33.0 |     | 38  | 29.5 |     | 326 | 34.4 |     |
| 3  | 1   | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.2 | 1   | 0.3  | 4.1 | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.1 | 1   | 0.1  | 4.2 |
|    | 2   | 1   | 1.1  |     | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 5   | 1.6  |     | 0   | 0.0  |     | 4   | 3.0  |     | 10  | 1.1  |     |
|    | 3   | 9   | 10.3 |     | 16  | 16.7 |     | 38  | 16.3 |     | 48  | 15.7 |     | 14  | 14.6 |     | 26  | 19.7 |     | 151 | 15.9 |     |
|    | 4   | 41  | 47.1 |     | 48  | 50.0 |     | 112 | 48.1 |     | 159 | 52.0 |     | 49  | 51.0 |     | 59  | 44.7 |     | 468 | 49.3 |     |
|    | 5   | 36  | 41.4 |     | 32  | 33.3 |     | 83  | 35.6 |     | 93  | 30.4 |     | 33  | 34.4 |     | 43  | 32.6 |     | 320 | 33.7 |     |
| 4  | 1   | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.1 | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.0 | 0   | 0.0  | 4.2 |
|    | 2   | 1   | 1.1  |     | 0   | 0.0  |     | 1   | 0.4  |     | 4   | 1.3  |     | 1   | 1.0  |     | 3   | 2.3  |     | 10  | 1.1  |     |
|    | 3   | 9   | 10.3 |     | 12  | 12.5 |     | 29  | 12.4 |     | 44  | 14.4 |     | 19  | 19.6 |     | 33  | 25.2 |     | 146 | 15.4 |     |
|    | 4   | 30  | 34.5 |     | 55  | 57.3 |     | 119 | 51.1 |     | 170 | 55.6 |     | 40  | 41.2 |     | 54  | 41.2 |     | 468 | 49.3 |     |
|    | 5   | 47  | 54.0 |     | 29  | 30.2 |     | 84  | 36.1 |     | 88  | 28.8 |     | 37  | 38.1 |     | 41  | 31.3 |     | 326 | 34.3 |     |
| 5  | 1   | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.1 | 0   | 0.0  | 4.0 | 0   | 0.0  | 4.0 | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.1 | 0   | 0.0  | 4.1 |
|    | 2   | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 3   | 1.3  |     | 5   | 1.6  |     | 0   | 0.0  |     | 3   | 2.3  |     | 11  | 1.2  |     |
|    | 3   | 6   | 6.9  |     | 23  | 24.0 |     | 48  | 20.6 |     | 60  | 19.6 |     | 10  | 10.3 |     | 18  | 13.6 |     | 165 | 17.4 |     |
|    | 4   | 41  | 47.1 |     | 44  | 45.8 |     | 117 | 50.2 |     | 166 | 54.2 |     | 58  | 59.8 |     | 68  | 51.5 |     | 494 | 51.9 |     |
|    | 5   | 40  | 46.0 |     | 29  | 30.2 |     | 65  | 27.9 |     | 75  | 24.5 |     | 29  | 29.9 |     | 43  | 32.6 |     | 281 | 29.5 |     |
| 6  | 1   | 0   | 0.0  | 3.9 | 0   | 0.0  | 3.8 | 0   | 0.0  | 3.8 | 1   | 0.3  | 3.7 | 0   | 0.0  | 3.8 | 0   | 0.0  | 4.0 | 1   | 0.1  | 3.8 |
|    | 2   | 2   | 2.3  |     | 2   | 2.1  |     | 6   | 2.6  |     | 8   | 2.6  |     | 2   | 2.1  |     | 2   | 1.5  |     | 22  | 2.3  |     |
|    | 3   | 25  | 28.7 |     | 31  | 32.3 |     | 74  | 31.8 |     | 106 | 34.9 |     | 26  | 26.8 |     | 36  | 27.3 |     | 298 | 31.4 |     |
|    | 4   | 44  | 50.6 |     | 49  | 51.0 |     | 119 | 51.1 |     | 157 | 51.6 |     | 55  | 56.7 |     | 58  | 43.9 |     | 482 | 50.8 |     |
|    | 5   | 16  | 18.4 |     | 14  | 14.6 |     | 34  | 14.6 |     | 32  | 10.5 |     | 14  | 14.4 |     | 36  | 27.3 |     | 146 | 15.4 |     |
| 7  | 1   | 0   | 0.0  | 4.5 | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.2 | 2   | 1.5  | 3.9 | 2   | 0.2  | 4.3 |
|    | 2   | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 1   | 0.4  |     | 2   | 0.7  |     | 1   | 1.0  |     | 4   | 3.1  |     | 8   | 0.8  |     |
|    | 3   | 3   | 3.7  |     | 10  | 10.4 |     | 12  | 5.2  |     | 28  | 9.2  |     | 18  | 18.6 |     | 39  | 29.8 |     | 110 | 11.7 |     |
|    | 4   | 32  | 39.5 |     | 48  | 50.0 |     | 109 | 46.8 |     | 147 | 48.0 |     | 39  | 40.2 |     | 48  | 36.6 |     | 423 | 44.8 |     |
|    | 5   | 46  | 56.8 |     | 38  | 39.6 |     | 111 | 47.6 |     | 129 | 42.2 |     | 39  | 40.2 |     | 38  | 29.0 |     | 401 | 42.5 |     |
| 8  | 1   | 1   | 1.1  | 3.3 | 2   | 2.1  | 3.3 | 3   | 1.3  | 3.1 | 6   | 2.0  | 3.2 | 1   | 1.0  | 3.6 | 2   | 1.5  | 3.7 | 15  | 1.6  | 3.3 |
|    | 2   | 12  | 13.8 |     | 10  | 10.4 |     | 42  | 18.0 |     | 43  | 14.1 |     | 7   | 7.3  |     | 10  | 7.6  |     | 124 | 13.1 |     |
|    | 3   | 45  | 51.7 |     | 51  | 53.1 |     | 123 | 52.8 |     | 148 | 48.5 |     | 38  | 39.6 |     | 48  | 36.6 |     | 453 | 47.8 |     |
|    | 4   | 22  | 25.3 |     | 28  | 29.2 |     | 58  | 24.9 |     | 96  | 31.5 |     | 37  | 38.5 |     | 42  | 32.1 |     | 283 | 29.9 |     |
|    | 5   | 7   | 8.0  |     | 5   | 5.2  |     | 7   | 3.0  |     | 12  | 3.9  |     | 13  | 13.5 |     | 29  | 22.1 |     | 73  | 7.7  |     |
| 9  | 1   | 1   | 1.1  | 3.6 | 1   | 1.0  | 3.7 | 0   | 0.0  | 3.6 | 3   | 1.0  | 3.6 | 1   | 1.0  | 3.8 | 0   | 0.0  | 3.7 | 6   | 0.6  | 3.7 |
|    | 2   | 7   | 8.0  |     | 3   | 3.1  |     | 17  | 7.3  |     | 18  | 5.9  |     | 1   | 1.0  |     | 6   | 4.5  |     | 52  | 5.5  |     |
|    | 3   | 26  | 29.9 |     | 36  | 37.5 |     | 90  | 38.8 |     | 112 | 36.7 |     | 32  | 33.0 |     | 45  | 34.1 |     | 341 | 35.9 |     |
|    | 4   | 41  | 47.1 |     | 38  | 39.6 |     | 96  | 41.4 |     | 137 | 44.9 |     | 45  | 46.4 |     | 58  | 43.9 |     | 415 | 43.7 |     |
|    | 5   | 12  | 13.8 |     | 18  | 18.8 |     | 29  | 12.5 |     | 35  | 11.5 |     | 18  | 18.6 |     | 23  | 17.4 |     | 135 | 14.2 |     |
| 10 | 1   | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.4 | 1   | 0.3  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.2 | 1   | 0.1  | 4.3 |
|    | 2   | 0   | 0.0  |     | 1   | 1.0  |     | 0   | 0.0  |     | 3   | 1.0  |     | 0   | 0.0  |     | 3   | 2.3  |     | 7   | 0.7  |     |
|    | 3   | 6   | 6.9  |     | 6   | 6.3  |     | 18  | 7.7  |     | 34  | 11.1 |     | 9   | 9.3  |     | 28  | 21.1 |     | 101 | 10.6 |     |
|    | 4   | 39  | 44.8 |     | 47  | 49.0 |     | 105 | 45.1 |     | 135 | 44.1 |     | 42  | 43.3 |     | 46  | 34.6 |     | 414 | 43.5 |     |
|    | 5   | 42  | 48.3 |     | 42  | 43.8 |     | 110 | 47.2 |     | 133 | 43.5 |     | 46  | 47.4 |     | 56  | 42.1 |     | 429 | 45.1 |     |
| 11 | 1   | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.2 |
|    | 2   | 0   | 0.0  |     | 2   | 2.1  |     | 2   | 0.9  |     | 2   | 0.7  |     | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 6   | 0.6  |     |
|    | 3   | 7   | 8.0  |     | 9   | 9.4  |     | 22  | 9.5  |     | 42  | 13.8 |     | 13  | 13.4 |     | 26  | 19.5 |     | 119 | 12.5 |     |
|    | 4   | 35  | 40.2 |     | 42  | 43.8 |     | 115 | 49.6 |     | 161 | 53.0 |     | 54  | 55.7 |     | 60  | 45.1 |     | 467 | 49.2 |     |
|    | 5   | 45  | 51.7 |     | 43  | 44.8 |     | 93  | 40.1 |     | 99  | 32.6 |     | 30  | 30.9 |     | 47  | 35.3 |     | 357 | 37.6 |     |
| 12 | 1   | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.5 | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.0 | 1   | 0.8  | 3.9 | 1   | 0.1  | 4.2 |
|    | 2   | 1   | 1.1  |     | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 1   | 1.0  |     | 2   | 1.5  |     | 4   | 0.4  |     |
|    | 3   | 14  | 16.1 |     | 6   | 6.5  |     | 23  | 9.9  |     | 46  | 15.1 |     | 22  | 22.7 |     | 36  | 27.1 |     | 147 | 15.5 |     |
|    | 4   | 31  | 35.6 |     | 31  | 33.3 |     | 103 | 44.4 |     | 152 | 50.0 |     | 50  | 51.5 |     | 62  | 46.6 |     | 429 | 45.3 |     |
|    | 5   | 41  | 47.1 |     | 56  | 60.2 |     | 106 | 45.7 |     | 106 | 34.9 |     |     |      |     |     |      |     |     |      |     |

## 全体集計 大切度

| 設問 | 大切度 | 20代 |      |     | 30代 |      |     | 40代 |      |     | 50代 |      |     | 60代 |      |     | 70代 |      |     | 全体  |      |     |
|----|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|
|    |     | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  |
| 1  | 1   | 0   | 0.0  | 4.5 | 1   | 0.6  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.3 | 1   | 0.4  | 4.3 | 2   | 0.1  | 4.4 |
|    | 2   | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 1   | 0.2  |     | 5   | 0.8  |     | 2   | 1.0  |     | 0   | 0.0  |     | 8   | 0.4  |     |
|    | 3   | 6   | 4.2  |     | 14  | 8.7  |     | 33  | 7.3  |     | 59  | 9.0  |     | 17  | 8.3  |     | 30  | 12.3 |     | 159 | 8.6  |     |
|    | 4   | 63  | 44.4 |     | 76  | 47.2 |     | 197 | 43.4 |     | 298 | 45.6 |     | 98  | 47.8 |     | 100 | 41.2 |     | 832 | 44.8 |     |
|    | 5   | 73  | 51.4 |     | 70  | 43.5 |     | 223 | 49.1 |     | 291 | 44.6 |     | 88  | 42.9 |     | 112 | 46.1 |     | 857 | 46.1 |     |
| 2  | 1   | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.2 | 1   | 0.4  | 4.0 | 1   | 0.1  | 4.2 |
|    | 2   | 1   | 0.7  |     | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 2   | 0.3  |     | 1   | 0.5  |     | 1   | 0.4  |     | 5   | 0.3  |     |
|    | 3   | 13  | 9.2  |     | 13  | 8.9  |     | 38  | 8.4  |     | 76  | 11.6 |     | 22  | 10.7 |     | 57  | 24.1 |     | 219 | 11.9 |     |
|    | 4   | 72  | 50.7 |     | 74  | 50.7 |     | 240 | 52.9 |     | 353 | 54.0 |     | 111 | 53.9 |     | 114 | 48.1 |     | 964 | 52.4 |     |
|    | 5   | 56  | 39.4 |     | 59  | 40.4 |     | 176 | 38.8 |     | 223 | 34.1 |     | 72  | 35.0 |     | 64  | 27.0 |     | 650 | 35.3 |     |
| 3  | 1   | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.3 | 1   | 0.2  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.1 | 1   | 0.1  | 4.2 |
|    | 2   | 1   | 0.7  |     | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 6   | 0.9  |     | 1   | 0.5  |     | 6   | 2.5  |     | 14  | 0.8  |     |
|    | 3   | 16  | 11.3 |     | 20  | 13.7 |     | 62  | 13.7 |     | 89  | 13.7 |     | 24  | 12.7 |     | 48  | 19.8 |     | 259 | 14.2 |     |
|    | 4   | 68  | 47.9 |     | 72  | 49.3 |     | 212 | 46.8 |     | 338 | 51.8 |     | 93  | 49.2 |     | 108 | 44.4 |     | 891 | 48.8 |     |
|    | 5   | 57  | 40.1 |     | 54  | 37.0 |     | 179 | 39.5 |     | 218 | 33.4 |     | 71  | 37.6 |     | 81  | 33.3 |     | 660 | 36.2 |     |
| 4  | 1   | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.1 | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.1 | 0   | 0.0  | 4.1 | 0   | 0.0  | 4.0 | 0   | 0.0  | 4.1 |
|    | 2   | 1   | 0.7  |     | 1   | 0.7  |     | 1   | 0.2  |     | 7   | 1.1  |     | 2   | 1.0  |     | 6   | 2.5  |     | 18  | 1.0  |     |
|    | 3   | 19  | 13.4 |     | 21  | 14.4 |     | 58  | 12.8 |     | 102 | 15.6 |     | 40  | 19.3 |     | 57  | 23.8 |     | 297 | 16.1 |     |
|    | 4   | 55  | 38.7 |     | 81  | 55.5 |     | 250 | 55.2 |     | 370 | 56.7 |     | 90  | 43.5 |     | 106 | 44.2 |     | 952 | 51.7 |     |
|    | 5   | 67  | 47.2 |     | 43  | 29.5 |     | 144 | 31.8 |     | 174 | 26.6 |     | 75  | 36.2 |     | 71  | 29.6 |     | 574 | 31.2 |     |
| 5  | 1   | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.1 | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.2 |
|    | 2   | 1   | 0.7  |     | 0   | 0.0  |     | 3   | 0.7  |     | 6   | 0.9  |     | 0   | 0.0  |     | 3   | 1.2  |     | 13  | 0.7  |     |
|    | 3   | 14  | 9.9  |     | 27  | 18.5 |     | 68  | 15.0 |     | 98  | 15.0 |     | 23  | 11.1 |     | 34  | 14.1 |     | 264 | 14.3 |     |
|    | 4   | 69  | 48.6 |     | 65  | 44.5 |     | 239 | 52.8 |     | 351 | 53.7 |     | 108 | 52.2 |     | 126 | 52.3 |     | 958 | 52.0 |     |
|    | 5   | 58  | 40.8 |     | 54  | 37.0 |     | 143 | 31.6 |     | 199 | 30.4 |     | 76  | 36.7 |     | 78  | 32.4 |     | 608 | 33.0 |     |
| 6  | 1   | 0   | 0.0  | 3.9 | 0   | 0.0  | 3.8 | 1   | 0.2  | 3.8 | 2   | 0.3  | 3.7 | 0   | 0.0  | 3.8 | 0   | 0.0  | 3.8 | 3   | 0.2  | 3.8 |
|    | 2   | 4   | 2.8  |     | 2   | 1.4  |     | 8   | 1.8  |     | 14  | 2.1  |     | 6   | 2.9  |     | 3   | 1.2  |     | 37  | 2.0  |     |
|    | 3   | 40  | 28.2 |     | 43  | 29.5 |     | 140 | 31.0 |     | 224 | 34.4 |     | 56  | 27.1 |     | 82  | 33.9 |     | 585 | 31.8 |     |
|    | 4   | 70  | 49.3 |     | 80  | 54.8 |     | 238 | 52.7 |     | 320 | 49.1 |     | 115 | 55.6 |     | 110 | 45.5 |     | 933 | 50.7 |     |
|    | 5   | 28  | 19.7 |     | 21  | 14.4 |     | 65  | 14.4 |     | 92  | 14.1 |     | 30  | 14.5 |     | 47  | 19.4 |     | 283 | 15.4 |     |
| 7  | 1   | 0   | 0.0  | 4.5 | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.4 | 1   | 0.2  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.2 | 2   | 0.8  | 3.9 | 3   | 0.2  | 4.3 |
|    | 2   | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 2   | 0.4  |     | 3   | 0.5  |     | 2   | 1.0  |     | 5   | 2.1  |     | 12  | 0.7  |     |
|    | 3   | 7   | 5.1  |     | 13  | 8.9  |     | 25  | 5.5  |     | 58  | 8.9  |     | 38  | 18.4 |     | 67  | 27.8 |     | 208 | 11.3 |     |
|    | 4   | 57  | 41.9 |     | 67  | 45.9 |     | 210 | 46.4 |     | 313 | 47.9 |     | 80  | 38.8 |     | 101 | 41.9 |     | 828 | 45.1 |     |
|    | 5   | 72  | 52.9 |     | 66  | 45.2 |     | 216 | 47.7 |     | 278 | 42.6 |     | 86  | 41.7 |     | 66  | 27.4 |     | 784 | 42.7 |     |
| 8  | 1   | 1   | 0.7  | 3.3 | 3   | 2.1  | 3.3 | 4   | 0.9  | 3.2 | 9   | 1.4  | 3.3 | 1   | 0.5  | 3.5 | 2   | 0.8  | 3.6 | 20  | 1.1  | 3.3 |
|    | 2   | 15  | 10.6 |     | 12  | 8.2  |     | 67  | 14.8 |     | 74  | 11.3 |     | 16  | 7.8  |     | 14  | 5.8  |     | 198 | 10.7 |     |
|    | 3   | 72  | 50.7 |     | 75  | 51.4 |     | 236 | 52.0 |     | 324 | 49.6 |     | 88  | 42.7 |     | 98  | 40.7 |     | 893 | 48.5 |     |
|    | 4   | 44  | 31.0 |     | 48  | 32.9 |     | 133 | 29.3 |     | 216 | 33.1 |     | 77  | 37.4 |     | 87  | 36.1 |     | 605 | 32.8 |     |
|    | 5   | 10  | 7.0  |     | 8   | 5.5  |     | 14  | 3.1  |     | 30  | 4.6  |     | 24  | 11.7 |     | 40  | 16.6 |     | 126 | 6.8  |     |
| 9  | 1   | 1   | 0.7  | 3.8 | 1   | 0.7  | 3.8 | 0   | 0.0  | 3.8 | 4   | 0.6  | 3.8 | 1   | 0.5  | 3.9 | 0   | 0.0  | 3.8 | 7   | 0.4  | 3.8 |
|    | 2   | 10  | 7.0  |     | 3   | 2.1  |     | 20  | 4.4  |     | 22  | 3.4  |     | 4   | 1.9  |     | 13  | 5.4  |     | 72  | 3.9  |     |
|    | 3   | 34  | 23.9 |     | 44  | 30.1 |     | 135 | 29.8 |     | 190 | 29.1 |     | 60  | 29.0 |     | 69  | 28.5 |     | 532 | 28.9 |     |
|    | 4   | 75  | 52.8 |     | 70  | 47.9 |     | 231 | 51.0 |     | 329 | 50.4 |     | 95  | 45.9 |     | 109 | 45.0 |     | 909 | 49.3 |     |
|    | 5   | 22  | 15.5 |     | 28  | 19.2 |     | 67  | 14.8 |     | 108 | 16.5 |     | 47  | 22.7 |     | 51  | 21.1 |     | 323 | 17.5 |     |
| 10 | 1   | 0   | 0.0  | 4.5 | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.5 | 1   | 0.2  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.3 | 1   | 0.1  | 4.4 |
|    | 2   | 1   | 0.7  |     | 1   | 0.7  |     | 0   | 0.0  |     | 5   | 0.8  |     | 0   | 0.0  |     | 3   | 1.2  |     | 10  | 0.5  |     |
|    | 3   | 8   | 5.6  |     | 8   | 5.5  |     | 26  | 5.7  |     | 49  | 7.5  |     | 18  | 8.7  |     | 43  | 17.1 |     | 152 | 8.2  |     |
|    | 4   | 56  | 39.4 |     | 64  | 43.8 |     | 196 | 43.2 |     | 285 | 43.6 |     | 86  | 41.5 |     | 92  | 36.7 |     | 779 | 42.0 |     |
|    | 5   | 77  | 54.2 |     | 73  | 50.0 |     | 232 | 51.1 |     | 314 | 48.0 |     | 103 | 49.8 |     | 113 | 45.0 |     | 912 | 49.2 |     |
| 11 | 1   | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.3 |
|    | 2   | 1   | 0.7  |     | 2   | 1.4  |     | 2   | 0.4  |     | 2   | 0.3  |     | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 7   | 0.4  |     |
|    | 3   | 13  | 9.2  |     | 11  | 7.5  |     | 35  | 7.7  |     | 70  | 10.8 |     | 24  | 11.6 |     | 34  | 13.9 |     | 187 | 10.2 |     |
|    | 4   | 52  | 36.6 |     | 61  | 41.8 |     | 227 | 50.2 |     | 319 | 49.2 |     | 104 | 50.2 |     | 125 | 51.0 |     | 888 | 48.3 |     |
|    | 5   | 76  | 53.5 |     | 72  | 49.3 |     | 188 | 41.6 |     | 257 | 39.7 |     | 79  | 38.2 |     | 86  | 35.1 |     | 758 | 41.2 |     |
| 12 | 1   | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.5 | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.1 | 1   | 0.4  | 3.9 | 1   | 0.1  | 4.3 |
|    | 2   | 1   | 0.7  |     | 1   | 0.7  |     | 1   | 0.2  |     | 1   | 0.2  |     | 1   | 0.5  |     | 2   | 0.8  |     | 7   | 0.4  |     |
|    | 3   | 20  | 14.2 |     | 7   | 4.9  |     | 31  | 6.9  |     | 71  | 10.9 |     | 40  | 19.3 |     | 71  | 29.3 |     | 240 | 13.1 |     |
|    | 4   | 51  | 36.2 |     | 48  | 33.8 |     | 198 | 43.8 |     | 296 | 45.6 |     | 104 | 50.2 |     | 115 | 47.5 |     | 812 | 44.3 |     |
|    | 5   | 69  | 48.9 |     | 86  | 60.6 |     | 222 |      |     |     |      |     |     |      |     |     |      |     |     |      |     |

# 小学校集計 役立ち度

| 設問 | 役立ち度 | 20代 |      |     | 30代 |      |     | 40代 |      |     | 50代 |      |     | 60代 |      |     | 70代 |      |     | 全体  |      |     |
|----|------|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|
|    |      | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  |
| 1  | 1    | 0   | 0.0  | 3.5 | 0   | 0.0  | 3.4 | 7   | 3.2  | 3.2 | 7   | 2.0  | 3.2 | 0   | 0.0  | 3.4 | 1   | 0.9  | 3.3 | 15  | 1.7  | 3.3 |
|    | 2    | 4   | 7.3  |     | 5   | 10.0 |     | 34  | 15.5 |     | 50  | 14.6 |     | 11  | 10.0 |     | 3   | 2.7  |     | 107 | 12.0 |     |
|    | 3    | 25  | 45.5 |     | 22  | 44.0 |     | 96  | 43.6 |     | 165 | 48.1 |     | 47  | 42.7 |     | 68  | 61.8 |     | 423 | 47.6 |     |
|    | 4    | 22  | 40.0 |     | 22  | 44.0 |     | 72  | 32.7 |     | 110 | 32.1 |     | 47  | 42.7 |     | 33  | 30.0 |     | 306 | 34.5 |     |
|    | 5    | 4   | 7.3  |     | 1   | 2.0  |     | 11  | 5.0  |     | 11  | 3.2  |     | 5   | 4.5  |     | 5   | 4.5  |     | 37  | 4.2  |     |
| 2  | 1    | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.0 | 2   | 0.6  | 3.8 | 0   | 0.0  | 3.9 | 0   | 0.0  | 3.8 | 2   | 0.2  | 3.9 |
|    | 2    | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 9   | 4.1  |     | 13  | 3.8  |     | 1   | 0.9  |     | 0   | 0.0  |     | 23  | 2.6  |     |
|    | 3    | 9   | 16.4 |     | 6   | 12.0 |     | 40  | 18.0 |     | 95  | 27.5 |     | 28  | 25.5 |     | 41  | 37.6 |     | 219 | 24.6 |     |
|    | 4    | 26  | 47.3 |     | 23  | 46.0 |     | 114 | 51.4 |     | 180 | 52.2 |     | 59  | 53.6 |     | 49  | 45.0 |     | 451 | 50.6 |     |
|    | 5    | 20  | 36.4 |     | 21  | 42.0 |     | 59  | 26.6 |     | 55  | 15.9 |     | 22  | 20.0 |     | 19  | 17.4 |     | 196 | 22.0 |     |
| 3  | 1    | 0   | 0.0  | 4.1 | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.1 | 4   | 1.2  | 3.8 | 0   | 0.0  | 3.9 | 0   | 0.0  | 3.6 | 4   | 0.4  | 3.9 |
|    | 2    | 1   | 1.8  |     | 0   | 0.0  |     | 3   | 1.4  |     | 12  | 3.5  |     | 2   | 1.8  |     | 4   | 3.6  |     | 22  | 2.5  |     |
|    | 3    | 10  | 18.2 |     | 9   | 18.0 |     | 38  | 17.3 |     | 95  | 27.6 |     | 26  | 23.6 |     | 41  | 36.9 |     | 219 | 24.6 |     |
|    | 4    | 27  | 49.1 |     | 22  | 44.0 |     | 116 | 52.7 |     | 164 | 47.7 |     | 65  | 59.1 |     | 57  | 51.4 |     | 451 | 50.7 |     |
|    | 5    | 17  | 30.9 |     | 19  | 38.0 |     | 63  | 28.6 |     | 69  | 20.1 |     | 17  | 15.5 |     | 9   | 8.1  |     | 194 | 21.8 |     |
| 4  | 1    | 0   | 0.0  | 4.5 | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.4 | 1   | 0.3  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.5 | 0   | 0.0  | 4.3 | 1   | 0.1  | 4.4 |
|    | 2    | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 3   | 1.4  |     | 4   | 1.2  |     | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 7   | 0.8  |     |
|    | 3    | 5   | 9.1  |     | 4   | 8.0  |     | 14  | 6.3  |     | 26  | 7.5  |     | 4   | 3.6  |     | 15  | 13.6 |     | 68  | 7.6  |     |
|    | 4    | 19  | 34.5 |     | 20  | 40.0 |     | 102 | 46.2 |     | 168 | 48.7 |     | 47  | 42.7 |     | 46  | 41.8 |     | 402 | 45.1 |     |
|    | 5    | 31  | 56.4 |     | 26  | 52.0 |     | 102 | 46.2 |     | 146 | 42.3 |     | 59  | 53.6 |     | 49  | 44.5 |     | 413 | 46.4 |     |
| 5  | 1    | 0   | 0.0  | 4.1 | 0   | 0.0  | 4.1 | 0   | 0.0  | 4.0 | 1   | 0.3  | 3.9 | 0   | 0.0  | 4.0 | 0   | 0.0  | 4.0 | 1   | 0.1  | 4.0 |
|    | 2    | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 4   | 1.8  |     | 5   | 1.4  |     | 0   | 0.0  |     | 2   | 1.8  |     | 11  | 1.2  |     |
|    | 3    | 13  | 23.6 |     | 9   | 18.0 |     | 51  | 23.3 |     | 82  | 23.8 |     | 26  | 23.6 |     | 24  | 21.8 |     | 205 | 23.1 |     |
|    | 4    | 23  | 41.8 |     | 26  | 52.0 |     | 106 | 48.4 |     | 188 | 54.5 |     | 53  | 48.2 |     | 54  | 49.1 |     | 450 | 50.6 |     |
|    | 5    | 19  | 34.5 |     | 15  | 30.0 |     | 58  | 26.5 |     | 69  | 20.0 |     | 31  | 28.2 |     | 30  | 27.3 |     | 222 | 25.0 |     |
| 6  | 1    | 0   | 0.0  | 4.5 | 0   | 0.0  | 4.6 | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 3.9 | 0   | 0.0  | 4.3 |
|    | 2    | 1   | 1.8  |     | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 2   | 1.8  |     | 3   | 0.3  |     |
|    | 3    | 3   | 5.5  |     | 4   | 8.0  |     | 14  | 6.3  |     | 29  | 8.4  |     | 14  | 12.7 |     | 31  | 28.2 |     | 95  | 10.7 |     |
|    | 4    | 17  | 30.9 |     | 14  | 28.0 |     | 106 | 47.7 |     | 186 | 53.9 |     | 52  | 47.3 |     | 53  | 48.2 |     | 428 | 48.0 |     |
|    | 5    | 34  | 61.8 |     | 32  | 64.0 |     | 102 | 45.9 |     | 130 | 37.7 |     | 44  | 40.0 |     | 24  | 21.8 |     | 366 | 41.0 |     |
| 7  | 1    | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.5 | 0   | 0.0  | 4.3 | 1   | 0.3  | 4.0 | 0   | 0.0  | 3.9 | 0   | 0.0  | 3.7 | 1   | 0.1  | 4.1 |
|    | 2    | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 2   | 0.9  |     | 5   | 1.4  |     | 1   | 0.9  |     | 1   | 0.9  |     | 9   | 1.0  |     |
|    | 3    | 6   | 10.9 |     | 4   | 8.0  |     | 23  | 10.4 |     | 63  | 18.3 |     | 23  | 20.9 |     | 39  | 35.5 |     | 158 | 17.7 |     |
|    | 4    | 19  | 34.5 |     | 16  | 32.0 |     | 108 | 48.6 |     | 193 | 55.9 |     | 69  | 62.7 |     | 60  | 54.5 |     | 465 | 52.1 |     |
|    | 5    | 30  | 54.5 |     | 30  | 60.0 |     | 89  | 40.1 |     | 83  | 24.1 |     | 17  | 15.5 |     | 10  | 9.1  |     | 259 | 29.0 |     |
| 8  | 1    | 0   | 0.0  | 3.7 | 1   | 2.0  | 3.9 | 5   | 2.3  | 3.5 | 0   | 0.0  | 3.6 | 0   | 0.0  | 3.6 | 0   | 0.0  | 3.5 | 6   | 0.7  | 3.6 |
|    | 2    | 2   | 3.6  |     | 1   | 2.0  |     | 10  | 4.5  |     | 19  | 5.5  |     | 1   | 0.9  |     | 2   | 1.8  |     | 35  | 3.9  |     |
|    | 3    | 20  | 36.4 |     | 11  | 22.0 |     | 95  | 42.8 |     | 140 | 40.7 |     | 45  | 40.9 |     | 55  | 50.5 |     | 366 | 41.1 |     |
|    | 4    | 26  | 47.3 |     | 26  | 52.0 |     | 90  | 40.5 |     | 156 | 45.3 |     | 56  | 50.9 |     | 45  | 41.3 |     | 399 | 44.8 |     |
|    | 5    | 7   | 12.7 |     | 11  | 22.0 |     | 22  | 9.9  |     | 29  | 8.4  |     | 8   | 7.3  |     | 7   | 6.4  |     | 84  | 9.4  |     |
| 9  | 1    | 0   | 0.0  | 3.6 | 0   | 0.0  | 3.8 | 1   | 0.5  | 3.7 | 2   | 0.6  | 3.6 | 0   | 0.0  | 3.8 | 0   | 0.0  | 3.6 | 3   | 0.3  | 3.7 |
|    | 2    | 2   | 3.6  |     | 1   | 2.0  |     | 13  | 5.9  |     | 13  | 3.8  |     | 2   | 1.8  |     | 2   | 1.9  |     | 33  | 3.7  |     |
|    | 3    | 23  | 41.8 |     | 17  | 34.0 |     | 67  | 30.3 |     | 132 | 38.4 |     | 36  | 33.0 |     | 47  | 43.5 |     | 322 | 36.3 |     |
|    | 4    | 25  | 45.5 |     | 25  | 50.0 |     | 114 | 51.6 |     | 166 | 48.3 |     | 48  | 44.0 |     | 50  | 46.3 |     | 428 | 48.3 |     |
|    | 5    | 5   | 9.1  |     | 7   | 14.0 |     | 26  | 11.8 |     | 31  | 9.0  |     | 23  | 21.1 |     | 9   | 8.3  |     | 101 | 11.4 |     |
| 10 | 1    | 0   | 0.0  | 4.0 | 0   | 0.0  | 4.1 | 0   | 0.0  | 3.9 | 3   | 0.9  | 3.9 | 0   | 0.0  | 4.1 | 0   | 0.0  | 3.9 | 3   | 0.3  | 3.9 |
|    | 2    | 2   | 3.6  |     | 0   | 0.0  |     | 6   | 2.7  |     | 5   | 1.4  |     | 0   | 0.0  |     | 0   | 0.0  |     | 13  | 1.5  |     |
|    | 3    | 11  | 20.0 |     | 6   | 14.3 |     | 51  | 23.2 |     | 79  | 22.9 |     | 23  | 20.9 |     | 30  | 27.0 |     | 200 | 22.7 |     |
|    | 4    | 29  | 52.7 |     | 26  | 61.9 |     | 121 | 55.0 |     | 206 | 59.7 |     | 58  | 52.7 |     | 66  | 59.5 |     | 506 | 57.3 |     |
|    | 5    | 13  | 23.6 |     | 10  | 23.8 |     | 42  | 19.1 |     | 52  | 15.1 |     | 29  | 26.4 |     | 15  | 13.5 |     | 161 | 18.2 |     |
| 11 | 1    | 0   | 0.0  | 3.5 | 1   | 2.0  | 3.8 | 4   | 1.8  | 3.6 | 2   | 0.6  | 3.7 | 0   | 0.0  | 3.9 | 0   | 0.0  | 4.0 | 7   | 0.8  | 3.7 |
|    | 2    | 5   | 9.1  |     | 0   | 0.0  |     | 5   | 2.3  |     | 11  | 3.2  |     | 3   | 2.8  |     | 0   | 0.0  |     | 24  | 2.7  |     |
|    | 3    | 21  | 38.2 |     | 12  | 24.0 |     | 86  | 38.7 |     | 122 | 35.5 |     | 29  | 26.6 |     | 29  | 26.6 |     | 299 | 33.6 |     |
|    | 4    | 25  | 45.5 |     | 30  | 60.0 |     | 105 | 47.3 |     | 159 | 46.2 |     | 54  | 49.5 |     | 51  | 46.8 |     | 424 | 47.7 |     |
|    | 5    | 4   | 7.3  |     | 7   | 14.0 |     | 22  | 9.9  |     | 50  | 14.5 |     | 23  | 21.1 |     | 29  | 26.6 |     | 135 | 15.2 |     |

## 中学校集計 役立ち度

| 設問 | 役立ち度 | 20代 |      |     | 30代 |      |     | 40代 |      |     | 50代 |      |     | 60代 |      |     | 70代 |      |     | 全体  |      |     |
|----|------|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|
|    |      | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  |
| 1  | 1    | 3   | 3.4  | 3.5 | 1   | 1.1  | 3.3 | 10  | 4.3  | 3.2 | 6   | 2.0  | 3.3 | 1   | 1.1  | 3.4 | 1   | 0.8  | 3.4 | 22  | 2.4  | 3.3 |
|    | 2    | 10  | 11.5 |     | 11  | 11.8 |     | 37  | 16.1 |     | 34  | 11.3 |     | 8   | 8.4  |     | 11  | 8.7  |     | 111 | 11.9 |     |
|    | 3    | 29  | 33.3 |     | 45  | 48.4 |     | 95  | 41.3 |     | 135 | 44.7 |     | 41  | 43.2 |     | 63  | 50.0 |     | 408 | 43.7 |     |
|    | 4    | 33  | 37.9 |     | 32  | 34.4 |     | 71  | 30.9 |     | 114 | 37.7 |     | 39  | 41.1 |     | 40  | 31.7 |     | 329 | 35.3 |     |
|    | 5    | 12  | 13.8 |     | 4   | 4.3  |     | 17  | 7.4  |     | 13  | 4.3  |     | 6   | 6.3  |     | 11  | 8.7  |     | 63  | 6.8  |     |
| 2  | 1    | 1   | 1.1  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.1 | 0   | 0.0  | 3.9 | 1   | 0.3  | 3.7 | 0   | 0.0  | 3.8 | 1   | 0.8  | 3.7 | 3   | 0.3  | 3.9 |
|    | 2    | 0   | 0.0  |     | 1   | 1.1  |     | 8   | 3.5  |     | 11  | 3.6  |     | 3   | 3.2  |     | 4   | 3.1  |     | 27  | 2.9  |     |
|    | 3    | 12  | 13.8 |     | 19  | 20.4 |     | 57  | 24.7 |     | 84  | 27.6 |     | 26  | 27.4 |     | 46  | 35.1 |     | 244 | 25.9 |     |
|    | 4    | 34  | 39.1 |     | 44  | 47.3 |     | 109 | 47.2 |     | 177 | 58.2 |     | 52  | 54.7 |     | 61  | 46.6 |     | 477 | 50.7 |     |
|    | 5    | 40  | 46.0 |     | 29  | 31.2 |     | 57  | 24.7 |     | 31  | 10.2 |     | 14  | 14.7 |     | 19  | 14.5 |     | 190 | 20.2 |     |
| 3  | 1    | 2   | 2.3  | 4.0 | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.0 | 1   | 0.3  | 3.8 | 0   | 0.0  | 3.7 | 1   | 0.8  | 3.6 | 4   | 0.4  | 3.9 |
|    | 2    | 1   | 1.1  |     | 0   | 0.0  |     | 9   | 3.9  |     | 11  | 3.6  |     | 3   | 3.2  |     | 7   | 5.5  |     | 31  | 3.3  |     |
|    | 3    | 17  | 19.5 |     | 17  | 18.3 |     | 50  | 21.7 |     | 77  | 25.4 |     | 33  | 34.7 |     | 52  | 40.6 |     | 246 | 26.3 |     |
|    | 4    | 43  | 49.4 |     | 44  | 47.3 |     | 100 | 43.5 |     | 165 | 54.5 |     | 44  | 46.3 |     | 53  | 41.4 |     | 449 | 48.0 |     |
|    | 5    | 24  | 27.6 |     | 32  | 34.4 |     | 71  | 30.9 |     | 49  | 16.2 |     | 15  | 15.8 |     | 15  | 11.7 |     | 206 | 22.0 |     |
| 4  | 1    | 1   | 1.1  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.2 | 1   | 0.3  | 4.1 | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.2 | 2   | 0.2  | 4.2 |
|    | 2    | 0   | 0.0  |     | 1   | 1.1  |     | 3   | 1.3  |     | 4   | 1.3  |     | 0   | 0.0  |     | 2   | 1.5  |     | 10  | 1.1  |     |
|    | 3    | 5   | 5.7  |     | 12  | 12.9 |     | 22  | 9.5  |     | 42  | 13.8 |     | 10  | 10.4 |     | 18  | 13.7 |     | 109 | 11.6 |     |
|    | 4    | 44  | 50.6 |     | 39  | 41.9 |     | 122 | 52.8 |     | 185 | 60.9 |     | 45  | 46.9 |     | 60  | 45.8 |     | 495 | 52.5 |     |
|    | 5    | 37  | 42.5 |     | 41  | 44.1 |     | 84  | 36.4 |     | 72  | 23.7 |     | 41  | 42.7 |     | 51  | 38.9 |     | 326 | 34.6 |     |
| 5  | 1    | 1   | 1.2  | 4.1 | 0   | 0.0  | 4.0 | 0   | 0.0  | 4.0 | 2   | 0.7  | 3.8 | 0   | 0.0  | 3.9 | 0   | 0.0  | 3.9 | 3   | 0.3  | 3.9 |
|    | 2    | 1   | 1.2  |     | 4   | 4.3  |     | 4   | 1.5  |     | 6   | 2.0  |     | 3   | 3.2  |     | 3   | 2.3  |     | 21  | 2.2  |     |
|    | 3    | 18  | 20.9 |     | 18  | 19.4 |     | 61  | 23.0 |     | 98  | 32.2 |     | 27  | 28.4 |     | 33  | 25.4 |     | 255 | 26.2 |     |
|    | 4    | 35  | 40.7 |     | 46  | 49.5 |     | 139 | 52.5 |     | 151 | 49.7 |     | 44  | 46.3 |     | 66  | 50.8 |     | 481 | 49.4 |     |
|    | 5    | 31  | 36.0 |     | 25  | 26.9 |     | 61  | 23.0 |     | 47  | 15.5 |     | 21  | 22.1 |     | 28  | 21.5 |     | 213 | 21.9 |     |
| 6  | 1    | 1   | 1.1  | 4.6 | 0   | 0.0  | 4.5 | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.1 | 0   | 0.0  | 4.1 | 0   | 0.0  | 4.0 | 1   | 0.1  | 4.2 |
|    | 2    | 1   | 1.1  |     | 0   | 0.0  |     | 2   | 0.9  |     | 4   | 1.3  |     | 1   | 1.0  |     | 2   | 1.5  |     | 10  | 1.1  |     |
|    | 3    | 0   | 0.0  |     | 11  | 11.8 |     | 17  | 7.4  |     | 47  | 15.5 |     | 17  | 17.7 |     | 25  | 19.2 |     | 117 | 12.4 |     |
|    | 4    | 31  | 35.6 |     | 27  | 29.0 |     | 108 | 46.8 |     | 157 | 51.8 |     | 50  | 52.1 |     | 68  | 52.3 |     | 441 | 46.9 |     |
|    | 5    | 54  | 62.1 |     | 55  | 59.1 |     | 104 | 45.0 |     | 95  | 31.4 |     | 28  | 29.2 |     | 35  | 26.9 |     | 371 | 39.5 |     |
| 7  | 1    | 1   | 1.1  | 4.5 | 0   | 0.0  | 4.3 | 1   | 0.5  | 4.1 | 1   | 0.3  | 3.8 | 1   | 1.0  | 3.8 | 0   | 0.0  | 3.7 | 4   | 0.4  | 4.0 |
|    | 2    | 1   | 1.1  |     | 0   | 0.0  |     | 4   | 1.8  |     | 7   | 2.3  |     | 5   | 5.2  |     | 6   | 4.6  |     | 23  | 2.5  |     |
|    | 3    | 6   | 6.9  |     | 16  | 17.2 |     | 34  | 15.3 |     | 74  | 24.3 |     | 27  | 28.1 |     | 47  | 36.2 |     | 204 | 21.9 |     |
|    | 4    | 28  | 32.2 |     | 32  | 34.4 |     | 115 | 51.8 |     | 180 | 59.2 |     | 46  | 47.9 |     | 62  | 47.7 |     | 463 | 49.7 |     |
|    | 5    | 51  | 58.6 |     | 45  | 48.4 |     | 68  | 30.6 |     | 42  | 13.8 |     | 17  | 17.7 |     | 15  | 11.5 |     | 238 | 25.5 |     |
| 8  | 1    | 1   | 1.1  | 4.0 | 0   | 0.0  | 3.7 | 2   | 0.9  | 3.6 | 2   | 0.7  | 3.6 | 1   | 1.0  | 3.6 | 2   | 1.6  | 3.4 | 8   | 0.9  | 3.6 |
|    | 2    | 0   | 0.0  |     | 5   | 5.4  |     | 20  | 8.7  |     | 14  | 4.6  |     | 3   | 3.1  |     | 7   | 5.6  |     | 49  | 5.2  |     |
|    | 3    | 23  | 26.4 |     | 31  | 33.3 |     | 74  | 32.0 |     | 116 | 38.3 |     | 38  | 39.6 |     | 67  | 53.2 |     | 349 | 37.3 |     |
|    | 4    | 38  | 43.7 |     | 40  | 43.0 |     | 99  | 42.9 |     | 153 | 50.5 |     | 42  | 43.8 |     | 40  | 31.7 |     | 412 | 44.0 |     |
|    | 5    | 25  | 28.7 |     | 17  | 18.3 |     | 36  | 15.6 |     | 18  | 5.9  |     | 12  | 12.5 |     | 10  | 7.9  |     | 118 | 12.6 |     |
| 9  | 1    | 2   | 2.3  | 3.7 | 0   | 0.0  | 3.8 | 1   | 0.4  | 3.7 | 1   | 0.3  | 3.6 | 0   | 0.0  | 3.7 | 1   | 0.8  | 3.7 | 5   | 0.5  | 3.7 |
|    | 2    | 4   | 4.6  |     | 0   | 0.0  |     | 12  | 5.2  |     | 14  | 4.6  |     | 2   | 2.1  |     | 4   | 3.1  |     | 36  | 3.8  |     |
|    | 3    | 32  | 36.8 |     | 34  | 36.6 |     | 77  | 33.2 |     | 130 | 42.8 |     | 35  | 36.5 |     | 47  | 36.4 |     | 355 | 37.7 |     |
|    | 4    | 33  | 37.9 |     | 41  | 44.1 |     | 102 | 44.0 |     | 129 | 42.4 |     | 48  | 50.0 |     | 64  | 49.6 |     | 417 | 44.3 |     |
|    | 5    | 16  | 18.4 |     | 18  | 19.4 |     | 40  | 17.2 |     | 30  | 9.9  |     | 11  | 11.5 |     | 13  | 10.1 |     | 128 | 13.6 |     |
| 10 | 1    | 3   | 3.4  | 3.9 | 0   | 0.0  | 3.9 | 0   | 0.0  | 3.9 | 0   | 0.0  | 3.6 | 0   | 0.0  | 3.7 | 1   | 0.8  | 3.9 | 4   | 0.4  | 3.8 |
|    | 2    | 2   | 2.3  |     | 2   | 2.2  |     | 5   | 2.2  |     | 12  | 3.9  |     | 2   | 2.1  |     | 2   | 1.5  |     | 25  | 2.7  |     |
|    | 3    | 22  | 25.3 |     | 29  | 31.2 |     | 60  | 25.9 |     | 118 | 38.8 |     | 34  | 35.4 |     | 30  | 23.1 |     | 293 | 31.1 |     |
|    | 4    | 37  | 42.5 |     | 36  | 38.7 |     | 115 | 49.6 |     | 144 | 47.4 |     | 50  | 52.1 |     | 74  | 56.9 |     | 456 | 48.4 |     |
|    | 5    | 23  | 26.4 |     | 26  | 28.0 |     | 52  | 22.4 |     | 30  | 9.9  |     | 10  | 10.4 |     | 23  | 17.7 |     | 164 | 17.4 |     |
| 11 | 1    | 3   | 3.4  | 3.5 | 1   | 1.1  | 3.6 | 1   | 0.4  | 3.6 | 1   | 0.3  | 3.6 | 0   | 0.0  | 3.7 | 1   | 0.8  | 4.0 | 7   | 0.7  | 3.7 |
|    | 2    | 5   | 5.7  |     | 6   | 6.5  |     | 18  | 7.8  |     | 18  | 5.9  |     | 2   | 2.1  |     | 3   | 2.3  |     | 52  | 5.5  |     |
|    | 3    | 33  | 37.9 |     | 37  | 39.8 |     | 87  | 37.5 |     | 123 | 40.6 |     | 36  | 37.5 |     | 32  | 25.0 |     | 348 | 37.1 |     |
|    | 4    | 34  | 39.1 |     | 38  | 40.9 |     | 98  | 42.2 |     | 115 | 38.0 |     | 46  | 47.9 |     | 54  | 42.2 |     | 385 | 41.0 |     |
|    | 5    | 12  | 13.8 |     | 11  | 11.8 |     | 28  | 12.1 |     | 46  | 15.2 |     | 12  | 12.5 |     | 38  | 29.7 |     | 147 | 15.7 |     |

## 全体集計 役立ち度

| 設問 | 役立ち度 | 20代 |      |     | 30代 |      |     | 40代 |      |     | 50代 |      |     | 60代 |      |     | 70代 |      |     | 全体  |      |     |
|----|------|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|
|    |      | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  | 人数  | %    | 平均  |
| 1  | 1    | 3   | 2.1  | 3.5 | 1   | 0.7  | 3.3 | 17  | 3.8  | 3.2 | 13  | 2.0  | 3.3 | 1   | 0.5  | 3.4 | 2   | 0.8  | 3.4 | 37  | 2.0  | 3.3 |
|    | 2    | 14  | 9.9  |     | 16  | 11.2 |     | 71  | 15.8 |     | 84  | 13.0 |     | 19  | 9.3  |     | 14  | 5.9  |     | 218 | 12.0 |     |
|    | 3    | 54  | 38.0 |     | 67  | 46.9 |     | 191 | 42.4 |     | 300 | 46.5 |     | 88  | 42.9 |     | 131 | 55.5 |     | 831 | 45.6 |     |
|    | 4    | 55  | 38.7 |     | 54  | 37.8 |     | 143 | 31.8 |     | 224 | 34.7 |     | 86  | 42.0 |     | 73  | 30.9 |     | 635 | 34.9 |     |
|    | 5    | 16  | 11.3 |     | 5   | 3.5  |     | 28  | 6.2  |     | 24  | 3.7  |     | 11  | 5.4  |     | 16  | 6.8  |     | 100 | 5.5  |     |
| 2  | 1    | 1   | 0.7  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.0 | 3   | 0.5  | 3.8 | 0   | 0.0  | 3.9 | 1   | 0.4  | 3.8 | 5   | 0.3  | 3.9 |
|    | 2    | 0   | 0.0  |     | 1   | 0.7  |     | 17  | 3.8  |     | 24  | 3.7  |     | 4   | 2.0  |     | 4   | 1.7  |     | 50  | 2.7  |     |
|    | 3    | 21  | 14.8 |     | 25  | 17.5 |     | 97  | 21.4 |     | 179 | 27.6 |     | 54  | 26.3 |     | 87  | 36.3 |     | 463 | 25.3 |     |
|    | 4    | 60  | 42.3 |     | 67  | 46.9 |     | 223 | 49.2 |     | 357 | 55.0 |     | 111 | 54.1 |     | 110 | 45.8 |     | 928 | 50.7 |     |
|    | 5    | 60  | 42.3 |     | 50  | 35.0 |     | 116 | 25.6 |     | 86  | 13.3 |     | 36  | 17.6 |     | 38  | 15.8 |     | 386 | 21.1 |     |
| 3  | 1    | 2   | 1.4  | 4.0 | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.0 | 5   | 0.8  | 3.8 | 0   | 0.0  | 3.8 | 1   | 0.4  | 3.6 | 8   | 0.4  | 3.9 |
|    | 2    | 2   | 1.4  |     | 0   | 0.0  |     | 12  | 2.7  |     | 23  | 3.6  |     | 5   | 2.4  |     | 11  | 4.6  |     | 53  | 2.9  |     |
|    | 3    | 27  | 19.0 |     | 26  | 18.2 |     | 88  | 19.6 |     | 172 | 26.6 |     | 59  | 28.8 |     | 93  | 38.9 |     | 465 | 25.5 |     |
|    | 4    | 70  | 49.3 |     | 66  | 46.2 |     | 216 | 48.0 |     | 329 | 50.9 |     | 109 | 53.2 |     | 110 | 46.0 |     | 900 | 49.3 |     |
|    | 5    | 41  | 28.9 |     | 51  | 35.7 |     | 134 | 29.8 |     | 118 | 18.2 |     | 32  | 15.6 |     | 24  | 10.0 |     | 400 | 21.9 |     |
| 4  | 1    | 1   | 0.7  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.3 | 0   | 0.0  | 4.3 | 2   | 0.3  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.3 | 3   | 0.2  | 4.3 |
|    | 2    | 0   | 0.0  |     | 1   | 0.7  |     | 6   | 1.3  |     | 8   | 1.2  |     | 0   | 0.0  |     | 2   | 0.8  |     | 17  | 0.9  |     |
|    | 3    | 10  | 7.0  |     | 16  | 11.2 |     | 36  | 8.0  |     | 68  | 10.5 |     | 14  | 6.8  |     | 33  | 13.7 |     | 177 | 9.7  |     |
|    | 4    | 63  | 44.4 |     | 59  | 41.3 |     | 224 | 49.6 |     | 353 | 54.4 |     | 92  | 44.7 |     | 106 | 44.0 |     | 897 | 48.9 |     |
|    | 5    | 68  | 47.9 |     | 67  | 46.9 |     | 186 | 41.2 |     | 218 | 33.6 |     | 100 | 48.5 |     | 100 | 41.5 |     | 739 | 40.3 |     |
| 5  | 1    | 1   | 0.7  | 4.1 | 0   | 0.0  | 4.0 | 0   | 0.0  | 4.0 | 3   | 0.5  | 3.9 | 0   | 0.0  | 4.0 | 0   | 0.0  | 4.0 | 4   | 0.2  | 3.9 |
|    | 2    | 1   | 0.7  |     | 4   | 2.8  |     | 8   | 1.7  |     | 11  | 1.7  |     | 3   | 1.5  |     | 5   | 2.1  |     | 32  | 1.7  |     |
|    | 3    | 31  | 22.0 |     | 27  | 18.9 |     | 112 | 23.1 |     | 180 | 27.7 |     | 53  | 25.9 |     | 57  | 23.8 |     | 460 | 24.7 |     |
|    | 4    | 58  | 41.1 |     | 72  | 50.3 |     | 245 | 50.6 |     | 339 | 52.2 |     | 97  | 47.3 |     | 120 | 50.0 |     | 931 | 50.0 |     |
|    | 5    | 50  | 35.5 |     | 40  | 28.0 |     | 119 | 24.6 |     | 116 | 17.9 |     | 52  | 25.4 |     | 58  | 24.2 |     | 435 | 23.4 |     |
| 6  | 1    | 1   | 0.7  | 4.5 | 0   | 0.0  | 4.5 | 0   | 0.0  | 4.4 | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.2 | 0   | 0.0  | 4.0 | 1   | 0.1  | 4.3 |
|    | 2    | 2   | 1.4  |     | 0   | 0.0  |     | 2   | 0.4  |     | 4   | 0.6  |     | 1   | 0.5  |     | 4   | 1.7  |     | 13  | 0.7  |     |
|    | 3    | 3   | 2.1  |     | 15  | 10.5 |     | 31  | 6.8  |     | 76  | 11.7 |     | 31  | 15.0 |     | 56  | 23.3 |     | 212 | 11.6 |     |
|    | 4    | 48  | 33.8 |     | 41  | 28.7 |     | 214 | 47.2 |     | 343 | 52.9 |     | 102 | 49.5 |     | 121 | 50.4 |     | 869 | 47.4 |     |
|    | 5    | 88  | 62.0 |     | 87  | 60.8 |     | 206 | 45.5 |     | 225 | 34.7 |     | 72  | 35.0 |     | 59  | 24.6 |     | 737 | 40.2 |     |
| 7  | 1    | 1   | 0.7  | 4.5 | 0   | 0.0  | 4.4 | 1   | 0.2  | 4.2 | 2   | 0.3  | 3.9 | 1   | 0.5  | 3.8 | 0   | 0.0  | 3.7 | 5   | 0.3  | 4.0 |
|    | 2    | 1   | 0.7  |     | 0   | 0.0  |     | 6   | 1.4  |     | 12  | 1.8  |     | 6   | 2.9  |     | 7   | 2.9  |     | 32  | 1.8  |     |
|    | 3    | 12  | 8.5  |     | 20  | 14.0 |     | 57  | 12.8 |     | 137 | 21.1 |     | 50  | 24.3 |     | 86  | 35.8 |     | 362 | 19.8 |     |
|    | 4    | 47  | 33.1 |     | 48  | 33.6 |     | 223 | 50.2 |     | 373 | 57.5 |     | 115 | 55.8 |     | 122 | 50.8 |     | 928 | 50.9 |     |
|    | 5    | 81  | 57.0 |     | 75  | 52.4 |     | 157 | 35.4 |     | 125 | 19.3 |     | 34  | 16.5 |     | 25  | 10.4 |     | 497 | 27.2 |     |
| 8  | 1    | 1   | 0.7  | 3.9 | 1   | 0.7  | 3.8 | 7   | 1.5  | 3.6 | 2   | 0.3  | 3.6 | 1   | 0.5  | 3.6 | 2   | 0.9  | 3.5 | 14  | 0.8  | 3.6 |
|    | 2    | 2   | 1.4  |     | 6   | 4.2  |     | 30  | 6.6  |     | 33  | 5.1  |     | 4   | 1.9  |     | 9   | 3.8  |     | 84  | 4.6  |     |
|    | 3    | 43  | 30.3 |     | 42  | 29.4 |     | 169 | 37.3 |     | 256 | 39.6 |     | 83  | 40.3 |     | 122 | 51.9 |     | 715 | 39.2 |     |
|    | 4    | 64  | 45.1 |     | 66  | 46.2 |     | 189 | 41.7 |     | 309 | 47.8 |     | 98  | 47.6 |     | 85  | 36.2 |     | 811 | 44.4 |     |
|    | 5    | 32  | 22.5 |     | 28  | 19.6 |     | 58  | 12.8 |     | 47  | 7.3  |     | 20  | 9.7  |     | 17  | 7.2  |     | 202 | 11.1 |     |
| 9  | 1    | 2   | 1.4  | 3.6 | 0   | 0.0  | 3.8 | 2   | 0.4  | 3.7 | 3   | 0.5  | 3.6 | 0   | 0.0  | 3.8 | 1   | 0.4  | 3.6 | 8   | 0.4  | 3.7 |
|    | 2    | 6   | 4.2  |     | 1   | 0.7  |     | 25  | 5.5  |     | 27  | 4.2  |     | 4   | 2.0  |     | 6   | 2.5  |     | 69  | 3.8  |     |
|    | 3    | 55  | 38.7 |     | 51  | 35.7 |     | 144 | 31.8 |     | 262 | 40.4 |     | 71  | 34.6 |     | 94  | 39.7 |     | 677 | 37.0 |     |
|    | 4    | 58  | 40.8 |     | 66  | 46.2 |     | 216 | 47.7 |     | 295 | 45.5 |     | 96  | 46.8 |     | 114 | 48.1 |     | 845 | 46.2 |     |
|    | 5    | 21  | 14.8 |     | 25  | 17.5 |     | 66  | 14.6 |     | 61  | 9.4  |     | 34  | 16.6 |     | 22  | 9.3  |     | 229 | 12.5 |     |
| 10 | 1    | 3   | 2.1  | 3.9 | 0   | 0.0  | 4.0 | 0   | 0.0  | 3.9 | 3   | 0.5  | 3.8 | 0   | 0.0  | 3.9 | 1   | 0.4  | 3.9 | 7   | 0.4  | 3.9 |
|    | 2    | 4   | 2.8  |     | 2   | 1.5  |     | 11  | 2.4  |     | 17  | 2.6  |     | 2   | 1.0  |     | 2   | 0.8  |     | 38  | 2.1  |     |
|    | 3    | 33  | 23.2 |     | 35  | 25.9 |     | 111 | 24.6 |     | 197 | 30.4 |     | 57  | 27.7 |     | 60  | 24.9 |     | 493 | 27.0 |     |
|    | 4    | 66  | 46.5 |     | 62  | 45.9 |     | 236 | 52.2 |     | 350 | 53.9 |     | 108 | 52.4 |     | 140 | 58.1 |     | 962 | 52.7 |     |
|    | 5    | 36  | 25.4 |     | 36  | 26.7 |     | 94  | 20.8 |     | 82  | 12.6 |     | 39  | 18.9 |     | 38  | 15.8 |     | 325 | 17.8 |     |
| 11 | 1    | 3   | 2.1  | 3.5 | 2   | 1.4  | 3.7 | 5   | 1.1  | 3.6 | 3   | 0.5  | 3.7 | 0   | 0.0  | 3.8 | 1   | 0.4  | 4.0 | 14  | 0.8  | 3.7 |
|    | 2    | 10  | 7.0  |     | 6   | 4.2  |     | 23  | 5.1  |     | 29  | 4.5  |     | 5   | 2.4  |     | 3   | 1.3  |     | 76  | 4.2  |     |
|    | 3    | 54  | 38.0 |     | 49  | 34.3 |     | 173 | 38.1 |     | 245 | 37.9 |     | 65  | 31.7 |     | 61  | 25.7 |     | 647 | 35.4 |     |
|    | 4    | 59  | 41.5 |     | 68  | 47.6 |     | 203 | 44.7 |     | 274 | 42.3 |     | 100 | 48.8 |     | 105 | 44.3 |     | 809 | 44.3 |     |
|    | 5    | 16  | 11.3 |     | 18  | 12.6 |     | 50  | 11.0 |     | 96  | 14.8 |     | 35  | 17.1 |     | 67  | 28.3 |     | 282 | 15.4 |     |

## お わ り に

研修委員会が発足した当初の会議録を見ると、秋田県の教育に思いを寄せる熱を帯びた議論が噴出していたのが分かります。以来足かけ4年を経て「学習指導に関するアンケート調査」を実施し、分析を重ねた結果、県退職校長会結成50周年記念誌として、ようやくまとまりを迎えることができました。表題を『秋田の教育 あすを見つめて』とすることで、学習指導に邁進してきた「秋田の教師」と、さらにあすに向かって前進するであろう「秋田の教師」に焦点を当て、「あきたブランド」を創造してきた教師たちの姿を捉えることができました。

最後に、この事業に参加いただいた会員をはじめ、諸機関及び現職教師に感謝の気持ちを表しつつ、「研修委員」を紹介し、「研修委員会開催歴」を記したいと思います。

### ◆研修委員会委員◆

佐藤俊彦（会長・前期研修委員長） 高橋一郎（副会長・後期研修委員長）

渡辺一郎（前期） 高田 均（後期） 伊藤栄二（全期） 鶴田悦子（後期） 長澤公生（全期）

加賀谷宗篤（前期） 三條正弘（全期） 藤原 茂（後期） 米澤喜彦（全期） 佐藤 淳（後期）

### 研修委員会開催歴（アンケート作成委員会も含む）

|               |             |           |               |
|---------------|-------------|-----------|---------------|
| 第1回研修委員会      | 平成28年12月17日 | 第11回研修委員会 | 平成30年11月17日   |
| 第2回研修委員会      | 平成29年1月21日  | 第12回研修委員会 | 平成30年12月22日   |
| 第3回研修委員会      | 平成29年2月25日  | 第13回研修委員会 | 平成31年1月19日    |
| 第1回アンケート作成委員会 | 平成29年3月18日  | 第14回研修委員会 | 平成31年3月2日     |
| 第2回アンケート作成委員会 | 平成29年4月8日   | 第15回研修委員会 | 平成31年3月23日    |
| 第4回研修委員会      | 平成29年4月22日  | 第16回研修委員会 | 平成31年4月13日    |
| 第3回アンケート作成委員会 | 平成29年5月20日  | 第17回研修委員会 | 平成31年4月27日    |
| 第5回研修委員会      | 平成29年5月27日  | 第18回研修委員会 | 令和元年5月18日     |
| 第4回アンケート作成委員会 | 平成30年3月21日  | 第19回研修委員会 | 令和元年6月30日     |
| 第6回研修委員会      | 平成30年3月31日  | 第20回研修委員会 | 令和元年7月27日     |
| 第7回研修委員会      | 平成30年5月19日  | 第21回研修委員会 | 令和元年8月24日     |
| 第8回研修委員会      | 平成30年6月23日  | 第22回研修委員会 | 令和元年9月9日      |
| 第9回研修委員会      | 平成30年7月28日  | 第23回研修委員会 | 令和元年9月28日     |
| 第10回研修委員会     | 平成30年8月25日  | 第24回研修委員会 | 令和元年11月9日（予定） |

---

## 秋田の教育 あすを見つめて 「あきたブランド」創造の教師たち

発行日 2019年（令和元年）10月12日

編集・発行 秋田県退職校長会

〒010-8502 秋田市手形学園町1-1 秋田大学教育文化学部「旭水会」内

TEL・FAX 018-831-2783

印刷 秋田印刷製本株式会社

---

